

論文

スポーツによるアントレプレナーシップ 教育プログラムの事例報告 ～海外女子サッカーツアーの継続的实施と キャリアマネジメントについて～

宮崎 純一

キーワード

教育プログラム

キャリアマネジメント

女子サッカー

目次

- はじめに
 - 先行研究
 - 女子サッカーとジェンダー平等への取り組み
 - 共生社会とスポーツの役割
 - Bridge について
 - 海外女子サッカーツアー プログラム概要
 - Bridge2025 海外ツアー視察
 - Bridge 創始者のライフヒストリー分析
 - Bridge 参加者のライフヒストリー分析
 - オール青山スポーツコミュニティ活動と DEI への関り
 - 青山学院の取り組み
 - IMG アカデミー視察
 - まとめ
- 参考文献
参照サイト
参考資料

1 はじめに

「『女性だから、女性らしく振る舞わなければならない』、『女性だから、ある年齢になったら結婚しなければならないし、子どもも産まなければいけない』、『女性はか弱く、できないことが多い』 こうした言葉や価値観は、かつての日本社会では当たり前のよう存在していました。」

本研究の対象となる海外女子サッカーツアー等を主催する Bridge の創始者のひとり羽石架苗氏の本稿へのメッセージの一部である。羽石氏も初期の海外ツアーに2回にわたり参加して、海外留学を果たし、サッカー選手としての実力と研究成果を評価され、現在はアメリカの大学で教鞭をとるサッカー指導者である。自身の経験を日本の女性アスリートに伝え、発展させてほしいという強い想いを持っている。続けてこのような問題意識に対する活動への意義を記している。

「しかし、男女平等の考え方が大きく進展した現代においても、いまだに『女性だから』という固定観念に縛られる場面が少なくありません。そんな日本の現状に対して、私たちはスポーツの力で、私たちが愛するサッカーというスポーツを使って、できることからやっていきたいと考えてきました。女子サッカーというフィールドを通じて、世界を見てほしい。広い視野を持ち、自分の可能性を自分で制限せずに挑戦してほしい。社会の期待や周囲の声に縛られず、自分の意志で人生を切り開いてほしい。」

まさに、羽石氏がスポーツを通して実践してきた取り組みの目的とすることだった。

「社会の既成概念にとらわれずに生きられる女性、自分が納得できない不正義（Injustice）に対して勇気をもって声をあげられる女性、そして周囲の人を巻き込みながら社会的な変革を起こせるような力強い女性が増えていくことを心から願っています。自分の『好き』や『夢』を世界につなげて行ってほしい。」

Bridge 海外女子サッカーツアーは、長年にわたり各界に日本の女性リーダーを輩出し続けている。1994年から31年にわたり、40回の海外女子サッカーツアーを企画・実施し、のべ500名を超える女子アスリートが参加し、多くのアメリカの大学へ留学生を派遣している。研修は例年、国内各種学校の春休みにあたる2月から3月に1週間から10日間に及ぶ。当初は欧州を含むプログラムであったが近年はアメリカ合衆国（以下アメリカ）の各都市を訪れ対外試合、対戦相手との交流、現地視察、大学授業参加など多岐に渡る。

その理由として、もう一人の主催者である小林美由紀氏の参加者に対する海外留学への強

い推奨が影響している。自身も大学在学時に1年間、その後大学院でもアメリカ留学を経験しアメリカサッカーとその文化に魅せられた。以下は小林氏のインタビューでの発言からの引用となる。

「当初は英語の先生になるためにアメリカに留学したのですが、その留学が女子サッカーにはまるきっかけになりました。留学先の大学にたまたまサッカー部があって入部したところ、日本とはまるで環境が違いました。監督がいて、グラウンドがある。遠征費用もすべて出してもらえて、ユニフォームの洗濯までお願いできる。そんな充実した環境にすごくショックを覚えました。アメリカでは、サッカーは女子スポーツの中でもトップの人気を誇ります。日本でも女子サッカーを前に進めたい、女の子が自由にサッカーをできるようにしたい」

そして、当時の留学先の選手達との交流も、大きな要因となったようである。心理学専攻であった小林氏が研究テーマにジェンダーロール問題を選んだことも、アメリカでのサッカー経験に基づいた日本の女性たちへの強いメッセージだった。

「大学時代にアメリカで出会った選手たちには夢があって、それがすごく羨ましかったんです。日本の女子選手も選手生活を終えたあとに指導者になる夢を持って欲しいと思っていました」

「実家にいた時に、母親から『女性なんだから家事をしなさい』と言われるのが嫌で、いつも『姉妹の年上だから、という理由ならやるけど、女だから、という理由ならやらない』と答えていたんですよ。それで、男女の性役割（ジェンダーロール）にはもともと興味があったので、大学で心理学も勉強したいと思っていました。それに加えて、サッカーをやったことでスイッチが入ってしまって。4年生の卒論は、『日米の女性アスリートの性役割』をテーマにしました」

本研究は、継続的に実施される女子サッカーの海外体験ツアーである Bridge を通して、スポーツによるアントレプレナーシップ教育への応用を検証するとともに現地視察および行動観察、参加者への聞き取り、主催者へのインタビュー、アンケート調査により女性リーダーシップ養成プログラムの有用性を考察することを目的としている。また、30年にわたり、社会情勢、スポーツ環境が変化する中で当初から変わらぬ到達目標に向け活動を続けてきた人材育成、キャリアマネジメントを詳細に分析し、より発展的なプログラムとして汎用され、その知見を多くのアスリートに共有されることを願うものである。

2 先行研究

2-1 女子サッカーとジェンダー平等への取り組み

女子サッカーが長年にわたり他の女性スポーツ同様に、あるいはそれ以上に競技実施に制限を設けられてきた歴史を有する。1930年代には各国で女性がサッカーをすることが禁止され、多くのサッカーを愛する女性たちの戦いの末に1970年代になってその解除と大会の開催を勝ち取った¹⁸⁾。その後、急速な勢いで発展を遂げた女子サッカーは、1988年非公式ではあるが世界大会であるFIFA女子ワールドカップ中国大会が開催され、1996年アトランタオリンピックでは女子サッカーが正式競技として加わった。2001年欧州女子チャンピオンズリーグが開始されると各国のトップリーグも整備され、2011年にはイングランドでプロ化を目指したFAスーパーリーグが始まり、2013年にはアメリカにおいてプロ女子サッカーリーグであるNWSL（National women's Soccer League）が開始された。そして、2022年3月にスペイン・バルセロナで開催された欧州女子チャンピオンズリーグ準々決勝、FCバルセロナ対レアル・マドリードの試合では、女子サッカー観客数世界記録となる91,553人が来場した。近年、このような観客動員数の増加は、女子サッカーを投資対象として注目される競技へと変貌を遂げつつある⁷⁾。

その競技環境の改善と発展はジェンダー平等やフェミニズムの台頭など女性の社会的立場を改善しようとする「女性たちの闘い」¹⁸⁾にスポーツが大いに関わってきたことを象徴している。いっぽうで国内に目を向けると、女性スポーツの環境は依然として男性スポーツの後塵を拝する傾向は長年続いている。そのような中でも、2011年にはドイツで開催されたFIFA女子ワールドカップでアメリカを相手に初優勝を果たした。しかしながら直後のサッカー人気を女子サッカーの躍進につなげるまでには至らなかった。アメリカ、欧州の事例に比すると女性の社会的地位向上への活動は依然として途上である。2022年には、国内女子サッカープロリーグのWEリーグが女性活躍社会実践という理念を掲げスタートした。当初、女性の理事長（チェア）を選出し、意志決定機関である理事会の半数以上を女性で構成し、Women Empowerment Leagueというリーグ名称から、女性のエンパワーメントを理念に掲げて設立された。その規約に示された目的の一つには、「女性活躍社会を牽引し、女子サッカーやスポーツを通じて、人々が男女関係なく、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献すること」を掲げている。しかし、2024年9月の改選では、チェアに初めて男性が就任し、理事9名のうち女性が3名となり、WEリーグの女性役員の割合が大きく後退した。この発表を受けて国内だけではなく海外関連団体からの指摘も公開された。日本スポーツとジェンダー学会（JSSGS）理事会コメントとして「WEリーグは2021年7月1日に公益社団法人として認定されており、公益性が強く求められる組織

として、男女共同参画社会基本法の精神に則ることが必要です。また、女性役員割合を40%以上とすることを定めたスポーツ庁の「スポーツ団体ガバナンスコード」にも反しています。」としている。また、WomenSport International (WSI) から声明が示され「重要なのは、3人の男性役員を加えることでリーグの財政見通しが大幅に変わることを示すデータはないということです。逆に、スポーツ界のリーダーシップにおける女性の割合が低いと、関係者全員に悪影響が及ぶという十分な証拠があります。意思決定の場における女性の声が弱まることは、男女平等の進展を逆行させる恐れがあり、特に女性リーダーの育成を目的として設立されたWEリーグにおいてはなおさらです。」といった内容である。WSIは、スポーツや身体活動に関わるあらゆるレベルの少女と女性の機会を向上させることを使命とする擁護団体で、国連経済社会理事会の諮問資格を有する2つの女性とスポーツ団体のうちの1つであることを声明文の冒頭で明示している。既存のスポーツビジネスあるいはスポーツマネジメントの常識の枠を超え、発展性を求める理念追及への取り組みが新しい道を構築する手掛かりとなるのではないか。

2-2 共生社会とスポーツの役割

2024年に開催されたオリンピック競技大会（パリ2024五輪）では、参加選手数が近代オリンピック史上初めて男女同数となった。女性の参加が禁止されていた第1回大会（アテネ1896年大会）から128年の時を経て、ついに男女同数が実現した。荒井¹⁾はこの傾向をとらえ「多様性の観点から女性に限らず障害のある人々やトランスジェンダーの人々も包括すべきである」と示唆している。いっぽうでは、フランス選手団の女性選手のスカーフ（ヒジャブ）使用禁止が宗教習慣に基づく女性の「個人の選択の自由」を剥奪する行為であると問題視された。IOCの掲げるスポーツによるジェンダー平等推進の難しさ、議論の余地があることを示す出来事であった。グローバルサウスにおけるジェンダーとスポーツに関連する野口²⁾の報告には、強い意志と勇気を持った女性たちによる個人の選択がこれらの課題を解決するための入り口となる示唆に富んだ一節がある。「2023年にインドネシアのスポーツをする女子大生のグループに女性のスポーツ参加を阻害する要因について尋ねた。女子大生たちは、家庭内の家事・育児が阻害要因であると述べた。女性が家事と育児を担うのは、ムスリムとしてもインドネシアとしても文化であり、規範であるとの認識であった。その会話の中で『私たちは文化は変えられない。でも認識は時間をかけて変えることが出来る』と述べていたことが印象に残っている」と記し、政策、スポーツなど様々な施策を用いる中でも、その選択は個人の選択に委ねられ、その決断、判断、勇気を醸成する取り組みこそが重要であることが再認識される。

国内では 2011 年に施行されたスポーツ基本法に「スポーツはスポーツを行う者に対し、不当に差別扱いをせず」と記されている。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の大会ビジョンに多様性というキーワードを示したことは、共生社会とスポーツの役割を果たすことに影響したと日比野²⁾は注目している。これに続く第 3 期 2022 年のスポーツ基本計画（スポーツ庁・文部科学省 2022 年）には「共生社会の実現」や「多様な主体によるスポーツ参画の促進」が継承され、重点施策として打ち出された。ここで日比野は、共生社会を「誰もがスポーツに楽しみ挑戦できる社会」と定義し、近年国内でも Diversity（多様性）、Equity（公正／公平性）、Inclusion（包摂／包括性）を示した DEI を政策課題として、共生社会の在り方をようやくスポーツ界で議論されるようになったと指摘している。そして、具体的な施策としてサッカー界の取り組みを例示している。公益財団法人日本サッカー協会（JFA）は、2024 年にアクセス・フォー・オール宣言を示し、グラスルーツからエリートまで誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる多様な「機会」と「選択肢」を確実に届けることをサッカー界の行動指針とした。次に世界的な動向として例示したのは世界サッカー連盟（FIFA）が 2017 年に Human Rights Policy（人権政策）である。その冒頭には「FIFA は国際的に認められた人権を尊重することを約束し、これらの権利の保護を推進するよう努めます」と記し、FIFA の人権に対する方向性を明示した。さらに FIFA は Strategic Objectives for the Global Game、2023-2027 年戦略第 6 章社会的責任の中で「人権」を強調し、これまで明確な連携がなされていなかった障がい者サッカーについてダイバーシティ&インクルージョンに向けた具体的な施策を 2025 年より実施している。このような状況がある反面、共生社会、DEI という概念は政治的背景に左右されやすくスポーツもまたしかりであるとしながらも、「スポーツこそ共生社会構築の先駆となるべき」と指摘しその可能性に期待を込めた。

鈴木¹³⁾は、「ダイバーシティ」、「ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）」、「DEI」などの社会構想に向けたスローガンの歴史的、思想的背景を考察した興味深い報告をしている。これらの用語はアメリカの企業経営の文脈で広まり、その後日本でも市民権を得た概念であると指摘する。Hunt ら³⁾による、多様性こそが企業の生産性に有効であるという定義に基づき、『ダイバーシティ経営』はジェンダーやエスニシティの多様性と企業の業績に強い相関性が認められるという理論に基づく施策であった。公民権運動の応答として 1980 年代に広がったアファーマティブ・アクション（雇用における人種差別や女性差別を是正する措置）に対し、特定の属性に対する優遇措置は逆差別であるとの批判を受けて、組織力の向上と競争優位のための経営手法という論理と共に、1990 年代に登場したのがダイバーシティ経営であるという¹⁹⁾。2000 年代初頭になると、ダイバーシティとインクルージョンが併記

される用例が増え¹⁰⁾、多様な属性の人を組織に取り込む (to include) という親和性のある2つの概念を用いて、障がい者や性的少数者など多様な対象を取りこむ広がりを示した。これに Equity (公正) が加えられるのは、2020年前後の Black Lives Matter (BLM) 運動が多大な影響を与えていると柳¹⁹⁾は指摘する。このような「D」から、「D&I」へ、そして「DEI」という変化は、構造的な人種差別に色づけられたアメリカ社会という文脈に強く依存したものであったと鈴木¹⁹⁾は考察している。

続いて鈴木は報告の中で、欧州の社会政策におけるソーシャル・インクルージョン (社会的包摂) を振り返っている。1990年代後半に欧州の社会政策の目標として示された包摂の概念は、その後グローバルな課題として持続可能な開発目標 (SDGs) において「誰一人取り残さない (Leave No One Behind)」という標語と共にインクルージョンの思想を端的に表している。鈴木¹³⁾、の報告による「スポーツの可能性」に対する考察は興味深く、「スポーツを通じた包摂は先鋭的な討議の形式を常に必要とするわけではなく、むしろ日常的で親密な場での対話的な相互行為としてのスポーツこそ、持続的で実効的な包摂のための討議の場になりうる」とし、ダイバーシティサッカーを実践している。さらにダイバーシティサッカー協会の活動に触れ「包摂を目指したスポーツ実践は、その第一歩として特定の特性を共有する人たちを対象にする場合が多い」とし、そうした個別特性ごとに形成された居場所 (コミュニティ) を横断的に繋ぐ形で国内大会を実施するという。また、大会を重ねる中で「『自立』とは『一人で生きること』ではなくて、どんな時でも自分らしさを認めてくれる他者がいて、はじめて可能になることなのでしょう¹⁴⁾」と、居場所としてのスポーツを通じたコミュニティと多様なコミュニティ間の交流の重要性を示唆している。加えて、このような取り組みから導き出される解として以下のように考察している。「多様な社会的困難を抱えた人たちが一緒にフットサルをする。そこで始まる試行錯誤は『みんなが楽しめる』ルールを話し合うことであったり、自然に配慮しあうことによる、包み込むような新しい秩序であったりする。言語的にせよ、非言語的にせよこれこそ民主的な討議に他ならない」という見解を示している。スポーツは遊びであるという原点を顧みる視点から「これは多くの人が幼少期に遊びの中で自然とやってきたことではないだろうか。仲間外れを生まないように遊ぼうとするとき、その場の誰もが楽しいと思えるように遊び方を変えていくしかない。(中略) スポーツが遊びであることを思い出すことは、スポーツが多様性を包摂する公正な社会に貢献する筋道になるのかもしれない」とスポーツ活動の可能性を意義深く考察している。

3 Bridge について

3-1 海外女子サッカーツアー プログラム概要

本研究の対象となる「Bridge 海外女子サッカーツアー」は、2025 年 3 月実施活動で 30 年を超える歴史を持つプログラムである。公式サイトに記載のある活動概要では「アメリカの大学で奨学金をもらってサッカーをやりたい日本女子サッカー選手をサポートします。」から始まり、「アメリカ大学サッカーのトップレベルに挑戦したい選手から、今まで自分が情熱を注いできたサッカーを生かして、奨学金をもらい将来の目標に向かってアメリカで勉強したい選手まで、アメリカサッカーに興味のある日本女子選手は、Bridge に相談して、憧れから現実への一步を踏み出してください。」と幅広い目的でアメリカサッカーに挑戦したいと考える女子アスリートの背中を押し、自分の意志で前進しようとする気持ちを喚起している。そして、長く継続している要因は最後の一説に集約されている。「基本的に『自分の力でサッカー留学を実現したい』女子サッカー選手のためのものです。経験やコネクションが必要な奨学金交渉等は、Bridge が仲介に入りますが、その他、大学の情報や留学に必要な事をインターネットで調べたり、大学チームの監督と E メールで連絡を取ったりと、選手本人が自主的に行動してもらうこと、そして入学後の責任は選手本人のもとにあることを前提とします。」と、自分の意志と目的が最優先であり、押し付けられたり、言われるがままに流されること無く、あくまでも自分で道を切り開いていくパワーとスキルを育成することを目標とさせている。

そして、底抜けに明るく逞しい二人の Bridge 創始者の紹介と共に記載されている設立経緯は、参加者たちに一步踏み出す勇気と楽しさを抱かせる熱量を感じる。創始者のひとりである小林美由紀氏とは大学時代から親交があり本研究の考察に応用可能な行動観察は 40 年を超え、必要十分な時間を確保していることをまず報告する。同時に不要なバイアスを除去することを心がけて考察を進めるものとする。

「創始の経緯：Bridge を始めたのは、サッカーをこよなく愛する女性二人。ひとりは、日本の女子サッカー界では、知る人ぞ知る『みーみ』こと、小林美由紀（こばやしみゆき）。サッカーがやりたいばかりに、大学で女子サッカー部を作り、大学リーグを作り、地元クラブチームを作り、県リーグを作り、そして自分のチームで出場が危なくなった最近では、ママさんチームまで作ってしまったほどのサッカーばか。彼女の原点は、大学 4 年の時に行ったアメリカでの女子サッカー。日本の大学で女子サッカーチームを作り、『ろくにサッカーもできやしないのに、なんてことしてくれたんだ』と男子サッカー部の監督に迫害を受けた直後に留学。アメリカでの、女子サッカーの当り前さに、あきれるばかり。日本でもいつか女子サッカーをアメリカのような状態にしてやる！と意気込んで帰国したのが、10 年前。（※記載は Bridge 設立当時と思われる）」と、突進する創始者の勢いを見事に表現し、まさに道

なき道を進み、振り返った時には、多くの後進がその道を整備し、歩んでいるという光景が浮かぶ。小林氏のライフヒストリーは別項にて考察する。

「もう一人は、羽石架苗（はねいしかなえ）。Lリーグでプレーするも飽き足らず、海外の学会で会った見ず知らずの大学の先生に、得意の『Eメール：いかにも知り合い作戦』でアタックして、2002年全米大学連盟（NCAA）3部の大学に留学を決める。その後、当時小林が主催していた海外女子サッカーツアーで出会ったコーチの口利きで、NCAA 2部の大学 Christian Brothers University に奨学金をもらって留学。1年目に全米で準優勝、2年目には優勝し、最優秀でフェンダーに選ばれる。それが、アメリカの大学サッカー界の一隅に、ちょっとした日本人ブームを巻き起こしたようだ。本人に、現在（※記載は Bridge 設立当時 2004 年頃）アメリカ最高峰の女子サッカーリーグ：W リーグからオファーがあったばかりで無く、誰か日本人で優秀な選手がいないかと、数校の大学の監督から問い合わせが殺到。事前にプレーを見ることなく、架苗の言葉だけを信じて、5名の選手がサッカーで奨学金付の留学を果たした。アメリカって女子サッカー選手にとって、なんてすばらしい国！これを紹介しない手はない！そうして、ブリッジは始まった。」

ツアーの参加者たちがロールモデルとして目指すべき存在に相応しい、創始者たちである。SF 映画のクローン人間を創生する作業には程遠く、憧れと回避すべき行動を併せ持つ判断力を養成するには最適のサンプルであろう。興味を抱いた参加者に対しては長年の取り組みから積み上げたプログラム内容と適切な手続きから海外留学を選択するための情報が提供される。

「留学詳細：

1. 選手の質問・相談受付

選手本人がアメリカ留学についてどのように考えているのか？サッカーのレベルはどれくらいなのか？どのくらいのレベルでサッカーをしたいのか？奨学金はどのくらい必要なのか？留学資金はどれくらいあるか？その他、本人の英語の能力（好きか嫌いも含め）、本人の意思、やる気、性格などのできるだけ詳しい情報を Bridge に相談する。

2. Bridge の返答

選手本人と話をしていく中で、Bridge 側から経験や過去のデータに基づいて、その選手のアメリカサッカー留学の可能性（奨学金の率）等を判断し、選手に回答していく。

3. Bridge への正式依頼

ある程度、アメリカ行きのめどがついた時点で Bridge へ正式に大学紹介を依頼する。

4. 大学探し

A : Bridge 主催のアメリカ大学サッカーツアーに参加してアメリカ大学コーチ陣にアピール

B : Bridge を通して選手の希望にできるだけ近い大学を探す。

大学の HP などを利用してサッカーチームの情報だけでなく、大学自体の情報も選手個人が積極的に集めるようにしよう！

5. 大学側との奨学金交渉

ある程度ターゲットの大学が決まったら、Bridge が仲介になって、大学チーム側と奨学金交渉をする。Bridge は、できるだけ選手の希望にそえるように努力するが、本人のサッカーのレベル、そして何より本人の英語の能力によって大きく左右されることは理解してもらいたいところ。TOEFL の点数が、選手の選択肢に大きく影響します。

6. 交渉成立&選手の承諾

大学側と奨学金等の交渉が成立したら、選手がその大学、その奨学金の額と入学条件等を確認・承諾。

7. 大学入学への準備

この段階から、選手本人が中心となって自主的に進めていく。

もちろん Bridge はそのつど質問・相談等を受けつけ、進行状況を把握します。

一般的な大学入学申請に必要な書類例：

入学願書（大学側から取寄せ、または HP からダウンロード）

英語の成績証明書（新入生は高校から、編入生は大学から）

英語の財政証明書

推薦状

英語の論文（エッセイ）

入学に必要な英語のテスト（TOEFL, SAT, GRE）のスコア

申請料

8. 入学に必要な英語のテストへの対応

入学に必要なテストを合格するために英語の勉強をする

希望者は、大学入学前にアメリカの英語学校に通う

9. 学生ビザの申請手続き

Bridge が必要書類、面接等の情報を提供する。

質問・相談等も Bridge が対応。基本的には本人が責任を持って進める。

[学生ビザ申請情報 パスポート、I-20 について]

10. 渡米準備

渡米日程の決定。

本人がチームの監督と連絡を取って住居などの確認。荷造り。

タイムテーブル：

1月まで

Bridge 相談アメリカサッカーへの自己確認&自己調査、等

英語の勉強（TOEFL）、TOEFL（SAT）等、大学入学に必要とする英語テストの受験

大学チームとの交渉開始

2月

Bridge への正式依頼、大学チームとの交渉

3月

Bridge ツアーへの参加

大学チームとの交渉、TOEFL（SAT）等、大学入学に必要とする英語テストの受験

大学決定

4月

大学の調査、チーム監督との連絡、英語テストの受験（必要点数獲得まで）

大学への願書等必要な書類をそろえる

5月

大学へ願書等必要書類を送る、入学許可が下りた後、I-20（ビザ申請に必要な書類）を受け取る

学生ビザ申請に必要な書類を集める（I-20 等）

学生ビザをアメリカ大使館に申請する

6月

大使館でビザ取得のための面接

7月

渡米準備

8月

渡米&チームのプレシーズン開始

アメリカの大学は、9月が新学期で、前期が12月はじめに終了し、後期は、1月から5月初めまで

その後8月のプレシーズントレーニングまで夏休み

活動概要の記述には活動の目的や主旨が魅力的に記載されている。これに続き活動の詳細を項目別に記している。気軽に、仲間と共にサッカーを楽しみながら、本気で取り組める環境を準備している。アメリカ国内の大学やサッカー関係者とのコネクション、情報量と適正

な判断は信頼性が高い。これも 30 年に及ぶ継続的な活動の成果といえよう。注)「Bridge」は、公式サイト等では「ブリッジ」という表記も併用されている。

「1993 年に始まった海外女子サッカーツアー。サッカーがグローバルランゲージだということを、体験できるツアーです。言葉が話せなくても、サッカーができれば心は通じる。2004 年に Bridge 主催になって、アメリカは、留学も視野に入れた参加者が増えました。カルチョの国イタリア版(※1996 年から 2006 年まで実施)もあります。現地で実際に女子サッカーに関わっているからこそできる、Bridge ならではの海外ツアーです。」

目的の多様性を示しながらもスポーツだけに留まらない海外の大学への留学も目標に据え、サッカーを通して様々な未来が待っていることを伝える。あくまでも自立した活動として本人の意思が大切であることを認識させている。次項では Bridge からのサポート内容の詳細を伝えている。

「アメリカの大学は、いろいろな奨学金制度があり『サッカー技能を評価による入学』もその一つです。サッカーで奨学金をもらってアメリカの大学で学ぶ。英語も話せるようになるし、サッカーもできる、その上、お金もあまりかからなくて済む。Bridge は、アメリカでサッカーがしたいあなたと、サッカーが上手な日本人選手を探しているアメリカの大学コーチを結びます。そこまでに必要な手続きやクリアしなくてはならない条件、また、留学している人たちからの生の声も紹介します。」

多くのアスリートと接しながら将来性を見極め、一人一人の適性を観察し、最終的には個人の意欲の高さ、熱量に基づき成果を出してきた実績を持つ Bridge ならではの推奨である。活動のビジョンとして以下のような提示をしている。

「個人の實力でも組織でも世界トップのアメリカ女子サッカー界。Bridge は、その情報提供や、アメリカでのプレーを望む日本女子サッカー選手達への手助け、アメリカ女子サッカー体験・観戦の企画、運営など、様々な活動を通じて、アメリカと日本の女子サッカーの架け橋的役割をし、内に向きがちな日本女子サッカーの目を外に向けることで、日本における女子サッカーの発展・レベルアップ・地位向上を目指します。」

参加者への呼びかけの内容から、その目的が明確に示されている。主催者にとってはあくまで女子サッカーの発展を目指すことで、収益事業ではない。参加者の負担額は決して少な

くはないが、国内で多くの情報が収集可能となった現代でも大いに意義がある。また、海外滞在経験、試合経験のある参加者であっても大学の授業に参加する、現地の子供たちとサッカーを通して交流するなどの活動からは多くの学びを得ることであろう。さらに、このような活動を個人ではなく「海外経験への意識が高い女子サッカーコミュニティ」として共有し、その場で意見交換できることはさらに有意義なプログラムとして評価できる。

「第25回 2018 ツアーに寄せて ブリッジ代表 小林美由紀

『サッカーは世界のことば』を実感しよう。

2011FIFA 女子ワールドカップ優勝、2012 ロンドンオリンピック銀メダル、2015FIFA 女子ワールドカップ準優勝と世界大会でコンスタントに存在感を見せている日本の女子サッカー。それも今までの積み重ねがあったからこそ。なでしこジャパンの多くのメンバーは、海外でプレーし、ピッチでは日本ではファウルになるようなタックルを受け、ピッチの外では、言葉がおぼつかない中、異文化の中で生活をし、たくましく強くなって行ったのです！しかし、2015 のワールドカップ決勝では、15 分間に4 得点とアメリカの底力を見せつけられました。さすが、女子サッカー大国アメリカ。サッカーが大好きなあなた。アメリカの女子サッカーを取り巻く環境を見て、実際のボディコンタクトの強さを体験してみませんか。サッカーがうまくなりたい。いろんなものを見てみたい。アメリカ旅行のついでに、サッカーをしてみたい。そんな思いを持っているあなた。サッカーのレベルは関係ありません！是非一緒に行きましょう。」

世界と比較しても技術レベルは劣らない日本人選手をグローバルな視点から俯瞰すること、新たな視野をもたらすとともに、世界標準を実感させるプログラムである。このようなプログラムを経てアメリカ留学を果たした参加者のリスト（※主催者提供からの一部）を下記に示した。直近のデータは現在集計中のため公式サイトにまとめられた2017年時点までの状況である。

スポーツによるアントレプレナーシップ教育プログラムの事例報告

名 前	加藤沙弥
所属大学／チーム	Franklin Pierce University (Rindge, NH)
期 間	2014 年 8 月-2015 年 5 月卒業 進路：就職
名 前	三枝詩音
所属大学／チーム	Concordia College New York (Bronxville, NY)
期 間	2014 年 8 月-2015 年 7 月 卒業後：ビューティースポーツトレーナー (socie)
名 前	大村明莉
所属大学／チーム	Franklin Pierce University (Rindge, NH)
期 間	2014 年 8 月-2015 年 5 月 留学後：アメリカ内の大学に転学
名 前	兼松万智
所属大学／チーム	Hesston College (Hesston, KS)
期 間	2014 年 8 月-留学
名 前	中西希実子
所属大学／チーム	Brevard College (Brevard, NC)
期 間	2014 年 8 月-2015 年 12 月卒業 進路：4seasons Hawaii
名 前	飯田美子
所属大学／チーム	Graceland University (Lamoni, IA)
期 間	Graceland University 2015 年 8 月-2016 年 5 月→American International College (大学院) 2016 年 8 月-2018 年 8 月
名 前	玉置和実
所属大学／チーム	Graceland University (Lamoni, IA)
期 間	2015 年 8 月-2016 年 5 月 留学後、大東学園に復学
名 前	三宅由梨亜
所属大学／チーム	Tyler Junior College (Tyler, TX) / New York Magic
期 間	2015 年 5 月-留学後：福岡大学で現役選手
名 前	糸井翔子
所属大学／チーム	Franklin Pierce University (Rindge, NH)
期 間	2015 年 8 月-2016 年 5 月 2017 年 8 月アメリカ内の語学学校に転学
名 前	大野翠
所属大学／チーム	Franklin Pierce University (Rindge, NH)
期 間	2015 年 8 月-2016 年 12 月 留学後：Vonds 市原へ
名 前	野島羽衣
所属大学／チーム	Monroe College
期 間	2015 年 8 月-2016 年 12 月 留学後：Vonds 市原へ
名 前	松田実夏
所属大学／チーム	Hesston College→Emporia State University
期 間	2015 年 8 月-2017 年 12 月
名 前	永井那津希
所属大学／チーム	Essex County College (Newark, NJ)
期 間	2016 年 8 月 2017 年 9 月-留学後：MITO EIKO FC 茨城へ

名 前	星野あかり
所属大学／チーム	Peninsula College (Port Angeles, WA)
期 間	2016 年 8 月-2017 年 12 月
名 前	奥田未帆
所属大学／チーム	Hesston College (Hesston, KS)→University of Mount Olive (Mount Olive, NC)
期 間	2016 年 8 月-留学
名 前	佐藤鈴音
所属大学／チーム	Graceland University (Lamoni, IA)
期 間	2016 年 8 月-2018 年 5 月 留学後：NGU ラブリッジ名古屋へ
名 前	佐藤萌
所属大学／チーム	Monroe College (New York, NY)
期 間	2016 年 8 月-留学
名 前	田中りお
所属大学／チーム	Missouri Valley College (Marshall, MO)
期 間	2016 年 8 月-留学
名 前	田口ひかり
所属大学／チーム	Clayton State University (Morrow, GA)
期 間	2016 年 8 月-留学後 米国内企業に就職 フィットネスウェルネスコーディネーターとして活躍 ブリッジサポートなど
名 前	阿部実希
所属大学／チーム	Essex County College (Newark, NJ)→Glenville State College (Glenville, WV)
期 間	2017 年 8 月-留学
名 前	高田茜
所属大学／チーム	Tyler junior college (Tyler, TX)→University of New Mexico (Albuquerque, NM)
期 間	2017 年 8 月-留学
名 前	権田都音
所属大学／チーム	Hesston College (Hesston, KS)→Graceland University (Lamoni, IA)
期 間	2017 年 8 月-留学
名 前	千葉祈理
所属大学／チーム	Indian hills community college (Ottumwa, IA)
期 間	2018 年 8 月-留学
名 前	佐藤舞悠
所属大学／チーム	Lindsey Wilson College (Columbia, KY)
期 間	2019 年 8 月-留学
名 前	吉武百香
所属大学／チーム	Concordia College New York (Bronxville, NY)
期 間	2013 年 8 月-2015 年 5 月
名 前	大沼珠生
所属大学／チーム	Clayton State University (院) (Atlanta, GA)
期 間	2013 年 8 月-2015 年 12 月 (専攻：健康管理) 卒業 進路：医療機器メーカー

名 前	曾我優妃
所属大学／チーム	Brevard College (Brevard, NC)
期 間	2013 年 8 月-2014 年 5 月 留学後：国士館大学復学
名 前	加藤さつき
所属大学／チーム	Lindsey Wilson College (Columbia, KY)
期 間	2007 年 8 月-2009 年 5 月 留学後：教員
名 前	山本香里
所属大学／チーム	Cisco Junior College (Cisco, TX)→John Brown University (Siloam Springs, AR)
期 間	2007 年 8 月-2011 年 5 月 留学後：教員
名 前	村末貴子
所属大学／チーム	Christian Brothers University (Memphis, TN)
期 間	2011 年 8 月-2013 年 5 月
名 前	小林美優
所属大学／チーム	Hesston College (Hesston, KS)
期 間	2012 年 5 月-2014 年 5 月卒業 2015 琉球デ イゴス
名 前	兼松春奈
所属大学／チーム	Graceland University (Lamoni, IA)
期 間	2012 年 8 月-2013 年 5 月 留学後：教員
名 前	野田直美
所属大学／チーム	American International College (Springfield, MA)→同大学大学院進学
期 間	2012 年 8 月-2015 年 5 月 同大学院終了 留 学後：就職
名 前	友近萌美
所属大学／チーム	American International College (Springfield, MA)
期 間	2012 年 5 月-2016 年 12 月卒業、2016 年 1 月 -5 月 同大学院進学、2016 年 8 月-FFNMG (Division 2 in French league)
名 前	福田真理香
所属大学／チーム	Bethel University (McKenzie, TN)
期 間	2007 年 8 月-2010 年 4 月 同大学卒業 留 学後：航空会社勤務
名 前	黒川ひかり
所属大学／チーム	Louisiana Tech University (Ruston, LA)
期 間	2007 年 9 月-2009 年 12 月 留学後：早稲田 大学大学院進学
名 前	品田彩来
所属大学／チーム	Lindsey Wilson College (Columbia, KY) / New York Magic
期 間	2011 年 5 月-2014 年 1 月 同大学卒業 留 学後：Kungsbacka DFF (Sweden 2 部)
名 前	吉田麗子
所属大学／チーム	Lindsey Wilson College (Columbia, KY)
期 間	2008 年 8 月-2011 年 4 月 同大学卒業 留 学後：横浜 FC

名 前	末木小枝
所属大学／チーム	Lindsey Wilson College (Columbia, KY)
期 間	2009 年 8 月-2013 年 5 月→同大学卒業 留 学後：幼児学童保育バイリンガルスタッフ
名 前	本多純子
所属大学／チーム	Laramie county community college (Cheyenne, WY)
期 間	2010 年 8 月-2012 年 1 月 留学後：大学職 員兼同大学女子サッカー部コーチ
名 前	引田ちひろ
所属大学／チーム	Hesston College (Hesston, KS)→Darton College (Albany, GA)
期 間	2011 年 8 月-2013 年 8 月 同大学卒業 留 学後：藤枝 MYFC
名 前	片岡沙希
所属大学／チーム	Lindsey Wilson College (Columbia, KY)
期 間	2010 年 8 月-2011 年 4 月 留学後：大学教務 補助-ノジマステラ神奈川へ
名 前	志方英香
所属大学／チーム	Tyler Junior College (Tyler, TX)→Northwood University (Cedar Hill, TX)
期 間	2010 年 8 月-2014 年 5 月 同大学卒業 留 学後 カナダにワーキングホリデイ兼選手 2010-2012 タイラー短期大学 (テキサス) 2012-2014 ノースウッド大学 (テキサス) 2014-2015 GS United FC (トロント、カナ ダ) 2016- Peninsula Power FC (ブリスベ ン、オーストラリア)
名 前	野口亜弥
所属大学／チーム	Franklin Pierce University (Rindge, NH) / New York Magic (New York, NY)
期 間	2010 年 5 月-2014 年 3 月 同大学院終了 卒業後：スウェーデンでプロ選手 成城大学 教員
名 前	石原千晶
所属大学／チーム	Martin Methodist College (Pulaski, TN)
名 前	河島美絵
所属大学／チーム	Thomas University (Thomasville, GA)
名 前	染矢晴海
所属大学／チーム	Martin Methodist College (Pulaski, TN) / University of Memphis (Memphis, TN)
期 間	2004 年 9 月-2007 年 5 月
名 前	稲葉三沙子
所属大学／チーム	Graceland University (Lamoni, IA) / Western Illinois University
期 間	2004 年 9 月-2007 年 5 月
名 前	澤彩夏
所属大学／チーム	Graceland University (Lamoni, IA)
期 間	2009 年 9 月-2011 年 5 月
名 前	井上光保
所属大学／チーム	Kennesaw State University (Kennesaw, GA)

過去のアメリカツアーから2011年の事例を振り返ってみたい。折しも2011年3月11日には東日本大震災が発生し、東北地方を中心に国内では甚大な被害に見舞われた。この年のツアーは、その直後に開催された。主催者の記録からは開催の決定をすることも困難な時期に申込者の全員が参加したこのツアーに対する、活動への責任と成果への期待が読み取れる。日常を失った被災地の人々への想いと新たな視野を求めて海外に集った若者たちの熱意を感じる取り組みであったことが理解できる。現地で実施した対外試合をはじめ、移動中のメトロでも東日本震災被災地支援チャリティを目的として参加者みんなで義援金を募った。また、2001年9月11日に発生したアメリカ同時多発テロで崩壊したワールドトレードセンター跡地グラウンドゼロも視察している。Bridgeの主催者のひとり羽石架苗氏が現役時代2010年までプレーしたニューヨークマジックのオーナーであり、目指すべきロールモデルであるLyndella（リンデラ）氏は事件当日ワールドトレードセンターの最上階に勤務しており、階段を駆け下り非難した経験を持つ。このような交流は多くの学びをもたらす意義のある活動となったに違いない。巻末の参考資料に掲載した2005年～2011年の公式サイトに掲載されたブログ形式の記録にて詳細が参照できる。





第18回女子サッカー USA遠征&体験ツアー

「サッカーは世界の共通言語」を体験せよ！

旅行期間：2011年3月16日(水)～3月28日(月) 13日間

短期コース 2011年3月16日(水)～3月24日(木) ニューヨークのみ滞在9日間 設定あり
短期コースと全日程コースをお申込み両方可能！旅行会社へお問合せ下さい。



BRIDGE
Girls, Inc.

サッカーという橋で異文化と海外を結びます



全米トップチームアメリカから、サッカーを通してみたいという女子サッカー選手のために、指導員を揃え、練習、競争するお手伝いをするというのプログラムです。サッカーという橋を使って、あなたと海外を結びます。

<http://www.girlsoccer-bridge.com/>

■ 旅行企画・実施 株式会社

(現)代付長官登録旅行業 第5005号

日放ツーリスト

■ 現地プログラム企画

ブリッジ

[illegible]

☆ フリッジとは

日本女子サッカー界の首領小林美由紀とアメリカ・マウントホリヨーク大学サッカー部監督の羽石架苗が中心となって2003年より運営している団体です。「サッカー」という架け橋を使って日本の女子サッカーと世界の女子サッカーを結びつことを目標に掲げ、ホームページによる情報提供、毎年実施しているアメリカの大学へのサッカーツアー、アメリカの大学へのサッカー留学のサポートなどを主な活動としています。

☆ スタッフ紹介

小林美由紀(こばやし みゆき)

1986年に筑波大学に女子サッカー部を創部後、渡米。アメリカの女子サッカー人気に刺激を受け帰国後、関東女子サッカーリーグ、全日本女子サッカー連盟、茨城県女子サッカーリーグを創設。日興証券ドリームレディース通訳、1999年女子ワールドカップUSA通訳ボランティア、2002年日韓ワールドカップでは鹿島会場でFIFAセキュリティ部長付け通訳。2003年JFA女子プロジェクトを立ち上げ、インストラクターとして日本各地を回り、草の根での女子サッカー発展に大いに貢献。

帰国直後の1993年、選手達に女子サッカー王国アメリカの環境を見て欲しいという強い信念から、毎年海外女子サッカーツアーを実施。2002年羽石架苗と「フリッジ」を立ち上げ、奨学金を得て留学した女子サッカー選手は30名余り。サッカーを介した国際交流を通じて視野の広い人物の育成を目指している。

ジェフユナイテッドレディースU18コーチ

早稲田大学非常勤講師

筑波大学女子サッカー部アドバイザー

日本サッカー協会公認B級コーチ

アジアサッカー連盟マッチコミッショナー



羽石架苗(はねいしか ぐさ)

JEFユナイテッドレディースに所属していた2000年、国際会議に自ら出向きサッカーで奨学金を得て、アメリカ留学を実現。2002年にChristian Brothers Universityで金米大学優勝し最優秀ディフェンダー賞を受賞。2003年にユニバーシアード日本代表に選ばれる、銀メダルに貢献。順天堂大学卒業後、メンフィス大学で運動生理学、スミス大学でコーチ方法学の2つの修士号を取得。ニューヨークのセミプロチーム「ニューヨークマジック」で8年間選手としてプレーし、うち5年間はキャプテンを務め、2010年に引退。メンフィス大学アシスタントコーチを経て、2007年アメリカで初のアジア系女性のサッカーフルタイムコーチとして、最古の名門女子大学マウントホリヨーク大学サッカー部監督に就任。

2011年、NSCAAのナショナルコーチングディプロマを取得。監督業の傍ら、マサチューセッツ大学アマースト校でスポーツ教育学/コーチ学の博士号取得中。世界女性スポーツ会議、世界体育スポーツ学会などで研究発表も多数。女子サッカーを中心に世界規模での女性スポーツ発展とコーチングに携わる活動に積極的に参加。近年、2008年インドネシア女性スポーツプログラム、2011年コソボ共和国女子サッカーのプロジェクトなど、国際的な女性スポーツ活動を積極的にこなしている。



第18回 Bridge2011 女子サッカー USA 遠征&体験ツアー

日程：2011年3月16日(水)～28日(月) 13日間(基本コース)

2011年3月16日(水)～24日(木) 8日間(短期コース)

16日(水) 米国ニューヨーク着

17日(木) マンハッタン視察(自由の女神、9.11 テロ被災地グランドゼロ)

NBA 観戦(ニューヨーク V.S メンフィス)

18日(金) マンハッタン視察

試合(15:30 V.S ハーフストラ大学 NCAA D1)

試合(17:30 V.S クイーンズ大学 NCAA D1)

19日(土) 試合(13:00 V.S セントジョーンズ大学)

ブロードウェイミュージカル鑑賞

20日(日)

21日(月) 試合(13:30 V.S ストーンブロッグ大学 NCAA D1)

22日(火) 試合(11:00 V.S マンハッタン大学 NCAA D1)

※試合後にチャーター車でマサチューセッツに移動

23日(水) マウント・ホリヨーク大学で日本語を学んでいる学生と交流

トレーニング

試合(16:45 V.S. U17 サッカープラス CT) @ CCSU

試合(18:00 V.S. U18 サッカープラス CT) @ CCSU

24日(木) 初級サッカー授業に参加

マウント・ホリヨーク大学アスレチック・ディレクター講演

マウント・ホリヨーク大学キャンパスツアー

試合 (16:30 V.S マサチューセッツ大学 NCAA D1)

25 日(金) マウント・ホリヨーク大学で日本語を学んでいる学生と交流

プロサッカーコーチによるサッカークリニック (GK もあり)

26 日(土) 東日本震災被災地支援チャリティマッチ (13:00 v.s マウント・ホリヨーク大学)

交流会

27 日(日) アメリカ発

28 日(月) 帰国

発足当時から目的にも示されているように Bridge プログラムは、リーダーシッププログラムとしての有用性、キャリア形成やアントレプレナーシップとの親和性が示唆される。また、人材育成の視点からは主催者、現地指導者など女性活躍社会に向け邁進したロールモデルとしての女性たちの関りが、プログラムの有用性に貢献している。さらにビジョンを共有した関係者、参加者が多数関わり活動を共にすることは互いに自分を表現する機会、相手を思いやり理解しあうことにより社会性（自尊と共感の相互強化・相乗効果）の獲得、発展が期待される。しかし、継続的な実施によるもっとも有用な成果として観察されたのは「循環型人材育成プログラム」という新たな視点である。

次項では Bridge プログラム参加者の経時的観察と成果の評価として Bridge プログラムに 2 回参加し、留学を経験した福田真理香さんの事例を取り上げる。Bridge2006 および 2007 と参加し、同年には大学を休学し 3 年間アメリカ留学を果たした。以下には帰国して卒業年の 2013 年 3 月に寄稿された報告とその後 13 年を経て、本研究のアンケート回答として寄せられた報告に対して考察する。

福田さんは日本体育大学を休学し、3 年間 Bethel University に留学した。3 年目にはキャプテンとなる。世界各国から集まった選手達をまとめあげ、成績優秀者の一人として卒業式を迎えた。帰国後は、日本体育大学に戻り、部活動、学生生活、就職活動に取り組み、全日本空輸株式会社に総合職として就職した。現在はロンドン支社にて活躍している。学生生活最後の大会である全日本大学選手権では直前に負った怪我から復帰し、優勝に貢献した。巻末の参考資料に掲載した 2005 年～2011 年の公式サイトには留学中の報告にて詳細が参照できる

Bridge 参加者 2012-03-08 公式ブログより

2007 年から 2010 年の 3 年間、テネシー州の Bethel University に留学していた福田真理香

選手。3年の留学生生活が、その後の日本での学校生活、部活動、そして就職活動にどのように活かされたのかをレポートしてもらいました。

留学生レポート

「日体大4年の福田真理香です。私はブリッジを通し、日本とアメリカで大学生活を7年間経験することができました。ブリッジへ参加したのは、大学1年目の終わりと2年目の終わりです。（'06, '07）1回目のブリッジに参加したときは留学への興味がわき、2回目のブリッジに参加して留学への決意をしました。

日体大3年生の夏から、3年間アメリカの大学へサッカー留学しました。全く英語が話せない状態の私でしたが、様々な人に助けられ大学の授業を受け勉強し、友達との会話でさえも私にとって英語の勉強でした。アメリカの大学に留学するということは、とにかく毎日が受験勉強のように勉強しないと周りの外国人には追いつかない！というのが私の意見です。大学のチームメイトは7か国から集まっていたので、個性豊かでした。3年目にはそんなチームのキャプテンを任せられたことが、苦労ではあったものの、とても良い経験でした。そしてサッカーをしながら、アメリカの4年生大学を3年間で卒業できたことも、私の中で大きな経験の一つだと言えます。3年間数えきれないほどの困難はありましたが、それにも増して現地で出会えた多くの方々の支えがあったからこそ、諦めることなく全て乗り越えることができたと思っています。本当に現地の方々には今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

そして2010年5月、アメリカの大学を卒業後すぐに帰国し、日体大に再入学しました。日本に帰ってきてやるべきことは2つ。就職活動に取り組み、『将来について真剣に考える』こと。そしてサッカー部に戻って、『国立のピッチに立ちインカレを優勝する』ことでした。3年生からの再スタートでしたので、約2年間はありました。サッカーと平行し、就活には全力で取り組み、自分と向き合い、将来グローバルな舞台で活躍したという軸を見つけることができました。就活はどの会社にかかることが大切ではなく、自分の特徴を把握し、その自分に合った会社を見抜くことを目的とすべきだと実感しました。そして様々な会社の面接を受けた中で、私の特徴を理解し評価してくださった、ANAから総合職事務職として内定をいただくことができました。

サッカーでは、5月末に膝の前十字靱帯を断裂し6月半ばに手術をしました。年内復帰は厳しいと言われましたが、インカレにどうしても出場したかったので、少しの可能性に賭けて、健常である逆膝から腱を移植しました。そんな大がかりな手術でしたが、素晴らしい医師やリハビリの指導者に恵まれ、復帰に向けて最善を尽くすことができました。そのおかげで、5か月半で復帰することができ、目標であったインカレ（準決勝より）のピッチに立つことができました。そしてアメリカに行く前から目標にしていた、『国立のピッチに立ち、金メダルを取る！』ことを実現することができました。

19年間のサッカー人生を国立の舞台で迎えられ、優勝して締めくくることができ本当に幸せです。7年間という長い大学生活、苦しい事ばかりでしたが、それは最後の最高の瞬間につながっていたと確信しました。人より時間はかかっても、私はあの時サッカー留学して本当に本当によかったと思っています。大好きなサッカーを通し、自分の可能性を無限に広げることができました。サッカー留学をするにあたり、両親・家族の支えだけでなく、みーみ・かなびーを始めブリッジファミリーの皆様に助けていただきました。また、7年間という大学生活においても、多くの方々の支えなしではやってこられませんでした。今後この経験を活かし、一人前の社会人になり、仕事で活躍し、みなさんに恩返しできるように努力していきたいと思っています。

ありがとうございました。

福田 真理香 』

福田さんの印象と現状は主催者である小林氏に取材し下記のように回答があった。「非常に前向きで、リーダーシップを持った女性です。Bridgeでも重要なキャラクターで、2020年のコロナ禍で、Bridge海外ツアーが開催できなかった年にも、イベントをしたり、Bridgeの取り組みをニュージーランドの女性とスポーツの学会で発表しています。現在は、ロンドン駐在中で30名ほどの部下たち（もちろんみんな外国人）のまとめ役でありリーダーとして悪戦苦闘しながらも頑張っているようです。」自らの人生を自らの決断とBridge、サッカーで出会った多くの仲間たちの協力により、切り開き、歩んで行った様子が印象に残る。Bridgeというプログラムが現在でも福田さんに大きな影響をもたらしていることが示唆されるエピソードであった。

本研究資料として、福田さんから提出された記述式アンケートの回答を以下に掲載する。「私は、スポーツをしている学生たちがそのスポーツで何か結果を出せなくても、そこに向かって一生懸命やってきたことが、その後の人生に活かせると信じ、勇気をもって次のステージで活躍できる若手が増えたら嬉しいと思っています。特に女子サッカーをはじめとした女子スポーツで、学生時代に頑張ってきた子たちが社会に出る前に悩んでいる姿を沢山見てきました。今までやってきたことに自信をもって、社会で活躍できたらと思っています。その後押しとして私にできることがあれば、これからも何でもお手伝いさせていただければ幸いです。

私はブリッジを通して人生が豊かになったと心から感じています。ブリッジに参加し留学したことは間違いなくターニングポイントとなりました。ANAに入社し14年目になりますが、ありがたいことに自分がやりたいと思っていた社内の部署に所属することが多く、『国際線オペレーション』、『人材育成』といった、ANAの軸を支える業務に就くことができています。大きな会社に入ることが全てではないですし、自分自身がやりたいことをやって『楽しめているか』がとても大切だと思います。

私は社会に出てから、会社だけではなく人間関係含めて、留学で経験したことが存分に発揮されていると感じることばかりです。大好きなサッカーを通して、こんなにも世界が広がるなんて思ってもいなかったですし、サッカーをやってきたことが間違っていなかったと証明できます。

ブリッジに出会えたこと、みーみ（小林氏）・かなぴー（羽石氏）に出会えたことに感謝していますし、2人の想いを我々が繋げていければと思っています。」

ひとつのことに執念（打ち込む）することは、視野の狭窄をもたらすと考えられる場合が多い。しかし、この報告からは「当事者の心構え」や「他者からの働きかけ」の多様性、包括性により、その広がりや当事者の想像を遥かに超えるものと表現されている。特に若年層にとってのスポーツ経験は親和性が強い。島沢¹²⁾は著書の中で、岐阜経済大学スポーツ経営学教授高橋正紀氏¹⁵⁾の長年に及ぶ調査研究から数値化したスポーツ活動の有用性に関する科学的知見を取り上げ「スポーツが非日常の活動として人の成長に重要な役割を果たす」ことを「実施者の内発的動機付けによる競技の継続」との関連性の視点から支持している。福田さんはサッカーを通じて「広がった世界」により同時に「広大な世界観」も獲得したことを示唆している。そして関わった人々への感謝の意を、以降の人生において自らの活動として表現していこうとする。さらに13年を経て著した報告にもBridgeでの経験は大きく影響していると記している。「一歩踏み出す決断力」、「やりがいや楽しさを求める行動の規範」、「あらゆる人々との積極的なコミュニケーション」などBridgeプログラムが福田さんの人生に関わったことの成果ではないかと考える。

3-2 Bridge2025 海外ツアー視察

30年目の活動を迎えるBridge海外女子サッカーツアー2025を現地視察した。日程後半となるウェスタンコロラド大学でのプログラムから視察を実施した。行動を共にすることによる気づきや示唆は多数感じられた。現地での主催者たちの言葉かけ、参加者の観察、対面での聞き取り作業等は調査を進めるうえで重要な資料として活用した。今回の視察は主催者の小林美由紀氏、同大学教員の羽石架苗氏の全面協力により実施した。日本から8名の女子サッカーアスリートが参加した10日間におよぶプログラムの後半にあたる。プログラムには日本人で現地アメリカの大学に在学する大学生、大学院生とかつてBridgeプログラムに参加した社会人などの「ブリッジファミリー」による強力なサポートにより開催された。主催者の二人に加えて「ブリッジファミリー」と称される、ツアーOGであったり、現在留学中の学生が合流し、試合や宿舍ミーティングに加わることはこのツアーの参加者にとって大きな学びに繋がる。さらに、いつでも対面で留学生とコミュニケーションを取ることが可能

であり、その姿を見て、活動を感じることができる。

※以下、2025年3月22日までは公式 facebook 引用

2025年3月18日移動

2025年3月19日 2日目 試合：メトロ州立大学デンバー（NCAA 2部）

2025年3月20日 3日目

vs USA Air Force Academy

0-14で敗戦。D1のチーム相手に体力を切らさずに最後まで走り切った。

2025年3月21日 4日目

vs Regis University 結果は0-6で負けてしまいました。ほぼ全員90分フル出場が3日続いている中で、疲労も溜まっていましたが、チーム一丸となって戦った。

2年前にブリッジツアーに参加して、現在 Columbus State University でサッカーをしている鈴木羽衣が、サポートメンバーとして参加してくれました！夜のミーティングでは、アメリカ留学に至るまでのパーソナルストーリーを話してくれた

2025年3月22日 5日目

USA Olympic training center と USA Olympic Museum を訪問した。

その後は4時間かけて Denver から Gunnison に移動

2025年3月23日 6日目

筆者は大学キャンパスのあるガニソンへは、後述するカリフォルニア州ブラデントンの IMG スポーツアカデミーに続く空路移動後の活動視察となる。前日に現地到着し、デンバーから移動する Bridge メンバー及びスタッフをホテルにて待機することとなる。ガニソンでの初日には、ウェスタンコロラド大学サッカー場にて近隣の子供たちを集めてサッカー教室を開催予定である。昼過ぎに到着した Bridge メンバーと共に徒歩10分ほどの大学まで移動

資料 近隣の皆さんとサッカー教室体験



する。標高 2500m を超える丘の上に位置する、スタンド付きアメフトスタジアムの奥に位置する人工芝サッカー場にてサッカー教室の準備を開始する。開始時間前になると自家用車にて親子で教室参加者が集まってきた。年齢別で 3 グループに分かれ総勢 60 名に及ぶ子供たちを Bridge メンバーが慣れない英語を屈指して指導にチャレンジした。サッカーは言葉を超える。笑顔とともに楽しいひとときを過ごす。自らプレーする日常は有している参加者であるが言語が異なり、年齢も違い、様々な生活環境を背後に持つ子供たちとサッカーを通してコミュニケーションを確立することが課題となった。自分を表現し、相手を理解するためにサッカーを介する活動は大いに有用であることを実感する時間であった。終了後には、時間を共有した子供たちが別れを惜しんで Bridge メンバーと笑顔で挨拶を交わしていた。

2025 年 3 月 24 日 7 日目

羽石先生が担当するスポーツペダゴジー履修生とともにブリッジメンバーが授業を体験する。まずはバレーボール専門の履修生が担当する「サッカーを学ぶ」実技に参加。瞬く間に笑顔にて、現地履修生と活動を共にするメンバー。若者の心が通じ合うのは早い。その後、ユニバーサルデザイン for ラーニングにて皆で実技体験など、楽しみながら体力向上、コミュニケーション強化と盛りだくさんの内容であった。ほぼ同年齢の学生たちと互いにリスペクトしながらスポーツ活動を実践する。一緒にチームやペアを構成することで意思疎通を工夫せざる負えない状況を体験し、自ら工夫したり、共に考えて課題を克服する。スポーツは人を繋ぐスキルを促進することが実感できるプログラムであった。

授業の合間では「キャンパス巡り」、「大学カフェテリアでのランチ」などを体験する。広大な敷地に様々な機能を持つウェスタンコロラド大学。特にキャンパス内のスポーツ施設にて近隣にお住まいの高齢者を対象に運動処方を実践している取り組みは興味深い。キャンパスにて若者との接点を有するこの取り組みは高齢者の心身の健康維持増進とともに、大学生と社会の結び付きを強める素晴らしい事業といえよう。国内の大学では、体験することが無い状況を見て社会とのつながりを身近に感じて、この触れ合いを学びにつなげることの重要性を感じて欲しいものである。

夕方からは、ウェスタンコロラド大学女子サッカー部との交流トレーニングセッションを実施した。コーチエクステンジプログラムでは、筆者がコーチ役を担当し、ウェスタンコロラド大学女子サッカー部のアスリート 30 名ほどをトレーニング指導した。意欲的なウェスタンコロラド大学の選手たちの取り組みに集中力が高まる。選手たちは長期休暇明けということもありテクニック、スキルに特化したプログラムを提供した。

夕食は羽石氏の自宅にてメンバーとスタッフ、ゲストも加わり賑やかに進行した。羽石氏の自宅に寄宿する大学院生がスタッフとしてサポートしておりこのような関わり方も主催者の努力と熱意を感じる取り組みである。

資料 上段：スポーツペダゴジー授業参加の様子
中段：サッカー授業実習とキャンパスの風景
下段：コーチ・エクスチェンジによる練習



3月25日 8日目

午前中は羽石先生の授業に参加する。スピードゲームと名付けられたニュースポーツでバスケットとサッカーを融合した種目はみんなの反応が良かった。羽石先生のクラスは体育科目の教員養成のため、各人が専門種目を有し、種目特性もあり興味深かった。皆個性が強く、互いを思いやる気持ちも併せ持つ学生達であった。異種目合体、コミュニケーション促進など実に興味深い取り組みだった。

お昼は学食などを利用して各自が食事を摂る。料金を支払い、調理担当者と会話をし、現地の学生たちの食事風景を垣間見る。時にはコロラド大学に通う日本人留学生のサポートメ

ンバーを頼り、メンバーたちのテーブルで食事をとる現地学生も見られた。ここでのコミュニケーションも Bridge メンバーには有意義な経験となる。午後は、大学キャンパスを離れてガニソン地区の小学校を訪れた。メンバーによる「日本の小学校と遊び」の紹介、体験プログラム。興味津々の子供たちを前に日本の小学生たちの日常をプレゼンした。その後は4つのセッションに分かれて「折り紙」、「けん玉」、「ベーゴマ、竹トンボ」、「漢字書き」を地元小学生たちに体験させる。メンバーの指導により、子供たちの集中力は最高潮に達する。非常に熱心な取り組みであった。けん玉でおお汗をかく少年の必死さには感動した。メンバーの熱量が伝わったようである。この地域にはメキシコ系の労働者が多く、クラスの1/4ほどは彼らの子息が通っている。羽石先生のご子息も通うこのクラスはアメリカの社会を象徴する様々な民族、人種が混在し共生するコミュニティであった。メンバーたちは、実に自然に、当然のごとくこの状況を受け入れ交流をしていた。スポーツや遊びによる交流は実に自然にこのような取り組みを進行させるチカラを持っている。筆者の視察はここまでで終了となった。メンバーはこの後、ウェスタンコロラド大学との試合、近隣男子高校生との試合などのプログラムにチャレンジした。

資料 近隣小学校にて日本文化体験授業を実施



活動の様子を時系列で考察したが、ツアーには多くのサポートスタッフ関わっていた。2名のサポートスタッフから Bridge ツアーでの学びや思いを記述式コメントとして収集している。

まずは今回ツアー参加者の「お姉さん」的なスタンスで常に優しく、楽しくサポートしていた田口ひかりさんのコメントを参照する。現役時代は各年代の女子代表チームでプレーした。留学中も語学習得などで努力を重ね、カイロプラクティック療院に勤務して、現地で働くビザを取得し、現地の男性との家庭を築いている。メンバーとスタッフだけではなく、スタッフ同士のコミュニケーション促進にも大きな役割を果たしている。

2025 ツアーサポートリーダー 田口ひかり氏 コメント（アメリカ在住、2015 ツアー参加者）

「毎年お手伝いさせていただいているブリッジツアーに、今年も参加させていただきました。コロラドでのサポートは今回で3回目になりますが（その前はニューヨークとマサチューセッツのツアーに参加していました）、これまでは Denver ステイか Gunnison ステイのどちらか一方のプログラムのみの同行でした。今回のように、全日程に参加するのは初めてで、選手たちと長い時間を共に過ごす中で、例年以上に深いコミュニケーションを取ることができたと思います。

今年の参加者は8名。プログラム開始当初は、全員が初対面ということもあり、どこかぎこちない雰囲気がありました。試合ではそれが特に顕著で、初戦の前半はお互いの特徴や強みがまだ分からず、チームとしての一体感に欠けていました。ところが後半になると、すぐに味方のプレースタイルや意図を読み取り、まるで以前から一緒にプレーしていたかのようなチームワーク。これこそが日本人選手の持つ“適応力”と“察知力”だと改めて感じました。日本人女子選手のプレーを見るのは、昨年のブリッジツアー以来1年ぶりだったのですが、技術力の高さ、周囲を観察しながら瞬時に対応する力をすっかり忘れていました。日本人特有の『空気を読む力』これは、味方の意図を察して自然と連携するという、世界でもなかなか真似できない素晴らしい能力だと思います。少なくともアメリカ人選手が同じ条件で初対面同士の試合に臨んだ場合、あの短時間であれほどの連携力を見せるのは難しいと思います。もちろん、フィジカルの強さではアメリカ人に劣る部分はありますが、日本人が持つ協調性やチーム力、そして高い順応性は、もっと誇りに思っているし、大切にしていきたいと思います。

今回ツアーに参加してくれた選手の中には、元々留学に興味があって参加した選手や、留学には興味ないけどただ短期的にアメリカのサッカーを経験したい選手がいたり、それぞれ目的はバラバラ。しかし、ブリッジマジックではないですが、とくに留学に興味なかった選手も、ツアー終盤には留学に興味を持ち始める、という現象が毎年起こります。今年も例年と同様に、日本とはまったく異なるアメリカの文化や景色、大学の施設、スポーツシステムに触れ、目を輝かせている選手たちの姿が印象的でした。そんな選手を見ていて、私自身が現役の頃に参加したブリッジツアーを思い出しました。私は日本の大学を卒業しているので、部活動を通じて学べる上下関係や、広がる人間関係など、日本の大学ならではの良さもよく分かっています。でもそれ以上に、若いうちに外の世界に飛び出して、自分の可能性に挑戦してほしいという想いが年々強くなっています。特に、高校や大学を卒業したあとに『何をしたいのか』、『どんな仕事に就きたいのか』、『サッカーは続けるべきか』がまだはっきりしていない選手にこそ、海外に出る経験は大きな意味を持つはず。私自身も日本の大学

を出たあと、将来の方向性が見えずに悩んだ経験があるので、選手の気持ちはよく分かります。

また、『やりたいことはあるけれど、海外にも挑戦してみたい』という選手にとっても、こうした機会はその一步を踏み出す大きなきっかけになるはず。就職してから海外に挑戦するのは、実際にはなかなか簡単なことではありません。だからこそ、大学卒業後にやりたい職業がすでに決まっている選手も、社会に出る前の今のタイミングでこそ、海外に飛び込んでみてほしいと思います。現に、選手の中には、まわりのチームメイトが就職活動に励む中で留学を選ぶことに迷いを感じたり、『言葉も文化も違う場所に住むなんて自信がない』と相談してくれた子もいました。もちろん、留学は楽しいことばかりではありません。課題に追われて眠れない日もあります。それでも、異国の地で過ごす時間は、間違いなく自分の自信につながり、多様な価値観に触れることで視野が広がり、自己成長へとつながる。結果として、将来の選択肢をより豊かにする経験になると私は思うのです。また、留学はしない選手たちも、今回のブリッジツアーを通して、10日の短期間でしたが、日本ではみられないものや、価値観、文化に触れられ、たくさんの刺激を受けてくれたはず。自分でブリッジツアーに参加してみたいと決心して参加してくれた選手たちは、もう広い世界に足を踏み出しています。この経験が選手みんなの視野をさらに広げ、自信となって、これからの選択や挑戦の土台になることを願っています。サッカーがメインのプログラムでしたが『世界は広い』、『自分にもできる』という実感を持って帰ってくれてたら嬉しいです。それぞれの選手が、このツアーで得た学びや出会いを胸にこれからの人生を自分らしく、楽しく、歩んでいってくれることを心から楽しみにしています。」

続いてサポートスタッフとして参加した糸賀さんからのレポートを参照する。高校時代に海外ツアーに参加して、その後留学を決めている。今回は初めてのサポートスタッフとしての取り組みとなる。

2025 ツアーサポートスタッフ 糸賀怜風さん（2022 Bridge ツアー参加者 Hesston College 在学中留学生レポート）

「ブリッジに参加したきっかけは、サッカー人生最後に嫌な思い出で終わるのではなく、楽しい思い出を作りたいと思って参加しました。ブリッジでの出会いは本当に宝物です。ブリッジは日本全国の人が集まるため、今までなかった人との出会いがあるからです。年齢もバラバラなため色々な人の経験を沢山聞くことができます。私はブリッジに参加して自分自身に沢山向き合うようになりました。私の課題はすぐに考え方がネガティブになってしまい、色々なことがうまくいかないことが多く挑戦することが怖かったです。ですが、ブリッジに参加してから、しっかり自分に向き合う時間を作り、沢山挑戦することができるように

なりました。

私は今回留学生側としてこのブリッジに参加させてもらいました。初めに、今までの留学生が私にとってすごい人ばかりだったためとても不安でした。自分の経験談を話したり、サポートすることは初めてのことが多くどうしていいかわからなかったですが、沢山みんなと話ことができ、私自身もまた一歩大きく成長できたなと思いました。また、自分の英語力の成果も主催者側に褒めていただくことがきたし、沢山色々な人から変わったねと言われることができたことが私の成長だなと思いました。

今後、まだまだ成長できる部分があるので、たくさんの人のお話を聞き、沢山挑戦し、色々なことを吸収し続けたいなと思います。今後私はまだまだ沢山挑戦し続けて、一人でも多くの人を勇気づけることができるようになりたいなと思います。』

このように立場を変えてツアーに参加することにより、また視点を増やすことが出来ると感じている。一つ一つが学びに通じることが参加者のみならずスタッフの成長につながっているようである。最後のスタッフコメントとして、冒頭にも掲載した創始者であり、主催者の羽石架苗氏の記述から考察する。

Bridge 創始者 羽石架苗氏 ウェスタンコロラド大学レクリエーション・エクササイズ&スポーツサイエンス学部准教授

『『女性だから、女性らしく振る舞わなければならない』、『女性だから、ある年齢になったら結婚しなければならないし、子どもも産まなければいけない』、『女性はいか弱く、できないことが多い』こうした言葉や価値観は、かつての日本社会では当たり前のよう存在着いました。しかし、男女平等の考え方が大きく進展した現代においても、いまだに『女性だから』という固定観念に縛られる場面が少なくありません。

2025年の世界経済フォーラムによる『グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書』では、日本は148か国中118位という厳しい評価を受け、G7諸国の中で最下位となっています。これは、表面的には男女平等が進んでいるように見えても、実際の社会構造や文化の中に深く根付いたジェンダーギャップが依然として大きな課題であることを示していると思います。

そんな日本の現状に対して、私たちはスポーツの力で、私たちが愛するサッカーというスポーツを使って、できることからやっていきたいと考えてきました。女子サッカーというフィールドを通じて、世界を見てほしい。広い視野を持ち、自分の可能性を自分で制限せずに挑戦してほしい。社会の期待や周囲の声に縛られず、自分の意志で人生を切り開いてほしい。そんな強い思いから、日本女子サッカー界の先駆者のひとりであり、『女子サッカー界のドン』である小林美由紀さん（通称みーみ）と共に、私たちは『BRIDGE（ブリッジ）』

という活動を始めました。それから、気づけば22年の歳月が経ちました。

この22年間、私自身、(そしてみーも)、結婚や出産(私には3人の子供がいます)、キャリアの転機など、さまざまな人生の変化を経験しながらも、毎年途切れることなくブリッジツアーを実施し(コロナの時は中止)、アメリカ女子サッカー留学を目指す選手たちのサポートを続けてきました。その継続こそが、ブリッジという活動の最大の価値であると私は信じています。今では、ブリッジを通じて世界へ羽ばたいた女性たちが増え、『ブリッジファミリー』と呼ばれるコミュニティも大きく広がり、それぞれが世界各地で自分らしく活躍しています。

私は、ブリッジの活動を通じて、社会の既成概念にとらわれずに生きられる女性、自分が納得できない不正義(Injustice)に対して勇気をもって声をあげられる女性、そして周囲の人を巻き込みながら社会的な変革を起こせるような力強い女性が増えていくことを心から願っています。サッカーという、世界で最も愛されているスポーツを通じて、自分の『好き』や『夢』を世界につなげていってほしい。そんな願いと情熱を胸に、これからもブリッジを続けていきたいと思います。」

長年にわたり女子サッカーツアーを継続し、プログラムの改善に挑戦してきた。社会情勢や女子サッカーを取り巻く状況も年を経るごとに移り変わっていく。しかし、羽石氏がここに記した想いはツアーを始めた当初から、恐らく変わらず持ち続けている熱いエネルギーの表れであろうと感じる文言である。ツアー中にメンバーと接している時間には同年代の友人のような口調で会話をする姿を垣間見る。これも互いのコミュニケーションが滞らず、スムーズに流れることを主眼としたスタイルであろうと察する。会話にはコメントに著された通りの熱い思いを乗せてメンバーと時間を過ごしている様子が垣間見られる。このプログラムのストロングポイントの一つとしてツアーメンバーは勿論のこと、サポートスタッフやスタッフ間でも無理なく、常に自然に理念を共有することが出来る良好なコミュニケーション環境があげられる。羽石氏のキャリアに関しては巻末資料に本人記載のブログ記録を参照されたい。

3-3 Bridge 創始者のライフヒストリー分析

Bridge 創始者のひとりである小林氏美由紀氏のライフヒストリーを聞き取り調査、アンケート調査、メディア媒体へのインタビュー等から収集したデータに基づき構成し、活動における行動、決断、言動への影響やその要因を分析するものである。

小林氏が編集に携わった2020年JFA女子委員会発行の「20人のキャリアより」(スポーツ関連の業務に携わる女子サッカー関係者を紹介するインタビュー特集)編集者で副委員長

を務める今井純子氏の記した緒言を引用する。

「皆さんに知ってもらいたい未来があります。

サッカー選手としての経験を最大限に生かせる未来を

私たちと一緒に探してみませんか。

20 人の先輩たちの話に耳を傾けてみてください。

未来の選択肢を広げれば、自分自身の可能性もきっと広がります。

Your Life with Football.

今井純子 」

サッカーに関わる職業を選択した 20 名の女性へのインタビュー特集である。各々の女性たちの人生にサッカーと関わったことが、現在の自分にどう繋がっているのかを対話形式により紡いでいく。興味深い内容である。今井氏のキャリア紹介の中に小林氏の名前が挙げられる部分があった。

「サッカーを仕事にするきっかけ

私自身、子どもの頃に自分の地元でサッカーに出合うことはできませんでした。小学校の体育の授業でやって楽しかった印象は残っていますが、地元では男子も野球ばかりしており、一緒に野球を楽しんでいました。活発で動くことが好き、また、チームスポーツが好きだったので、中学では部活動の中からバスケットボールを選び、大学卒業まで打ち込みました。大学在学中に本誌でも登場する小林美由紀さんと八楸美由紀さんが創設した女子サッカークラブに誘われ、そこからサッカーに熱中しました。(後略)」

小林氏が作った大学の女子サッカー部でサッカーと出会い、それが職業となり現職に就いているという。小林氏の言動には人を巻き込んでいく力が秘められているようである。その核心には「サッカーが好きである」、「プレーを楽しんでいる」という純粋なメッセージが込められていること、発せられる言動には押しつけではなく、自分が想い、動くことにより惹きつけられ、巻き込まれていく過程が存在すると推察される。

同誌対談には、指導者の手塚氏の発言の中に小林氏の名前が挙げられる部分があったので参照する。前例と同様に小林氏から提言を受けた事例であるが、これも巻き込む力のひとつとして「ひとを見極める情報量と決断力」を有していることが示唆される。

手塚氏談：「選手たちに話を聞くと、スポーツ科学や戦術分析、栄養学や心理学などを勉強したいし、選手をやめてからも何らかの形で関わっていきたいという声があつて。美由紀さ

んみたいに『これをやってみたら?』と、的確なアドバイスをしてあげられる人がいたらいいなと。

『誰かに勧められて』という人も結構いますからね。』

次項ではインタビュー記事の引用から、小林氏とサッカーの出会いを振り返る。小林氏の活動と規範となる思考については、2021年WEリーグの設立と共に理事に就任した際の取材記事に詳細な分析が掲載されている。執筆を担当した松原溪氏は小林氏の活動をジャーナリストとして身近で観察、分析しており興味深い考察がなされているので参照する。2022年には「女子サッカーに『プロ』という夢を たどり着いた WE リーグという出発点」にて、小林氏のインタビュー記事を掲載している川端氏の記事を併せて引用する。

大学時代のサッカーとの出会いから、常に自らのプレーする場所と女子サッカーの発展、女性が輝ける空間を求めることを基点に「道がなければ、作ればいい」というスピリットで様々なものを作り上げ、そこに多くの人達を巻き込んできた歴史が存在する。

「筑波大学時代に、『筑波大学女子サッカークラブ』を創設。それは茨城県初の女子チームとなった。アメリカ留学で世界一の女子サッカー大国の文化に触れ、帰国後は関東大学女子サッカーリーグを設立。大学の全国大会を始めるなど、大学女子サッカー発展の礎を築いた。」

「私がサッカーを始めたのは大学のときでした。中学、高校ではバスケットボールをしていたのですが、特別強くも上手くありませんでした。ただ、大学でも何かスポーツはやりたいなと思っていたときに、一緒に女子サッカーチームを立ち上げた友達と出会ったんです」

「女子チームを立ち上げたとき、男子サッカー部の関係者から『なんてことをしてくれたんだ!』といった感じで怒られたんです。当時通っていた筑波大学蹴球部は、日本で一番古いサッカーチームの一つと言われていました。そんな伝統のある大学で、ちゃんとボールも蹴れないような私たちが女子のチームを作ったことで、すごく怒られた記憶があります」

観察される行動を参照すると、全ては当時の常識的な判断に該当しない案件であったのであろうことは推察される。到達地点に向かうまで、階段を登り、ある時は駆け上がり、都度見えてくる景色に対し次なる目標瀬設定し、速やかに行動に移行する。その背後にあった想い、感情、意志はまさにアントレプレナーの備えるべき思考であったことが示唆される。

「茨城県で最初の女子サッカーチームだったので、『筑波大に女子サッカーチームができた』と新聞に取り上げられたのですが、蹴球部の先生には『いい迷惑だ』と言われましたね。練習をするグラウンドもなかったので、本格的な活動は難しかったのですが、初めて11人のジャージが揃った時は嬉しくて飲みに行ったのを覚えています。対戦相手がいなかったのので、県内のママさんチームやシニアの男性チームと試合をしていました」

「4年生の夏に、交換留学制度を利用してニューヨーク州立大学に1年間留学。その時に経験したアメリカの女子サッカー文化に衝撃を受けている。日本ではまだ、『サッカーは男性のスポーツ』という価値観が根強かった1980年代当時、アメリカではすでに多くの大学が女子サッカー部を持ち、女性の専任コーチも当たり前のようにいたという。試合会場まではバスの送迎付きで、食事も無料。試合当日にユニフォームを受け取り、試合後に返せば洗ってくれた。プレーしたのはトップリーグから数えて3部のチームだったが、当時の3部でさえ、その環境がスタンダードだったのだ。カルチャーショックの大きさは察するに余りある。一方で、その光景は、日頃から感じていた違和感が間違っていないことの証明でもあった。」

日本国内では想像すら難しく、遥か彼方に見える到達点を海外留学により間近で見て、体感したことにより、小林氏の想いが動き、本稿冒頭で引用した発言に表れる正義感にも似た信念を突き動かし、行動に移すことになったと推察する。前述の海外女子サッカーツアー参加者たちはこのような小林氏の心の動きや行動の迅速さを活動を通じて感じ、「良きにつけ悪しきにつけ」学んでいったことであろう。

2011年からはジェフレディースで、コーチやマネージャーの立場からクラブの発展に尽力した。移籍や引退後のサポートなど、選手にも近い立場で接してきた。また、ジェフレディース出身の選手からコーチを積極的に採用し、今は女性指導者が占める割合は50%になった。この取り組みからも常にジェンダー平等や女性活躍という視点を遂行し、男女を問わず皆が輝く社会を目指そうとしている葛藤が伺える。

「日本がW杯で優勝した2011年のような熱狂が再び生まれてほしいという願いもありますし、女の子たちが目指す夢や職業ランキングの上位に、『女子プロサッカー選手』が入るようになったら嬉しいですね。200万人近い選手がプレーしているアメリカに比べてまだ日本では競技人口が少ない（5万人前後）ですし、『サッカーをやりたい』と思った女の子、女性が気軽にプレーできるような環境を作りたいとも思っています。そういう時がくれば、性別や社会通念に囚われず、一人ひとりが輝ける社会になると思いますし、WEリーグが目標とする『女性活躍社会の牽引』の実現にも近づくと 생각합니다。女子サッカーがそのアイコンになればいいなと思っています」

「“女性の輝く社会”ではなくて、“一人ひとりが輝く社会”であることがポイントなんです。女性だけでなく、男性やLGBTQの人たちも、あらゆる人が心地よく生きられるような社会にしたいという思いがこの理念に込められています」

やはり、原点を語るときには必ず自分で考え、判断する。自分の確固たる価値観を表現できる姿勢が表出し、行動を支えていることが示唆される。

「なんで女子はサッカーをやっちゃいけないんだろう？と感じた違和感に向き合ってきたこ

とが、今に繋がっているように思います。誰もが気軽にサッカーをできる社会を作りたいという思いはずっと変わりません」

「いまは理念に注目が集まっていますが、やっぱりメインはサッカーです。テクニックの高さやフェアプレーの精神、試合の面白さをもっと知ってもらえるように頑張っていきたいですね」

小林氏はJFAとWEリーグにて2021年から、『JFA女性リーダーシッププログラム』を開講し、女性役員・経営層の育成にも主体的に取り組んでいる。「試合が開催される日にも、必ずひとクラブは試合をやらないチームがあります。そのクラブが試合の代わりに行うのが、『WE ACTION DAY』という取り組みです」。WE ACTION DAYとは、WEリーグが掲げる理念である「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。」を推進するために、選手とクラブ、パートナー企業がともに行う活動を推し進めており、WEリーグに在籍中は小林氏が理念推進担当として現場で活動を牽引した。前述したWEリーグの役員改選で理事を退いた小林氏であったが、さらなる女子サッカーの推進に力を注ぐべく今後の活動に期待が集まる。

具体的な実施事例として以下には青山学院大学にて開催されたWEアクションデーの様子を掲載した。

資料：青学でのWE ACTION 事例

「WEアクションサポート ワークショップ」

～ノジマステラ神奈川相模原×青山学院大学スポーツ健康イノベーションコンソーシアム～

日程：2023年5月3日（水）

会場：相模原キャンパスB棟ビューラウンジ

参加者：WEリーグノジマステラ神奈川相模原所属選23名 スタッフ数名

本学大学生10名、近隣にお住いの皆さん7名、本学教職員10名

目的：WEリーグノジマステラ神奈川相模原とともに、相模原キャンパスのある相模原市の社会課題にスポーツを通して取り組むべく関連する皆さんと課題共有する機会を創出する。

課題の中から相模原キャンパスに関わる資源（施設、人材ほか）を活用することで市民の皆さんと共に解決に向け取り組む施策を提案、実践する。

活動内容：

ノジマステラ神奈川相模原は青山学院大学スポーツ健康コンソーシアムの会員として、5月3日（水）青山学院大学 相模原キャンパスにて、WE ACTION DAY「ノジマステラ×青山学院大学 ワークショップ」として実施された。青山学院大学の学生や近隣地域にお住

まいの一般参加者、大学関係者など総勢 27 名と選手 23 名がワークショップを行った。

(以下ノジマステラ神奈川相模原公式サイトから引用)

今回のイベントは青山学院大学と連携し、「女子サッカーで相模原を盛り上げる！～女子サッカーができること、そのために必要なことを考えよう～」というテーマのもと、『女子はなぜスポーツから遠ざかるのか』についてデータをもとに現状に対する理解を深め、8 グループに分かれてワークを進めて行きました。

最初のワークでは「なぜスポーツを続けているのか。なぜやめたのか。」についてそれぞれの立場から意見を出し合いました。続けている理由では「楽しい」「体を動かすのが好き」「家族の楽しみだから」など、なぜやめたのかについては「他にやりたいことができた」「環境がない」「日焼けをしたくない」など、どちらの問いに対しても他にも様々な意見が出ました。

続いてのワークでは、1 つ目のワークで出た様々な意見をもとに課題解決のために「女子サッカーができることは何か？」について話し合い、模造紙にまとめて行きました。最後はまとめた内容についてグループごとに発表を行い、「自分たちがロールモデルとなれるように活動していくこと」や「認知度を上げるために必要なこと」、「スポーツができる環境を作り出すこと」などについての多くの考えやアイデアが出た、大変活発な発表の場となりました。

ワークショップ内での発言には、具体的に女子が小学校から中学校に進学する際にサッカーから離れる要因として下記のような事例をあげている。「スポーツが嫌い」といったそもそも論から、「動くことが面倒」、「時間がない」、「日焼けが嫌い」、「容姿に対する変化の問題（足が太くなるなど）」、「環境が無い」などの要因が指摘された。そのうえで「なぜスポーツをしなくてはならない？（社会的必要性）」、「なぜスポーツを推奨する？（教育分野から）」、「なぜスポーツをしたい？（実施者の立場から）」など様々な視点からスポーツの必要性、有用性を検討することとした。上記要因の中から、外部要因として課題を解決できるものからアプローチを検討した。その結果、「日焼けが嫌い」、「環境が無い」、「時間がない」などの課題に対応する施策として次項のイベントをトライアルとして4回シリーズで実施することとなった。「日焼けをしないで、サッカーを楽しめるインドア開催イベント」、「相模原キャンパス内の施設を利用する」、「平日の夕方の時間帯を利用する」ことで実施可能な「小中学生対象 相模原女子フットサル体験」である。

さらに日頃の教室、トレーニングセッションの成果を発揮するべく女性チームによるサッカー大会の開催を実施した。2022 年末には FIFA ワールドカップカーター大会を記念し

て「第1回オール青山サッカーフェス」を開催したが、2023年は7月にFIFA女子ワールドカップ AU/NZが開催され「なでしこ JAPAN」の活躍に注目が集まる中、「第1回オール青山レディースサッカーフェス」を開催し、日頃からコミュニティ内でサッカーを楽しむ「JFA なでしこひろば in 青山学院」参加者や大学授業にてサッカーを履修する女性たちに参加を呼び掛け、新たな女子サッカーコミュニティ構築を目指した。

3-4 Bridge 参加者のライフヒストリー分析

Bridge 海外女子サッカーツアーの参加者より、現在成城大学教員として研究活動に励みながら自身で社会課題に取り組むための法人を運営している野口亜弥氏を対象とした。野口氏のライフヒストリーを聞き取り調査、アンケート調査、メディア媒体へのインタビュー等から収集したデータに基づき構成し、活動における行動、決断、言動への影響やその要因を分析するものである。スポーツ庁国際課時代にメディア媒体に掲載されたインタビュー回答資料に Bridge ツアーへの参加動機となった背景が記されている。「大学1年生の時に『女子サッカー部を辞めて、代表を目指すためになでしこリーグに挑戦したい』と、つくばFCを紹介してくださった小林美由紀さんに相談したら『自分の決断に責任を持て』と言われました。小林さんに紹介されたアメリカの Bridge 女子サッカーツアーに参加し、そこで『サッカーの楽しさ』をもう一度思い出すことができました」と振り返っている。その後の歩みを確認しながら本稿に寄せてくれたアンケート結果を検証する。

(1) BRIDGEについて アンケート調査回答 野口亜弥氏

【活動を共にした日本の女子サッカー選手たちへの思いや彼女たちの未来に期待することなど】

ブリッジのプログラムに参加した皆さんは少なからず新しいことにチャレンジしたいとか、新しい視野を広げていきたいとか、自分で何か動きたいと思っている人が多くて、20代の早い段階でそういう人たちといろんな話ができましたが、今の自分にとって、生きているかなと思っています。みんなそれぞれその時話していたことと、今やっていることは違うかもしれないけれども、きっとどこかで前向きに何かを取り組んでいたいと思う人たちがきっと多いかと思うので、皆さんが今どんなことをやっているのかなとか、どんなことに興味を持っているのかなというのととても関心があります。

私自身もブリッジを通して自分で動くことの大切さとか、仲間に頼ることの大切さだったりとか、自分でできる限りのことをやったら、きっと助けてくれる人が現れて仲間が増えていくようなことを実体験としてブリッジの活動を通して感じる事ができたので、きっとそんな形で全国のいろんなところで、全世界のいろんなところでみんながそれぞれの目の前のことを前向きに取り組んでいるのかなというふうに思うと励みになります。

ブリッジに関わった皆さんの未来に期待するなんて、私が何か言える立場ではないですけど、自分が前向きに進んでいる時に、あの人も頑張っているのかな？と思い浮かべてみたり、SNSで活動を見たり、あの人が子育てしているのかな？とか、地域でこういう活動しているのかなとか、そういうのが自分の力になっています。

フィジカルに一緒にいなくても、精神的に刺激を受けて、少しやってみようかなって思えるみんながいる心強さを感じています。

【現在の活動とブリッジへの繋がり】

ブリッジに参加する前は、私にとってサッカーは代表になるんだとか、全国大会で優勝するんだとか、自分の目的そのものだったんですけど、ブリッジに行って、せっかく頑張ってきたサッカーで自分の未来がそれで広がるんだったらそれでいいんじゃないのかなと思えました。

それまで私とサッカーの関係性は、私はずっとサッカーの中に埋もれてきたようなかんじでした。そこから、サッカーからいい意味で距離を置かせてくれたのがブリッジだなと思っています。自分がこれまでサッカーを通じてやってきたこと、得てきたことを客観的にみることができました。自分の未来をイメージしてみたときに、サッカー自体が目標になっているよりもサッカーが自分の次の目標をサポートしてくれる味方になってくれるのかなと考えて、サッカーと自分自身との距離感を作ってくれたのがブリッジだったかなと思っています。

それが今の活動とどうつながっているかという、私はスポーツを通じて社会課題に取り組みたいと考えて今の活動をしています。そのようにスポーツと社会の在り方を考えられたのはブリッジがきっかけで、サッカーで色々な人たちとつながってみようかなとか、サッカーを辿っていったらどんな景色が見れるんだろうとか。ただただ代表を目指して上に上ることだけでなく、横に広げるようなイメージで、貧困の子どもたちのためにこういうサッカーの活用の仕方があるんだや、ザンビアではサッカーを活用した HIV エイズの予防教育とかやってるんだとか、サッカーという社会を知る窓を作ってくれたのがブリッジだったかなと思っています。

あと自分の生き方のベースを作ってくれたかなとも思っています。ブリッジで留学をさせてもらう時から、自分でまずやるという姿勢が非常に大切でした。大学院に入学するためのアプリケーションも全部英語ですけど、基本的にまず自分でやってみなさい。そしたら、わからないところがわかるから、それを聞きなさい。というスタンスだったので、自分が動かなければ何も始まらなかったです。結局アメリカではそうしないと自分の道は切り開いていけないからっていうことだったんですけど、それが良かったかなと思っています。自分はこういうことをしたいんだけど、ここまでは今の自分の力でやれたんだけど、ここの部分に関して自分の今の力じゃできない、今の能力や人間関係ではできないから助けてもらいた

い。と、頼る感じです。そうすると、自分でここまでやったんだったら助けてあげるよと言ってくれる人も多かった。

今、自分が仕事に向き合う姿勢を知る機会を作ってくれたかなと思っています。

そして、小林さんも、羽石さんも、最終的には助けてくれるという安心感がありました。だから、思い切りチャレンジできたと思います。そしてチャレンジした結果だめだったとしても、そこで否定されたり、判断されたりしなかったのも大きく、チャレンジをする勇気ができました。本当の意味で、チャレンジをすることの大切さを教えてもらえたかなと思っています。

チャレンジをして、ダメでももう1回やってみて、まただめでももう1回トライしてみても。そこまでトライするってことは本当に自分がやりたいことで、もし諦めちゃうなら本当はもしかしたらそこまで自分がやりたくなかったことかもしれない。自分の意志で何度もチャレンジしてたら、失敗しても、必ず誰か助けてくれる人が現れる。っていうことも、私は海外にいる時に実体験として体験できたので、絶対だれかが助けてくれるから、絶対チャレンジした方がいいって思えるようになりました。最終的に孤立しちゃうことはないんだと信じ切っている自分がいてそれが自分の強さにもなっています。

【現在の取り組みの目指すべき到達点】

今の自分の仕事の大きなきっかけは、アフリカのザンビアという場所でスポーツを通じて女の子の教育に携わる NGO で働かせていただき、NGO の代表の方のお宅に、6ヶ月ぐらいホームステイをさせていただいたのですが、その時にたくさんの力のあるザンビアの方々に会いました。大変想いもあり、力もある方々です。ザンビアに行くまでは、私はアフリカというだけで、なんだか日本ので生きてきた私の方がいろいろなことができると無意識のうちに思っていて、ザンビアにいてそういうことがすごく恥ずかしくなりました。ザンビアの人たちと本当にフラットに同じ目線で働くってどういうことなのかなと考えるようになりました。当時スラムの地域で過ごしている子供たちにサッカー教えたり、サッカーを通じた教育とからのプログラムを実施したりしていました。ザンビアで生きている女の子たちはどう考えてもザンビア人で活躍している女性たちの方がロールモデルになれるんです。私は何のためにここにいるんだろうと、考えるようになりました。

そうやってもやもやしている時にドイツの団体のプログラムに参加しました。いろんな国のサッカーをしている女の子や指導者、審判やジャーナリストが来られていろんな国の人たちをミックスして交流試合をしながら、それぞれの国の女の子たちが直面しているジェンダーの課題をみんなで語り合うイベントでした。自分とすごく年の近い女の子たちがこんなに大変な経験してきたのかと、知ることができました。

歴史的に植民地支配を受けてきた国々やグローバル経済において弱い立場におかれている

国々は、力を奪われ、搾取されてきました。私はありがたいことに何も苦勞することなく大学まで進学できましたが、それは単に生まれた場所がたまたま日本で、たまたま経済的に苦勞することのない家庭に生まれることができたからです。生まれた国や環境が違くと、公平で平等な機会は得られないのが現実です。

私は、誰もが公平で平等な機会が得られる社会になってほしいと思っていますし、様々な人たちの声が平等に価値のある世の中になって欲しいと考えています。サッカーを通じ様々な国の人たちの力や、魅力、その地域が持つ文化的な価値を感じることができました。生まれた場所や環境によって存在する格差がなくなる社会になってほしいと思っています。

私が生きているうちにそんな世界は訪れるのかわからないですけどただ、私ができる範囲も限られていますが、自分が長年経験してきたスポーツやサッカーをプラットフォームに、日本や日本が位置するアジアを中心に誰もが平等に機会が得られ、一人ひとりの声が平等な重さを持つ社会を目指して、活動することが一番当事者として動けると思い、大学教員として研究と教育に携わり、法人（AZITAMA 株式会社）の代表として実践をしていきたいといろいろと活動をしているところです。

資料 社会課題をスポーツにより取り組む野口亜弥氏が代表を務める AZITAMA 株式会社



幼少時から日本代表を目指しサッカーに取り組んできた野口氏は、サッカーと自分の関係性に触れ大学生当時は「ずっとサッカーの中に埋もれてきた」と特異な表現で著した。その後、小林氏に勧められ参加したBridge ツアーにより「サッカーと自分自身との距離感を作ってくれた」と成果を記した。多様なプログラムと包括性に満ちたメンバーに恵まれた活動の有用性が示唆される。自身の活動の中核となる「スポーツを通じて社会課題に取り組みたい」という想いはBridge ツアーへの参加が契機となったことを明らかにしている。さらに「自分の生き方のベースを作ってくれた」のもこの頃で「自分でまずやるという姿勢」が培われたという。誰も踏み込んだことのない領域、皆が敬遠する取り組みにも自身の興味や必然性

があれば勇気をもって臨むその姿勢はまさにアントレプレナーに繋がるメンタリティと評価できる。

このような素地を構築してきたBridge ツアーとその後のアメリカ留学、アメリカ女子サッカーでの活躍と生活について、15年前から5年にわたり、滞在中のに記した5編の報告から振り返る。

(2) BRIDGE ツアー参加後の留学中の報告

【Bridge 公式サイト掲載ブログより】野口亜弥氏

2010-12-25

野口亜弥 Franklin Pierce University (留学 1 年目)

今シーズンは留学1年目ということもあり、こちらのサッカーに慣れるのに必死でバタバタとシーズンが終了してしまいました。サッカーそのものも日本と異なる部分もありますし、そのほかにも、練習に取り組む態度やサッカー以外でのチームメイトとの過ごし方も、日本と異なる部分もあり、新しいことだらけで新鮮なシーズンでした。1年目ということもあり、日本語のようにコミュニケーションが取れないことにストレスを感じることもありました。これは徐々に解決される問題だと思うと、前向きに今やるべきことにしっかり向き合って、頑張ることができました。アメリカでの初めてのシーズンを終えて、大変な思いも悔しい思いもありましたが、それも含めすべてが貴重な経験であり、これからこのような貴重な経験を積み重ねていけると思うと、大変さの中にも、楽しさやワクワク感を持って、前向きに頑張ることができると自信を持てたシーズンでした。



2012-08-07

野口亜弥 Summer Season in New York（留学3年目）留学生レポート

New York Magic で3年間プレーさせていただいています。

私は監督の Nino にサッカーを教わるのが大好きです。アメリカでサッカーを続けたいと思う大きな理由の一つは Nino から学びたいことが沢山あるからだと思っています。New York という土地柄も手伝ってか、毎年、様々な国籍のプレーヤーが集まります。年齢も経験もバラバラ。バックグラウンドもバラバラ。聞いても覚えきれなくて、いつも何度も聞いてしまいます。毎年のように痛感するのですが、今年も痛感しました。

多様性の中で大切にしなければいけないこと。「お互いの個性を尊重すること。感謝すること。」

監督の Nino は特にその点を上手くサッカーに応用させ、最大限の力を発揮できるように戦術を組み立て、選手に適切な言葉をかけて行くのが上手いです。そもそもサッカーと言っても学んできた国によってお互い持っている常識が違います。ロングボールを多様して、ピッチを広く深く使うイギリスのサッカー観と、ムーブメントから小さなオープンスペースを作り出し、ショートパスで組み立てる日本のサッカー観と、堅実な守備からカウンターアタックでまず相手の背後を狙うイタリアのサッカー観と、国によって、サッカー観が違います。英語という同じ言語でコミュニケーションをとっていても、サッカー言語が違うからお互いの意図していることが理解しづらい。その上で一人一人の選手の性格や、身体能力、スキルレベルによっても多様性は増していく。などなど…深掘りしていけばしていくほど、面白くて、はまってしまいます。ここまでいろんな人がいると、自分が自分らしいプレーをすることが求められるし、自分は自分らしくいていいんだと思えるのが非常に楽です。

リーグを通して Nino が私達選手に対して、「一人一人の持っているものがそれぞれ貴重で、その日の戦術によってどの選手のプレースタイルが必要なのが変わる。だから、今日控えだからだといって落ち込まないで欲しい。」という声をずっとかけてくれていました。サッカーの知識は然ることながら、ひとりひとりの選手への配慮や、高いリーダーシップに、本当に学ばせてもらうことが多い監督です。マジックでサッカーが出来ることを幸せに感じ、3年目も無事に終えることができました。

NY マジックが所属する W-League はマネジメントの観点からも、リーグに参加するためにハイレベルなスタンダードが要求されています。自分がプレーできている裏側で、惜しみない努力をしてくれている人たちがいるから、プレーできているのだということ。何年経っても、今ある環境を決して当たり前だとは思わず、常に感謝の気持ちを忘れないようにしていきたいです。そして、毎年少しでも、マジックの力になれる事柄が増えるように、サッカーも、英語も、勉強も、レベルアップできるように頑張りたいです。

まずは、また来年このチームでプレーできるように、学校に戻ってしっかりやっていきたいと思います。



2012-12-12

野口亜弥 2013年アメリカ女子プロサッカーリーグ開幕 海外女子サッカー

せっかくアメリカにいたので、アメリカの女子サッカー情報をできる範囲で発信していこうかと思いました。

今回が第1弾です。先月の11月23日。2013年にアメリカで歴代3回目となる女子プロサッカーリーグが開幕する。という発表がありました。アメリカでは今までに2つのプロサッカーリーグが立ち上がっては、財政難のために存続できなくなり閉鎖になってきました。これらの2つのリーグの反省を活かし、今回発表された3代目の女子プロサッカーリーグはアメリカ、カナダ、メキシコの3つの国のサッカー協会が手を取り、ユニークな形をとるようです。今回のプロリーグはこれまでの2つとは違い、経済的支出を抑えながら持続可能なリーグを作っていくことに重点が置かれています。チームは全部で8チーム。ボストン、シカゴ、カンザスシティ、ニュージャージー、ポートランド、シアトル、ニューヨーク、ワシントンにそれぞれチームが置かれます。

各国のサッカー協会がそれぞれの代表選手（アメリカが24選手、カナダが16選手、メキシコが12選手）に給料を支払うという形を取り、財政的支援をします。さらには、個人的な投資家を募り、1チーム最高で7人までの選手が給料をもらってプレーすることができる形を目指すそうです。残りの選手は大学院に通ったりパートタイムとしてチームで働いたりしながらチームに参加できるように話が進められています。

2015年にカナダのモントリオールで開催される女子ワールドカップに向け、選手が一番力を伸ばせる環境はハイレベルのリーグの中で戦うことであり、その意見が一致したカナダとメキシコと手を組んで、3代目となるプロリーグが2013年に開催する運びとなったそう

です。しかしながら、アメリカ国内では、代表選手のみ給料が支払われるというのは、代表強化にはつながるが、果たしてアメリカの女子サッカー全体の発展を考えたらどうなのかという声も上がっているそうです。ロンドン五輪でアメリカが優勝したものの、2012年のWPS閉鎖から女子サッカーの流れはヨーロッパに流れつつありますが、新たにスタートする新しい形のプロリーグがどのように発展して、アメリカの女子サッカーを進化させて行くのか楽しみなところです。

2012-12-19

大学院生として―野口亜弥（留学3年目） 留学生レポート

今年で留学3年目を迎えることになりました。Franklin Pierce University でプレーしています、野口亜弥です。

私は今年の9月から同大学の大学院で勉強をしています。専門はMBAのリーダーシップです。今年は他の留学生とは違い、大学院生として大学のサッカー部でプレーさせていただいたので、そちらについて書こうと思います。

アメリカの大学では、Eligibility という、簡単に言うと「大学でプレーできる権利」というものがありまして、このEligibilityが残っている限り、大学院生であろうと、その大学の系列に通っている限り、大学のサッカー部でサッカーが出来ます。このEligibilityはフルタイムの学生としてどれほど授業をとっていたか、というのが基準で計算されて行くのですが、私は、日本の大学の4年生の時に、あまり単位を取らなくても卒業できたので、その期間（2セメスター分）がまるまるパートタイム扱いになり、今年の秋学期まで大学のサッカー部の一員として、大学院に通いながらプレーができていました。

余談ですが最近、アスレティックに力を入れている大学では、通常の大学の授業を専門科目に特化して3年で終わらせるカリキュラムを提供し、残りの2年間で大学院で勉強するという形を取る学校も増えてきているみたいです。そうすると、Eligibilityを残したまま、大学院まで卒業できるということで、選手にとってもアスリート奨学金をもらえるチャンスが大学院まで広がりますし、コーチにとってもいい選手と計5年間共に戦えるとなると、両方にメリットがある形だそうですね。

私の大学院は最近流行りになってきた、インターネット中心で授業を進めていき、2週間に1度クラスに参加してディスカッションをしたり、講義を受けたりする大学院です。自分の好きな時間に授業に参加できるということもあり、社会人で仕事をしながら受講している学生が多く、日々、社会経験の乏しさにあたふたしています。ですが、様々な職種の社会人の方々とビジネスについてディスカッションできるのは非常に勉強になります。

もう一つチャレンジなのが、読み、書き、調べごと、が本当に多いです。これがオンライン

ンコースの特徴なのか大学院一般的な特徴なのかどうか良くわかりませんが、先生が教壇の前で説明してくれるわけではないので、自分で読んで全て理解し、書いてディスカッションして、ケーススタディーを調べてそこから学びなさい。という感じで、ネット住民になっています。おかげでE-mailの返信はとても早くなりました。

長々と大学院のことを書いてしまいましたが、サッカーシーズンは、去年よりはチームワークも成績も良かったけど、総じてそんなに良い結果は出なかったのも、あまり書く事ありません。結果は、もちろん大切なのは重々承知の上ですが、今年は、「そろそろシャン！としなきゃー」と自分にプレッシャーをかけ、いろいろチームメイトに声をかけたり、チームが良くなるために発言をしてみたりしました。ちょっとリーダーシップを意識して自分にはっぱをかけてやり通せたシーズンでしたので、その点においては良かったのではないかと思います。

1月からは、自分の住んでいる寮の学生長官みたいな、学校内のコミュニティーサービスのバイトも決まったので、ちょっとずつできることを広げながら、引き続き楽しんで行きたいと思います。

2013-07-30

野口亜弥 (New York Magic) 4年目の夏の経験 留学生レポート

アメリカ4年目の夏を迎えました。野口亜弥です。

夏の間 New York Magic でプレーするのも4回目。最初の1年目に英語学校に通い、点数が取れない TOEFL に悩まされ、学校が決まらずアタフタしていた頃と比べると少しは成長したかなと思います。

この夏は、まず選手として、初めて New York Magic でキャプテンをやらせていただきました。キャプテンは私を含め3人いました。アメリカではチームにキャプテンが一人というのあまり見られず、異なるリーダーシップを持つキャプテンが一緒になってチームをまとめます。仲間が言うことが正確に聞き取れるのかな？言いたいことが正しくちゃんと伝わるのかな？という英語面の不安も然ることながら、ひとりひとりきちんと意見を主張してくる環境の中で、チームメイトの主張をどう聞いて、どこで自分の意見を主張していかないといけないのか？という、難しさがありました。もっとああ出来ただろう。なんてことは振り返ると沢山あります。ですが、チームのために取り組んでいた気持ちはちゃんとチームメイトに伝わっていて認めてくれる部分もあって、そこは素直に嬉しかったです。キャプテンとして違う立場からチームに関われた今年は、難しい場面も勇気を出さなければいけない場面も多々有りましたが、本当に学ぶことが多いシーズンになりました。

また、今年の夏はニューヨークにある America SCORES という団体のサマーキャンプに

コーチとして関わらせていただきました。この団体は、上手いサッカー選手を育てる、強いチームを作るということを第一の目的に置くよりも、サッカーを教育の一つのツールとして活用し、子供たちに運動の機会とソーシャルスキルを身につける機会を提供しようというコンセプトのもと活動している団体です。アメリカでは、貧しい地域（ニューヨークではハーレムなど）に住む子供たちを主な対象としてこのような活動をしている団体は結構あります。ここの団体に関わらせていただいたことにより、今までとは異なる切り口からサッカーに関わることができ、常に新しい刺激が受けられて勉強になりました。ここで出会えた人たちとの人間関係も大切にしていきたいと思いました。キャンプでのコーチングに関しては、初めてメインで練習をリードさせてもらえる機会が何回か得られ、良い経験になりました。今までアメリカでやらせてもらっていたのはアシスタントコーチだったので、自分のやりたいことをやってみるというよりは、ヘッドコーチを見て学ぶ機会が多かったのですが、いざ自分でやってみると発見が多かったです！例えば、今までの経験から、アメリカでは、特に小学校年代は、いかに楽しませるか？ということに多くの注目が注がれ、ゲーム系の練習になることが多いです。なので、インサイドキックやトラップ、ドリブルの基本をきちんと理解している選手は少ないように思っていました。みんな地道コツコツやるのが苦手なんだっ！と解釈していました。しかし、実際きちんとポイントを説明して、そこに子供が意識を向けられるメニューを作って、ポイントに絞って声をかけていったら、少し短調な練習でも集中切らず、いい練習ができました。

やればできるじゃないかっ！と子供たちにも自分自身にも、ちょっとだけ嬉しく思いました。特に子供はあまり外国人が話す英語に慣れていないことが多いので、私の英語を聞きながら、なぞなぞを読解しているような顔をしている時もありましたが、そういうときは周りのコーチが上手くフォローしてくれて、練習を進めることができました。私は最後までキャンプにはいられなかったのですが、最終日にどこからか私が今日で終わりだという情報を聞きつけ、手作りの Thanks Card をある兄弟が用意してくれていました。気持ちは伝わっていたのかなと思ったら非常に嬉しかったです。

この夏は、やりたいと思っていたことに挑戦でき、新しい刺激を多く受けられてとても充実していました。まずは自分で行動する事。助けてくれる人たちがいたからこそいい経験ができたということ。感謝の気持ちを忘れずに、これからも目標に向かって地道にコツコツと積上げていきたいと思いました。

5編の報告より、野口氏がアメリカ留学中にサッカーとの関わり方を質量とも拡大していったことが時系列で示唆されるコメントが認められる。各報告からの考察を以下にまとめた。

- ・留学生1年目には多くの困難も自身の成長の糧にする前向きな思考法がその後の成長にも影響を与えていると考えられる。このような資質は「日常の困難に立ち向かい、その結果を受け止め、次の目標に向かう準備とする」良好な行動規範、指導環境の中で基づいたスポーツ活動により形成された習慣であることが示唆される。その後、2011年3月の震災直後のBridge ツアーでは、メンバーと一緒に選手としてプレーする傍ら、チケット、乗車予約などのマネジメント面でのサポートも担当すまで広範なサポートに関わった。
- ・留学生3年目の夏には、NYのマジックでプレーと指導を通して「お互いの個性を尊重すること。感謝すること。」を学び、自身のコメントにもあるが「ここまでいろんな人がいると、自分が自分らしいプレーをすることが求められるし、自分は自分らしくいて良いのだと思えるのが非常に楽です。」と新たな境地を見出している。さらに、他者との関りが様々な機会に自身の活動に影響を与えていることを意識し、それらに対して感謝の意を表し応えることを習慣としている。
- ・同様に留学3年目の冬にはWPSの後を継ぐ形で創設された、NWSLの2013年開幕を体験し、2012年ロンドン五輪優勝、2015年FIFA カナダW杯に向け代表強化と国内のリーグ強化の様子を目の当たりにしたことも貴重な経験となり、更なる成長を促す要因となったことが推察される。
- ・9月から同大学の大学院MBAのリーダーシップを学び、クラブ活動においても「チームメイトに声をかけたり、チームが良くなるために発言をしてみたりしました。ちょっとリーダーシップを意識して自分にはっぱをかけてやり通せたシーズンでした」と経験の蓄積と学びの実践が発揮される環境が整ったことを示唆している。
- ・2013年7月には、選手として、初めてNew York Magicでキャプテンを任される。その後、ニューヨークにあるAmerica SCORESという団体のサマーキャンプにコーチとして関わり、自身のキャリアに新たな視野を加えることとなる。「この夏は、やりたいと思っていたことに挑戦でき、新しい刺激を多く受けられてとても充実していました。」と充実した活動への喜びを表現し、「感謝の気持ちを忘れずに」を行動の規範として捉え、その後の成長につながる期間であったことが示唆された。

最後に掲載するスポーツ庁勤務時代のメディア媒体からのインタビューには、現在も継続されているスポーツのチカラを女性活躍社会に応用することへの熱い想いが残されている。アメリカでの大学院生活、プロサッカー選手、ザンビアでのNPO活動、国家公務員、そして大学教員、法人代表と自らの意志で視点を変えながら立ち向かっていく姿勢は、Bridgeはじめ幼少期から打ち込んできたサッカーがもたらした産物といえるのではないだろうか。

「スポーツは壁を壊し、垣根を超える力を持っていると思います。スポーツのそういった力を正しく活用し、日本の女性と開発途上国の女性が同じ目線に立って一緒に成長できるプログラムを開発したり、この分野の発展の後押しとなるような研究をしたり、各国の人々と手を組んで女性ムーブメントを展開したり、そういった取組に携われたらと思っています。」

4 オール青山スポーツコミュニティ活動と DEI への関り

4-1 青山学院の取り組み

Bridge の取り組みは、若い世代の女性たちが社会のあらゆるシーンで自身の役割を見出し、表現し、行動するための準備・実践の有用な機会を提供する貴重な取り組みと評価できる。青山学院大学においても中等部、高等部の教員たちでスポーツを通して「社会課題に臨む」、「人を繋ぐコミュニティを創生する」ことを目的としたボトムアッププロジェクト「オール青山スポーツコミュニティ」に取り組んでいる。ダイバーシティ&インクルージョンに加え、エクイティ（公正）はプロジェクトの目指すべき頂でもある。ここでは女性活躍社会への長期的かつ継続的な施策として後述のような活動を実施している。

年齢と共に様々な社会活動によりスポーツから遠ざかる傾向のある女性に対して、各年代で心身の健康維持増進を目的としたスポーツ活動を提供することを目的とする。特にフットサルの実践はインドアにて接触プレーを制限した競技をチーム競技として実践することから、コミュニケーション機会も増加し目的達成に有用な種目であると考ええる。

① JFA なでしこひろば in 青山学院

※ 2025 年度からはグラスルーツサッカークラス内でレディース部門として実施

女性スポーツの普及（機会提供）、子育て世代、高齢者のスポーツ参加による健康維持・体力増進を目的として開催した。女性による運営、指導体制作りをする中で学院内の職員、生徒、学生に加え近隣に職場を持つ女性が参加するコミュニティ形成を目指した。将来的にはスポーツマネジメント、スポーツ指導に携わる女性の養成に繋がる場となることも目的のひとつとしている。

事業には、学院関係者、近隣の一般参加者が加わりフットサルを楽しんだ。継続期間中には、その絆が広がり仕事帰りの主婦、親子、教職員フットサル部、OG の仲間、小学校の友達同士と参加者が増えていった。今後継続を望む声も多数寄せられ時間帯、会場は継続しながらの「子育て世代」対象事業と、高齢者及び小中学生対象としたより早い時間帯での開催とコミュニティ内の周知を実践しながら、より多くの女性がスポーツに気軽に参画する機会を創出することが課題となる。2025 年度は、「なでしこひろば」という呼称は無くなり、グラスルーツサッカークラスのレディース部門として継続している。

②オール青山キッズスポーツチャレンジ（青山キャンパス年間2回、相模原キャンパス年間1回開催）

学年、性別に関わらず様々なスポーツを大学体育会、国内トップレベルの選手、指導者と共に体験できる機会を創出することにより若年層におけるスポーツ離れを回避し、より多くのスポーツとの関わりを提供することで、その後のスポーツ実践の可能性を高めること。さらに資料写真にも提示した通り、女性アスリートに対して、指導、運営経験の場を設定することにより選手キャリアのみならず指導者、マネジメント人材としての素養を養うことを目的とする。

児童、保護者を対象に様々なスポーツ（今回は10種目）を体験する。また、障がいのある方々のスポーツ活動への理解、インクルーシブスポーツ活動への理解を深めるため車いすバスケットボール、ボッチャ、ウォーキングフットボールなどを体験する。各種目の指導には本学体育会クラブ学生、指導者を中心にパラサポ財団、地域スポーツクラブにご協力頂いた。企画、運営は経営学部スポーツマネジメントゼミ所属学生が担当し、当日は会場準備から指導、後片付けまで運営全般を担当する。

事業内容の評価は相対的に高く「継続」、「種目増加」、「参加団体選手への好感」など事業の積極的实施を今後も希望する感想が多くを占めた。さらに興味を抱いたスポーツの「定期的な参加希望」は、身近な選手、指導者と活動を共にできる教室形式の事業展開へ示唆を与える意見であった。参加者の多いイベントでは、より詳細な案内の事前準備、当日運営の確かな配置等が必要である。参加各団体への依頼、保護者のボランティア募集なども有用である。

③オール青山レディースサッカーフェス（年間2回開催）

各コミュニティへの参加者が一堂に会し、大会を通して交流を図り、日頃培った技を競うことを目的とする。特に女性参加者の試合機会は、各コミュニティへの参加意欲を向上し、継続的な実践を促すことにつながる。毎回参加する国内トップレベルのアスリート（第1回はJリーガー、第2回は女子Fリーガー）との交流は参加者のロールモデルとして目標設定を促している。さらにイベント運営に関わる大学生にはマネジメント実践を経験する貴重な機会となる。特にレディース大会は年齢層が幅広く、対戦に工夫を要する。都内の大学女子サッカーチームへの周知を徹底することで、より有意義な大会形式を提案することは今後の課題となる。定期的な活動の中に、女性に特化したクラスを設置するやWEリーグ、トップリーグ連携機構のWAPとの協力、情報共有により、若年層対象の大会、シニア層中心の大会など様々な立場の女性アスリートが社会環境、家庭状況に捉われず参加出来る環境整備が必要であろう。

④高齢女性の心身の健康／高齢女性の健康寿命延伸を目的とした施策

少子高齢化、核家族化は都市部においても深刻な社会課題である。加えて高齢者は離職してから日常の活動範囲の減退に比例して人とのつながりが極端に少なくなる傾向が認められる。健康寿命の延伸、心身の健康を維持するためにも同年代のコミュニティの枠を超えて活動が可能なスポーツを通したコミュニティへの参画が有用であろう。特に複数種目が同時開催されるスポーツ施設あるいは、幼稚園から大学までキャンパス内に備えた本学のような施設は年代を超えた新たな刺激を受容することで、このような目標を達成することが可能である。従って本学のような大学キャンパスを社会連携事業に提供し、適切なスポーツを通した交流は高齢者の健康維持、増進に大いに有用であることが推察される。

【シニアコミュニティ】「ウォーキングフットボール体験」（年間2回）

シニア世代の交流の機会としてスポーツは有用であるとされる。特に性別、競技経験、技術、年齢を問わず一緒にプレーできるルールを採用するこの種目では、様々な機会創出が可能である。回数を重ねるごとに参加者のコミュニティからの誘いなどで広がりがあり、目的とした性別を問わず幅広い年代の交流が実践されている。実技実施のみならず海外被災地支援の支援活動の紹介なども加わり、シニア世代の社会との関係性を継続するといった活動にもつながり社会課題への取り組みが一層進展したコミュニティとなった。

特にサッカー分野では WE リーグの創設とともに女子サッカー特有の価値に着目し、各方面からの発展が期待される。このような状況下で「草の根」と称される、土台を支える活動にさらなる注力が必要とされる。大学が教学の場として社会課題に取り組む際には、これらをアクティブラーニングの場としての捉えることが有用である。これにより学院内や地域社会におけるインクルーシブな社会構築に向け、教室での学びを実践の活動として結実させる機会を創出する教育プログラムの実践が期待される。

これら大学資源を活用した活動は大いに意義のあるものとする。さらに持続可能な取り組みとして大学、行政、地域コミュニティとの有効な関係構築を目指すものである。これは本学におけるスポーツ活動が社会課題解決に向けた一助となり、多様なコミュニティが多くの人々を繋ぐ取り組みとなろう。

4-2 IMG アカデミー視察

前項で報告した青山学院内の施設を利用して、近隣の皆さんを対象としたスポーツコミュニティの参加者として1年半に渡り活動を継続した女性サッカーアスリートが、2024 年秋から活動の場をアメリカに移し活躍している。当時、青山学院高等部の水戸まり香さんである。

水戸さんが所属する IMG アカデミー (IMG Academy) は 1972 年に創立されたアメリカ、フロリダ州ブレイデントンにある寄宿学校を兼ね備えたスポーツトレーニング施設である。高校生年代の野球、バスケットボール、アメリカンフットボール、ゴルフ、ラクロス、サッカー、テニス、陸上競技などのエリートアスリートが日々トレーニングに励み、卒業後はプロアスリートや NCAA 所属大学のアスリートを多数送り出している。

サッカーアカデミーには、日本人選手が2名在籍しており、トライアルの短期コースに参加した後、勧誘されアカデミーの留学を決めている。2年目にあたる本年は大学受験に向けて英語クラスでも猛勉強中とのこと。視察時は受傷後の治療、リハビリのためトレーニングおよび大会には帯同のみで出場はしなかった。もう一人の日本人アスリートは、杉本瑛美(すぎもとてるみ)さんである。ふたりにはアカデミーでの経験を活かし米国のカレッジ、NCAA での活躍が期待される。さらには日本人の女性活躍社会への一役を担う人材となってくれることを願いたい。

米国 IMG アカデミー及びフィラデルフィア「ジェファーソンカップ女子サッカー大会」視察

羽田空港より、シカゴ経由でサラソタに到着。IMG アカデミーのあるフロリダ州ブラデントン付近に宿泊。翌日は午前中から視察開始。IMG アカデミーの日本人スタッフである Hiroko Motoni さんの案内で広大な敷地と多くのスタッフ、優秀アスリートを有する施設を巡る。全世界から 1400 名の高校年代のアスリートが集い、2000 名のスタッフ(指導者、医

資料 上段: IMG アカデミー陸上競技場正面ゲート: サッカーアカデミークラブハウス

下段: PC 配置のマシントレーニングエリア: バスケットボールアリーナ



療スタッフ、先生、運営管理者など）が支えているとのこと。日本人は50名ほどが在籍。全9種目のアカデミーを寄宿制で開講している。敷地にはサッカー16面、野球場5面（野球、ソフトボール）、20面を超える屋外・内のテニスコート、アメフト場、ラクロスコート、体育館（バレーボール、バスケットボール）、陸上競技場などの他、トレーニング場、マインドジム、ヨガジム、授業を行うキャンパス棟、カフェテリア棟、ドーミトリ（男子用2棟・女子用2棟・ゲスト用1棟）等を備える。終了後は9割が米国カレッジへ、1割がプロ選手の道を歩むとのこと。施設も素晴らしいが、最終的には目指すべき目標とそれを支える優秀なスタッフの熱いサポートであることを実感した。

前述のBridgeによるアメリカツアーは短期的にグループで実施するプログラムで、IMGアカデミーへの留学は選考されたわずかなアスリートにのみ与えられる長期的かつ徹底された個別対応のプログラムである。しかしながら共通するのは、「一歩踏み出す」こと、「挑戦を継続する」ことはアスリート自らの意志と行動に委ねられていることではないだろうか。その素養を最初から持ち合わせているのか、環境に身を置いて学び、身につけていくのか辿るべき道筋は様々のように見える。

滞在3日目は、早朝にサラソタを出発しシャーロット経由で女子サッカー大会が開催されるバージニア州リッチモンドへ移動する。到着後、市街地散策。この地はアメリカの建国と発展に関わる歴史的な地域であるという。リッチモンドの歴史解説書には「北米大陸にイギリス初の植民地が誕生し、当時の首都となりワシントンはじめ多くの大統領を輩出した」と記されるだけあって歴史的な建造物が多いなか、州議事堂公園の一角にあるモニュメントは印象的であった。

『The Virginia Women's Monument, Voices from the Garden』様々な分野でバージニア州を牽引した11名の女性たちの実物大のブロンズ像である。本稿が「女性活躍社会」、「女子サッカーの躍進」をテーマとする報告のための視察であることに気づいた「建国を支えた

資料 バージニア州議事堂庭園に佇む女性たちのブロンズ像
The Virginia Women's Monument, Voices from the Garden



女性たちの声」が筆者に訴えかけてきたようである。アメリカ女性の勇ましく、逞しく、美しく生きた姿を資料と共に掲載したい。

滞在4日目には、高校年代の女子サッカーの大会「ジェファースンカップ・バージニアガールズショーケース」を観戦した。前々日に視察したIMG アカデミー U-19 チームも出場している。市街地の西に位置するリバーコンプレックス会場へ移動。川沿いに16面の人工芝グラウンド。13:00キックオフのゲームと14:40キックオフのゲームの途中まで視察。その後、さらに南部のユクロップ会場へ。NC Courage ECNL Academy は個々の能力も高く、個性的なチーム作りが印象的であった。

アメリカの大学進学を目指し、全米はもとより全世界からIMG スポーツアカデミーに集まるアスリートたちの活動の資料収集および活動観察を実施した。留学生として奨学金獲得を目指しスポーツを通して世界に飛翔する女性アスリートたちの取り組みに今後も注目したい。

資料 左：ジェファースンカップ会場

右：IMG アカデミー日本人選手 水戸さん、筆者、杉本さん



海外でのサッカー留学に関する記述式アンケートに対しての回答は下記の通りである。

回答者：水戸まり香さん

「①サッカーを通して様々な人との繋がりができた

人生の中で打ち込めるものがあることの良さを知ることができた

②フィールド内外関係なくアメリカと日本では考え方が全然違うため自分の視野が広がった。アメリカはシンプルな考え方が多いので基本に戻る考えの大切さを改めて学べた

③今までやってきたイメージでは日本の女子サッカーは全体的に足元の技術が強く、アメ

リカの女子サッカーはフィジカルとスピードが強い。

日本は過程に重きを置いていてアメリカは結果重視、アメリカに行って内容もちろん重要だけど結果的に勝つことが大事という根本を改めて学んだ。

- ④大学のハイレベルな場所でのプレーがしたい、サッカーだけでなくスポーツを通じて色々な人と交流して仲を深めたい

アメリカでの体験としては、始めに英語をしっかりと話せないと舐められるけど一緒にプレーすることでだんだん仲良くなってコミュニケーションも増えるから英語できないのはあまり関係ないと思いました。特にチームスポーツで無理にでも話さないといけないし団結力も必要になるので、個人スポーツに比べると英語の上達にはとてもいい環境にいると思います。」

5 まとめ

30年にわたり継続され、40回のツアーを実施し500名以上がプログラムに参加した海外女子サッカーツアープログラムを対象として、スポーツを通してアントレプレナーシップを醸成するための施策を考察した。プログラムの主催者、サポートスタッフに対して記述式アンケート調査、インタビュー調査などを実施した。また、2025年のツアー視察による行動観察、提供された活動資料、メディア媒体に掲載資料等を用いてプログラムの有用性を考察した。さらに青山学院大学での「スポーツを通じた社会課題への取り組み」を本研究で示された結果、考察を参照して、より発展的な教育プログラムへ展開するための示唆を見出すことができた。その結果下記の通りプログラムの特長と有用性を示唆する。

1 スポーツによるアントレプレナーシップ教育プログラム開発への示唆

スポーツによる多様性、インクルージョンを実践するプログラムを企画、実践するコミュニティへの参加は、コミュニケーション、決断力、創造力、相手へのリスペクトなどの素養を向上させる。まず行動を起こし、無ければ作る、やらないよりやるといった挑戦を繰り返す強靱で柔軟なメンタリティを獲得する。互いに自分を表現する機会、相手を思いやり理解しあうといったヒューマンリレーションシップが醸成される。

2 リーダーシッププログラムとしての有用性

東日本震災やアメリカ同時多発テロなど、社会との関わり方をサッカーに関わる活動から理解し、表現する機会を作り出していく。

3 実践力、行動力、決断力をもたらすロールモデルの有用性

Bridge 主催者の羽石氏のロールモデルとして、NY マジックのオーナーの弁護士リンデラ氏との関係性がキャリア形成に重要な影響をもたらしたように、対象者が若年層であり多感な時期に交流機会を提供することは人材育成に有用である。

4 スポーツがキャリア形成やアントレプレナーシップに親和性をもたらす要因の解明

スポーツに関連するプログラム実践による社会性（自尊と共感の相互強化・相乗効果）の向上が観察された。特に Bridge プログラム内でのフラットなコミュニケーションは社会性の発展に良好な影響を与えていた。

5 Bridge プログラム参加者の経時的観察と成果の評価

各界で活躍する女性アスリートたちと近年の参加者、留学生の追跡調査と定期的観察による新たなデータ収集により、アントレプレナーシップ教育プログラムの発展が期待される。さらに Bridge プログラムは循環型人材育成プログラムという新たな視点を提供した。

- ・国内の教育界で活躍する人材
- ・政策に関わる役職にある人材
- ・法人組織を運営して事業を企画する人材
- ・統括競技団体に所属し女性活躍社会を牽引する人材
- ・各年代日本代表選手から海外にて活躍する人材
- ・海外にて教員、研究者として活躍する人材
- ・日本のサッカーウーマンを牽引する人材

6 学内スポーツプログラムと大学カリキュラムによるプログラム実践の企画・提案

本研究で示唆された、成果を用いた実践プログラムを活用することによりスポーツアントレプレナーシップ開発と女性リーダー養成プログラム提案につなげる。

参考文献

- 1) 荒井弘和. “ダイバーシティ&インクルージョンが駆動する体育・スポーツ科学.” 体育の科学 75.6 (2025) : 401.
- 2) 日比野暢子. “共生社会における体育スポーツ科学の役割—誰もがスポーツを楽しむ挑戦できるスポーツ界構築に向けた検討—.” 体育の科学 75.6 (2025) : 440-445.
- 3) Hunt, Vivian, Dennis Layton, and Sara Prince. “Diversity matters.” McKinsey & Company 1.1 (2015) : 15-29.
- 4) 池田恵子. “英国女性スポーツ史研究にみるジェンダー空間の分析.” スポーツとジェンダー研究 14 (2016) : 58-69.
- 5) 掛水通子. “近代スポーツ史における女性の地位 戦前における女子体育教師の出現に関するジェンダーの観点からの考察.” スポーツとジェンダー研究 14 (2016) : 43-55.
- 6) 宮崎純一. スポーツアントレプレナーシップ開発プログラムに向けた実践：スポーツキャリア関連講座の事例考察. 青山経営論集, 2024, 59.4 : 3-17.

- 7) 宮崎純一. スポーツ産業における女性スポーツの発展性に関する考察. 青山経営論集, 2024, 58.4 : 1-20.
- 8) 野口重弥. “エンパワーメント実践における課題と可能性.” 日本体育学会大会予稿集 第 67 回 (2016). 一般社団法人 日本体育学会 2016.
- 9) Rachel, A. ““The World Cup of Empowerment” and “They Really Missed the Ball”: Gender Discourses at the 2019 Women’s World Cup.” Journal of Sport and Social Issues 47.4 (2023): 328-349.
- 10) Roberson 2006
- 11) Pope, Stacey, and Rachel Allison. “Women’s football fandom and growing the ‘Beautiful’ game.” Science and Medicine in Football 6.5 (2022): 547-548.
- 12) 島沢優子. 叱らない時代の指導術—主体性を伸ばすスポーツ現場の実践—, NHK 出版新書 (2025)
- 13) 鈴木直文. “ダイバーシティサッカーの「場づくり」とは：包摂的社会の縮図.” 月刊社会教育編集委員会 編 64.12 (2020) : 19-24.
- 14) 鈴木直文. “ダイバーシティ・インクルージョン・エクイティ再考—社会的包摂にスポーツはどう貢献できるのか—.” 体育の科学 75.6 (2025) : 404-409.
- 15) 高橋正紀 “スポーツマンのこころ～スポーツ振興の原点としての心構え～.” 岐阜経済大学論集 43.3 (2010)
- 16) 東明有美, 入口豊, and 山科花恵. “女子サッカーの日米比較研究 (I) —アメリカ女子サッカーの歴史と現状について.” 大阪教育大学紀要 第 IV 部門：教育科学 51.1 (2002) : 165-180.
- 17) 輪田真理, et al. “日本女子サッカーリーグ所属クラブの現状と展望 (I) —日本女子サッカー (なでしこ) リーグの歴史と現状.” 大阪教育大学紀要 第 IV 部門 教育科学 60.2 (2012) : 15-28.
- 18) Wrack, Suzanne. “A Woman’s Game: The Rise, Fall, and Rise Again of Women’s Football”, Triumph Books, 2022. (スザンヌ・ラック著、実川元子訳「女子作家 140 年史 闘いはピッチとその外にもあり」白水社、2022 年)
- 19) 柳淳也. “企業経営における Equity の意味とはなにか.” 日本労働研究雑誌 66.5 (2024) : 42-50.

参照サイト

株式会社 Azitama <https://www.azitama.jp/>
 公益財団法人日本サッカー協会 サッカー×キャリア×未来
<https://www.jfa.jp/women/secondcareer>
 女子サッカーブリッジ 公式サイト <https://www.girlsoccer-bridge.com/>
 ブリッジブログ <https://girlsoccer-bridge.hatenablog.com/>
 Global Gender Gap Report 2023, 2024 World Economic Forum.
<https://www.weforum.org/publications/global-gender-gap-report-2023/>
 青山学院大学オール青山スポーツコミュニティ公式サイト
<https://all-aoyama-sports-community.com/>
 IMG アカデミー公式サイト <https://www.imgacademy.com/>
 Wedge SPECIAL REPORT 2022 年 11 月 27 日 <https://wedge.ismedia.jp/articles/>
 一般社団法人 S.C.P. Japan <https://scpjapan.com/>
 ONGROUND 編集部 川端優斗 <https://onground.doda.jp/>

参考資料

Bridge 活動資料 2005 年～2011 年まで 公式ブログより

公式サイトに掲載されたブログ形式の記録である。資料作成は主催者の小林氏と羽石氏によるものが多くを占める。時系列で海外ツアーの活動内容を考察する資料として記載のまま掲載している。

- ①主催者による視点から参加メンバーの活動、心理的变化、メンバー同士の人間関係など記載されているためプログラムの直接的評価する資料として掲載した。
- ②特に羽石氏のライフヒストリーとして参照できる記録が残されている。現役選手としてプレーしていたニューヨークマジックでの様子、並行して大学院にて学位取得した経緯、その後、日本人として NCAA 所属大学チームの監督に就任し活躍している様子、研究者として女性活躍社会を創生するための学会参加、国際会議での活躍など多岐に渡り記載されている。主催者のキャリア形成を時系列で参照する資料とする。

Bridge2005

2005-02-22

Bridge2005 第1試合 筆者：小林美由紀

今日は、メンフィス大学のキャンパスツアー。集合の10:30。メンフィス大学へ。女子サッカー部のコーチ、ジョディとブルックスが、案内してくれました。皆、施設のすばらしさに、ため息ばかり。アメリカってすごい。試合は、メンフィス大学のグラウンドが昨日のサンダーstormで使えなくなったため、マイクロズサッカーコンプレックスという、今週末の大会をする場所に変更。芝何十面もある、すごい場所です。今日は35分ハーフ2試合。まずは、17:00からジョディのコーチする、FuryU-17という高校2年生で構成される地元クラブチームと対戦。今シーズン初試合なので、お手柔らかにということだったのですが、こちらも、体が重い重い。十数時間の飛行機と時差は思った以上に体に負担がかかっているようでした。試合の内容とは裏腹に、ベンチでは、応援団が大騒ぎ。踊るや歌うや。しまいには、隣のベンチのアメリカ人も一緒になって、日本コールを繰り返していました。後半、スルーパスに反応して、キーパーが出てきたところを頭越しにシュート。それが決勝点になって1対0で記念すべき初試合を勝利。もちろん、勝利の女神は、後半ボランチで登場したみーみ（小林美由紀）でした。

2試合目は、19:30開始。試合前、照明が消え、試合相手も現れず不安に陥りましたが、無事にキックオフ。助っ人金ちゃんもまずはGKとして活躍。2点リードされましたが、後半盛り返して、2対2で引き分け。アメリカ人の足の長さに勝手が違うところもありましたが、良いスタートを切りました。

2005-02-23

Bridge2005 ショッピングデー

今日は朝寝坊者もおらず、無事に出発。まずは、ナイキアウトレットへ。皆が必ず買ったのは、1.99ドルのサッカーソックス（緑）。ユニフォームのソックスを緑にできるんじゃないかと思うくらい、日本ではありえない値段に飛びついていました。もちろん、ナイキのロゴも入ってるし、しっかりした普通のソックスです。

その後、メンフィスで一番大きいというモールへ。

* 試合は延期

この日は、昼ごろから雨。私たちがモールにいたときは、サンダーストームもあったということでした。グラウンド状態が悪く、明日に延期。おかげでちょっとゆっくりして、明日に向けて鋭気を養いました。

以前アメリカの大学で女子チームのコーチをしていたりょーくんがデトロイトから合流。ミーティングをして、明日のメンフィス戦の心の準備はばっちりです！

2005-02-24

Bridge2005 メンフィス大学 ゲーム！ 筆者：小林美由紀

* エルビス

今日の午前中は、メンフィスといえば、「プレスリー！」ということで、プレスリーゆかりの地グレースランドに行きました。エルビス・プレスリーが何者かも知らない彼女らでしたが、プレスリー博物館ツアーに行って、すっかりエルビスのとりこに！？

* BIG GAME

メンフィス大学との試合は、無事に開催が決定。今回は、君が代のテープがあると聞いていたのに、直前でまた独唱依頼。みーみの美声を聞いて、いい気持ちで試合開始。1日目の試合とは、勝手が違うことはわかっていたとはいえ、開始3分で、コーナーからのこぼれを決められた。ディフェンスは、びびっていることが傍目にもわかるほど、いつもの調子が出ない。結局前半は3対0。後半、気を取り直してと、思いきや、また開始早々失点。しかし、その後、ラインコントロールでオフサイドも取れるようになった。好機も何度かありましたが、結局得点無く4対0で終了。悔しいことに相手の得点は全て日本人！！シュート数では、こちら2本、あちら11本と、その差は明らかでした。

この借りは、週末に返します。

* 交流

そのあとは、メインイベント！近くのレストランで、メンフィス大学選手との交流会。

2005-02-25

Bridge2005 トレーニング NBA!

今日は、朝遅めの11時出発。

かなえがプレーしていたCBUの元アシスタントコーチのジェリー（今は、Martin Methodist College監督）が、あすかとはるみを連れてやってきた。はるみは去年、このツアーから留学を決めた選手の一人。土日のハードスケジュールを考慮して、約45分くらいのトレーニング。バストレーニングだったが、周りを観て、準備をするということを要求されるメニューだった。

今日のメインは、NBA!! メンフィス・グリゼリーズとデンバーのゲーム。しかあし、チケットは売り切れ。この対策はあとで考えるとして。

あとは、ダフ屋との交渉のみ。吹っかけてくるのをなんとか強気で交渉して、皆チケットをゲット。無事にNBAを楽しむことができました。結果は、延長最後の最後で、メンフィスの負け。

今日は、日本からノントン、ウェストバージニアからかなこ、あやか、ニューヨークから、アンボンが合流しました。明日からが勝負だ!!

2005-02-26

Bridge2005 大会初日

今日は、待望の大会初日。9時半のキックオフだったので、8時15分に出発。9時半の相手は、強いという噂のOle Miss。開始早々に失点。ディフェンスラインのコントロールがうまくいわずに、ロングボールを入れられて、走らされての連続で、結局0-6。攻めてはいるのに、シュートなし。日本人らしい結果で終わってしまいました。

2試合目は、Tulane。この試合から、マーティンメソドロジストのブリッジ留学生ちあき守護神が登場。序盤は結構ボールがリズムよくつながって、点が入りそうな場面も何度かありました。しかし、いつの間にか攻めこめられて失点。前半3失点。後半は無失点に抑えていましたが、ラストでやられて、結局4対ゼロ。未だ得点できず。しかし、試合前のスライディング練習の甲斐あり、何人か果敢に滑っている選手もいました。

3試合目は、UT Martin。フリーキックが運良く決まって、先制! 今大会初ゴール。しかし、すぐに1点返されて、1-1で前半終了。後半、勝って終わろうと思ったものの、ゴール連携不足もあって、結局1-3。センターバックのみーみはスライディングならず。

結局全部負け。負け犬の遠吠えではありませんが、試合内容は点差ほど開いていないのに、いつの間にかこんなに点を入れられている!! なせだあ~?

明日もハッスルハッスル。

2005-02-27

Bridge2005 大会最終日

今日は、実質的にこのツアー最終日。大学生相手にまだ勝ちのない私達。勝たないことには帰れない！！

緒戦は、9時半 NCAA ディヴィジョン 1 のアラバマ大学。善戦するも前後半に一点ずつ決められて 0-2 の敗戦。

2 試合目は 2 時。サッカークリニックをやってくれたジェリー率いる日本人が 5 人いるチーム、NAIA のマーティン・メソドロジスト大学。ここは負けられない。今日の GK の助っ人は 186cm のアメリカ人 GK セーラ。待望の先制点はなんとユキ！ゴール前でフリーになりゴール！！サッカーを本格的に始めて数ヶ月。ベンチもピッチ也大騒ぎ！！やったね！！しかし、しばらくして、同点シュートを決められ、前半は 1-1 で終了。気合を入れて後半開始！のはずだったが、シュートのこぼれだまを、U-19 日本女子代表あすかに決められ、逆転された。惜しくも初勝利ならず。

3 試合目は、30 分のインターバルで、コーチ自らこの大会で一番弱いというノース・アラバマ大学。雨が降ってきて寒い中、全員出場。勝つしかない。1 点目は、ゴール正面 30m ほどのフリーキックをみずほ。GK 前でバウンドして、ファンブル。ゴールイン！！このまま行くぞ！後半、ゆかが 2 点目を決めた。その後、なぜか PK を取られて、2-1 に。しかし、まさがあゆむのパスから、冷静に決めて 3 点目。その後、2 点目を取られるが、3-2 で試合終了！6 試合目にして初勝利！ 寒かったけど、気持ちよく終わることができた。

2005-02-28

Bridge2005 さよならメンフィス

朝 7 時出発。9 時半発メンフィス。

問題のトランジットは、17 人無事に飛行機に乗り込みました。

2005-03-01

Bridge2005 帰ってきました。

ここで得た経験は数字では表せない。10 日前とはちょっと違った自分になっているんじゃないか。少なくとも、みんな、正しいか正しくないかは別として英語を多用するようになった。

また、陽気な仲間達が増えた。みーみは嬉しい。

私の日記に文句がある人は、BBS に書き込むように。

I LOVE YOU ALL また会う日まで。 みーみより。

2005-05-01

アメリカの地域サッカー 筆者：羽石架苗

アメリカの女子サッカーは上のレベルでは、Wリーグ、プレミアリーグと全米規模でリーグが行われていますが、各地には、勝つためだけを目的とせずにサッカーを楽しむために多く女性がサッカーをしています。大学を卒業した後も、地域のチームに入ってサッカーを続けることが可能です。場所によっては、(例えばシアトル)地域の女子サッカーリーグだけで8部に別れ、レベルの高いリーグを運営しているところもあれば、女子サッカーが少なくても5チームくらいでリーグを組んでいるところもあります。とにかく、どこの地域に行っても女子サッカーリーグというのが存在し、多くの女性が女子サッカーを続けられる環境にあるのがアメリカ。私は、まだあまり詳しくないけど、ママさんサッカーリーグも盛んなようです。

と、私も、ニューヨークでは、New York Magicの監督が持つローカルチームでプレーし、メンフィスにいる間は、男女混合リーグと女子リーグのチームに入って、勝つためというより、運動のために仲間とサッカーを楽しんでいます。

先週の木曜日は、私がメンフィスを離れる前の最後の女子サッカーチームでの試合でした。まー、かなりみんな楽しむことを目的としているので、(みんな仕事しているし)勝つためという感じはあまりありませんが、そういうチームに参加することで、素晴らしいサッカー仲間がたくさんできます。みんな本当にいい人たちで、かなピーは大好きです。サッカーを通じて、こんなにもたくさんの友達が、こんなに簡単にできるんだなー、とサッカーは世界共通ということを改めて感じた一日でした。メンフィスを離れてしまうけど、大好きな仲間とこれからもずっと友達でいようと誓ったのでした。(か)

2005-05-03

菅平サッカーマガジンカップ 筆者：小林美由紀

みーみに癒された日体軍団・ちわ！OLのみーみです。昨日から、サッカーマガジンカップのために菅平に来ています。

この大会は、多分、日本の女子サッカーの大会の中では、最も古く、最もチームが集まる大会ではないかと思います。今年は、参加枠がまた広がって、なんと74チームが参加。全国各地からチームが集まるということもあり、何年も前のツアーであった仲間に会えるのが楽しみでもあります。1年に1回だけど、久々に会って、サッカーまだ続けてるんだ！と励みになるし、私もまだまだがんばるぞと心を新たにします。

2005-05-15

W リーグ開幕！

今日、かなえの所属する New York Magic は、W リーグの開幕戦をホームで戦いました。相手は、今世界の（アメリカだけでなく世界よ。。ホント。。。）女子サッカーのクラブチームで一番強いといわれている NJ Wildcats。アメリカオリンピック金メダリストやらヨーロッパ各国の代表が勢ぞろいしたスター軍団。。W リーグの中でもいつも上位にいるボストンを、彼らの開幕戦でなんと 4-0 で倒しているチーム。。。

試合は、天気の良い土曜日の夕方 4 時からマンハッタンのちょっと北にある IONA 大学で行われました。試合開始 4 分いきなり先制されます。中央できれいにワンツウを決められ、そこから抜けた Wildcats の選手がボールをネットに流し込み。。。「はー、この試合、長くなるな。。」と一瞬チームにいやなムードが流れたもののその後 90 分以上 1-0。Wildcats は多くのロングシュートを打ちながらも得点できず、逆に New York Magic もいくつかのビックチャンスをつかむものの得点できず。。。そして、審判がロスタイムは 2 分といったのにも関わらず、ロスタイムに入って 5 分、相手の強烈なフリーキックが決まって、2-0 で試合は終了。負けは負け。でもこのスター軍団相手にいい試合をしたことに、私達の監督はオッケーということにしてくれて、次がんばります。ちなみに New York Magic も、ガーナ代表、アイルランド代表、アメリカ U19 代表、イングランド代表と、それなりのチームですよ！！代表に入っていないけど、スウェーデン人アメリカ人などインターナショナルな、面白いチームよ。

ちなみにかなピー（かなえのあだ名）は、今日はサイド MF としてプレー。今シーズンも他二人とチームキャプテンを務めます（キャプテンは他に 2 人いるので、私は盛り上げ役??）

2005-05-31

New York Magic サッカー教室

先週末、アメリカはメモリアル DAY で Holiday 週末でした。日曜日、New York Magic のメンバー 4 人は、ホームフィールドのある地元の小学校でサッカークリニックを行いました。その会場では、ユースのチームが 50 チームくらい集まってトーナメントを行っていました。年齢は、下は 5 歳くらいの少女から上は 13 歳くらいまでで、デモンストレーションを交えながら、一緒にサッカーボールをけり、New York Magic のホームスケジュールを配って試合を見に来てもらうというのが目的。思ったより好評で、チームの T シャツも売れ、みんなで一緒に写真をとったりしてとても楽しい時間を過ごしました。天気も良かったし、気持ちよかった。。。

ふと思ったけど、日本のLリーグのチームは、地元のユースの大会に顔を出して、ホームゲームのスケジュールを配ったり、サッカー教室をしたり、Tシャツを配ったりしているのかな。。小さきことだけど、まず存在を知ってもらおうというものの大事だよね、って思った。選手はただサッカーをしていれば良いというのではなくて、チームの宣伝にもっと協力しても良いかもね。。(もちろんやっているチームもあると思うけど)。選手個人にとってもいい経験になるしね。

Bridge2006

2006-03-12

Bridge2006 ゲーム DAY

アメリカ最初の試合の相手は、昨日一緒に練習した、かなえのコーチする Western United U-17。隣町の Holyoke High School で。13時からのキックオフ。35分ハーフ。

4-4-2の布陣でスタート。前半は0-0。後半交代で入ったけーこが、裏にうまく抜けて本ツアー初ゴール！同点にされるが、ひらが逆転ゴールを決めて、2-1で勝利！相手の足の長さに戸惑いながらも、まずは一勝。

そのままU17の選手たち+Smith Collegeのシニア（4年生）が混ざって、2試合目開始。アンナがハットトリックの大活躍。3-0としたところで、安心してみーみ登場。けーこ、みーみのセンタースタックは、最強と思われたのだが、入った途端に2点立て続けに失点（全て裏を抜けられた…反省しきり）。その上、相手のGKキックに、自信をもって「OK！」まさに「My Ball」クリアするはずだった。が、しかし、思いのほか飛距離が長く、ボールが近づいてくる30cm位手前で取れないことがわかり、思わず「ギャー」、ベンチ、前線は爆笑だったが、当事者の後ろのケーコが焦ったのは言うまでもない。悪いね。選手というものの、常に「リスク」に備えておかねばならぬのだよ、ははは、。（選手に試練を与える指導者の立場もツライ、）しかし、最後の最後で、クロスに反応したヒラが、綺麗なヘディングシュートを決めて、4-2で試合終了。よかったよかった。

試合後は、ピザ屋さんで交流会。皆、積極的に交流して、すばらしい異文化コミュニケーションとなりました。

2006-03-13

Bridge2006 INDOOR GAME

本日の午前中のイベントは、Smith CollegeのAthletic DirectorのLyn先生に話を聞くことでした。アスレティック・ディレクターとは、日本で言えば体育学部と運動部の総まとめをする役で、女性のアスレティックディレクターは、男女平等の国アメリカでも非常に珍しい

とのこと。リン先生は、ソフトボールとバスケットをやっていましたが、幸運にも女性のコーチに指導され、若いうちから、スポーツの指導者および経営に関わる人を志していたようです。コーチングの修士だけでなく、経営学修士（MBA）も取得していて、広い視野を持ってスポーツに関わっていると感じました。

皆、果敢に英語で質問をしていて、今回の参加した選手の意識の高さに感心しました。きっと、普段は、女性とスポーツというようなことを考えたことがないかもしれませんが、ああいう偉大な人の話を聞いて、ちょっと今まで使わなかった脳を使い始めたかも、。

午後は、屋内ドームでU Mass（マサチューセッツ大学）と8対8のゲームをしました。U Massの監督の息子さんは今、北海道大学で日本語の勉強をしているだけあって、かなりの親日家。

最初は慣れない芝と8人制の変則布陣に戸惑いながらも互角に戦っていましたが、しかし、170あるヒラより頭一つ大きい選手が何人もいて、昨日とは違う身体のアたりと、ディフェンスしていてもクロスをあげられる足の長さに戸惑っている様子。なんと6連続失点。最終的には2-9。悲しい負け方でした。。

Northampton では最後の試合、NY ではいい試合しようね。

和歌山大のえりこ（ツアー参加4年目！）とななせが合流！うちのテンションに早めにCatch up！（み）

2006-03-14

Bridge2006 Smith Day!

今日は、大学探検の日。まずは、アスレチックトレーナーのDave（女性）の話を聞きに。希望者のはずが全員参加。各大学には専属のアスレチックトレーナーが雇われていて、運動部の選手の面倒をみることになっている。スミス大学には2人専属のトレーナーがいて、Daveはその一人。皆の質問に丁寧に答えてくれた。

2006-03-15

Bridge2006 移動日

Northampton からニューヨークへの移動日。

ラグアディア空港のすぐ近くの中国・韓国人街の中にある宿で、前は道路工事中だし、皆ビビっていたけど、フロントのお兄ちゃんも感じよいし、マンハッタンまでは地下鉄で30分くらいでいけるし、結構ナイスチョイス。明日帰るくみにお別れをして、まずは、42ndストリートまでみんなで出て、後は散れーって感じで解散。

皆夜無事に帰ってきたし、まずはNYの歩き方はマスター。

2006-03-16

Bridge2006 Shopping! training!

朝からバンを貸し切って、宿から1時間ちょっとの Woodbury Outlet Mall に皆で繰り出し。マンハッタンのおばの家に泊まった私は、おばに「そんなニューヨークにいるのに、わざわざアウトレットなんて行かなくて、」という言葉に、残ってダウントウンで買い物。夕方は、せっかく NY に来たということで、セントラルパークで練習。始めたのが5時半近かったので、暗くて、その辺の公園と同じじゃないか！！って感じだったけど、ま、怪しい日本人たちが何やら暗闇で動いていました。練習後、uptown のサイゴングリルというベトナム料理屋へ。生春巻きやらベトナム麺ホーやらを食。テレ朝の社内報を書いている記者の女性が、私たちをインタビューにやってきた。うまくいけばテレビ出演かも、。

2006-03-17

Bridge2006 自由の女神見物&Game against LIU

ニューヨークといえば、自由の女神！マンハッタン島の南端 Ellis Ireland にそびえている自由の女神 Statue of Liberty 観光へ。地下鉄を順調に乗り換えて、South Ferry 駅で下車、と思ったら、ドアが開かない。降ろしてくれー！と日本人騒ぐが、素通り。車内の表示を見ると、駅が短いので前の5両に乗っていないと降りられないとのこと。おーいっ早く言えよ！仕方がないので、次の駅から1番前の車両に乗って、無事下車。ふーっ。

地下鉄で3つ目の LIU へ向かう。5時からのキックオフだったのに、着いたのが4時45分。5時半にキックオフをずらす。30分間のアップにも最近慣れてきた面々。やればできる。

前半は始めは大きくやってなかなかいい展開。開始5分くらいで、ボランチ初挑戦のケークが芝に足を取られて負傷（本ツアー3人目）。それでもボール支配率は7割程度。しかし、1回のカウンターで、1点目を決められる。その後、アイちゃんが得意の左足のキックで同点に。その5分後、ワントップのちなつが1対1をしっかりと決める。2-1 勝ち越しでハーフタイム。

しかし、後半早々同点にされ、相手が波に乗ってしまった。こちらは何だかばたばたに。後半35分に逆転ゴールを決められて3-2。ふー。勝利を逃してしまった。試合後、アンボンの案内で、ブルックリンブリッジからの夜景を満喫。ちーっともロマンティックじゃないジャージ軍団だったけど、心洗われて明日に臨む機会になった。

2006-03-18

Bridge2006 ナイスゲームの後は…

午後6時から、ニューヨーク郊外にある Hofstra University で試合。今回の対戦相手の中で

の最も強豪という相手。昨日の逆転負けの教訓が生かされて、序盤から好調。1点リードでハーフタイムに。後半同点にされるがあわてることなく、交代したばかりのボランチのみずきがコーナーのこぼれをおいしく決めて2点目。40分には、左サイドバックのひらが上がってきて、絶妙なループパスを逆サイドに走り込んできたフリーの真央の目の前に。丁寧に決めて、駄目押しの三点目。皆が駆け寄ったマオの目には感激の涙、涙。そして、喜びの試合終了。3-1。やったね！

幸せな気分で帰途へ。昨日合流した亮くん夫妻も一緒に電車で帰る。途中乗り換えるはずの駅に何故か止まらず、マンハッタンまで帰ることに。Penn Station でいつもの7番の地下鉄に乗り換える。しかし、目的地の Flushing の半分くらいの Woodside（もともと乗り換えるはずの駅だった）でストップ。シャトルバス輸送をするという、淡々とした社内放送。Sorry という言葉は一言も聞こえず。ここでも私達3人は乗れない感じだったが、大きなおじさんがタマとサツキを無理やり抱き上げてくれて、入り口のステップへ。親切とはいえセクハラとも言える？中はがらがらなのに、入り口だけ混んでいることに腹を立てた私は、‘MOVE IN PLEASE!!’と後ろから叫びまくる。おじさんに抱えられたままのタマとサツキとはもう笑うしかない、。混乱のバスの中で私達の笑い声だけが響き渡る。そんな状態で揺られてやっとのことで、最終駅 Flushing に。着いたのが夜中の1時過ぎ。3時間半くらいかかって宿に到着。Northampton より遠い道のり。何よりもアメリカを感じた1日となった。

2006-03-19

Bridge2006 ラストゲーム

今日はいよいよ最終日。試合前は、East Village で買い物。試合会場の LIU に行くまでにまた地下鉄が止まっていたけど、慌てることなく、別ルートの地下鉄に乗る。昨日のハプニングで慣れただけあって、皆時間通りに現地に集合していた。人間の適応力ってすごい。

午後6時キックオフで、相変わらず寒い。私達との試合のために、春休みを1日繰り上げて帰ってきてくれた LIU と対戦。3連戦の疲れが出たのか、ディフェンスラインはめちゃくちゃ、中盤でボールがキープできない。盛り上げようと、応援に来てくれたニューヨークに住んでいる日本人の女の子も混ざって、応援ダンス。その成果あってか、前半の途中から何とか立て直す。後半早々、相手のクロスに反応しきれず、まりかにあたって自殺点。反撃しようとシュートを数打つが、入らず。0-1で最終戦は終了。しかし、ハードスケジュールの中、皆よくやりました！

終了後、クールダウンで一緒になった LIU のメンバーと、即席ダンス交流会が始まる。皆、もうすっかりコミュニケーションはうまくなっているので、仲間づくりはお手の物。今年の

メンバーはそういう意味で本当にすばらしい。

2006-03-21

Bridge2006 帰ってきました。

3月21日午後5時10分、成田空港到着。16人無事に12時間以上のフライトに耐えて、戻ってまいりました。12日前に成田を出発した時の自分に、プラス α を加えた人間になったことでしょう。留学する、しないにかかわらず、異国に触れることで、オプションがひとつ増えたことは間違いないと思います。

ひとつのサッカーボールを通じて広がった輪。またみんなで笑顔で会おうね。

2006-05-13

世界女性スポーツ会議開催

5月11日世界女性スポーツ会議が熊本で開催されています。100カ国以上の国から、700人の参加があります。

スポーツに関わる女性の意識及び地位向上のための世界会議です。文章にすると固いですが、世界各国から多くの素敵な女性たちが集まっているエネルギーあふれる会議です。

アメリカからかなえも帰ってきて、くみは沖縄から、二人はワークショップの記録係、私はその管理！です。

会議の中で、いろいろなアイデアが浮かんできます。ブリッジをもっとでかくするぞーとはりきってます。



2006-06-22

Western United U-17 シーズン終了 筆者：羽石架苗

ブリッジ2006 ツアーチームが、ツアー中に対戦したことでもおなじみの、Western United

U-17 (WU U17) のシーズンが終了しました。このチームは、かなピーがヘッドコーチとしてコーチを務めるチームで、いろいろ勉強になったヘッドコーチ初シーズンでした。大学でアシスタントコーチをしているけれど、アシスタントコーチとヘッドコーチの仕事の差も十分思い知らされました。ユースのこの年代をコーチしたのは初めてで、大学生とはまた違った環境に学ぶことも多し。アメリカでは、大学に入る時にスポーツでもらう奨学金の制度がしっかりしているので、高校生のスポーツと大学選びが深く関わっているのです。(時には入学の可否も左右する??!!) 高校生のトーナメントには多くの大学コーチたちが足を運び選手探しをします。逆に高校生たちも自分のプレーを志望校のコーチに見てもらい、奨学金等の交渉をします。選手の親たちも大学入学+大学でもらえる奨学金がかかっているのです。必死。ということで、ユースのこの年代をコーチするということは、コーチをするだけでなくさまざまなことが関わってくるのです。

といっても私のコーチする WU U17 の選手たちは、本当に本当にいい子ばかりで、親たちも理解が良く、ラッキーだったなと思います。中には1, 2人プレー時間や選手起用やチームへのコミットメント等でもめた選手もいたけどねー (正直)。最終的にチームは、州大会で負けてしまったのだけど、登録選手が少ない中、一人一人が良くがんばったって思う。アメリカでコーチをやっている (特にヘッドコーチをやっていると) 感じることは、コミュニケーション能力がいかに大事かということ。指導する時は、いつも話をしている英語ではなくて、特に私にとって英語は母国語ではなく、アジア人のなまりがあるから、分かりやすくゆっくり話をする必要があるし (まー、みんな知っていると思うけどかなピーは日本語も英語も早口です。)、言わなくても分かるだろうではなくて、一つ一つ確かめていく必要があって、そして一番大事だと感じたことは、一人一人 (特にこの年代は) サッカーしている目的がちがくて、それぞれのモチベーションも異なる要素から来ているということ。だから、本当に一人一人を大事に理解していくためのコミュニケーション能力が大切だと学んだかなピーでした。

こういったコーチングを経験していると、選手としてもまたひとまわり大きくなれると、こういう経験をする場を与えてくれている人たちに感謝するかなピーでした。

2006-09-22

アメリカ大学サッカーシーズン 筆者：羽石苗

ここアメリカではただいま大学サッカーシーズン真っ最中であります。ということで、ブリッジで留学したみんなも (ツアーに合流してくれた選手も含めて) ががんばっているのです。チェックしてください。

まずは、ブリッジの星 (?) いなば。そして今年留学したたま。さらに、最近書き込みをし

てくれた尚ちゃん、NAIAからNCAA D1に今年から編入した（ツアーにも合流してくれた）
そめ、ブリッジにはあまり関わりがないけど、そめと同じ大学から編入したまいこちゃんた
ちのメンフィスチーム。そして膝の怪我から回復したツアーでおなじみのしーちゃん。今年
ツアーに参加してくれたみずきのチーム（メンフィスツアーではツアーチームが対戦してい
る）去年留学した“たま”（アメリカにいる？）と今年留学したあいちゃんの大学はまだ写
真がアップされていなかったの、また後ほど。というかんじで、アメリカでは今大学サッ
カーが盛り上がり中！！みんな学業とサッカーとの両立が一番大変な時だけどがんばってほ
しいね。

ちなみにかなピーがアシスタントコーチをしているスミス大学もシーズン真っ最中。去年4
年生が7人（全員スタメン）ぬけて、更に2人（この選手達もスタメンだった）が編入した
ので、なんと10人も1年生がいるのです。でも、予想に反してこのヤングチームがかなり
の団結を見せていて、不運も重なって結果に表れない時もありながら、毎年全米大会に出場
している強豪を倒してみたりと、これからが楽しみなかんじ。私も、ここでのコーチ2年目
ということもあり、去年よりもかなり余裕を持って楽しくやっています。サッカーのコー
チングはもちろんのこと選手個人個人とのコミュニケーションの大切さを感じている毎日
でした。

2006-10-12

世界女性スポーツ会議の報告会

2006 ブリッジアメリカサッカーツアーでおなじみのスミス大学で、あの時ツアーチームを
家に招いて歓迎会をしてくれたクリス（ツアーに参加した人、覚えている？）と協力して、
5月に熊本で行われた世界女性スポーツ会議（過去の記事に戻るとみーみがそのことについ
て日記書いているよ）の報告ランチをしました。ホームページへのアップがかなり遅れまし
たが、ジュース（スポーツに関わる女性を支援する会）のホームページに報告レポートを書
いたので、興味のある人は公式サイトを参照して！

2006-12-18

NCAA Women Coaches Academy（かなびー）

NCAA（National College Athletic Association：大学体育連盟）がスポンサーとなり、コロ
ラド州デンバーで5日間にわたってNCAA Women Coaches Academyが行われました。
数ヶ月前に、アメリカ中から何百という応募があった中、25人の参加者に選出された私は、
日本人女性ではもちろんアジア人女性でも（アメリカ生まれのアジア人を除いて）おそらく
初めての参加（証拠はありませんが）ということで、“マイノリティーであることも時には

良いことがある”とその機会を楽しんできました。

学校スポーツの男女平等を保証する法律、“タイトルナイン (Title IX)” が制定された 1972 年には 90% 以上の女性スポーツチームの指導者（コーチ）が女性でした。しかし、その法律の効果で女性競技者が目覚ましく増える一方、女性スポーツチームの女性指導者（コーチ）の数が大幅に減少しています。NCAA 2002 年のデータではたった 44% の女性チームが女性を指導者としているのでした。NCAA Women Coaches Academy は、NCAA がこの問題に焦点を当て、“女性スポーツ指導者（コーチ）の教育とネットワーク作り”を目的とした女性スポーツ指導者講習会です。

Bridge2007

2007-03-12

Bridge2007 行ってきまあす。

成田搭乗口の前にて

第 14 回海外女子サッカーツアーが、始まりました。

集合時刻の 13:45、成田に無事 16 人全員集合！もちろん私も。

今年はパスポート忘れもなく、上出来上出来。

今年は、ツアー参加最年少記録を更新。

高 1 のあすみは、なんと北海道帯広から参加！

学校休んでいいのかっ！？って感じだけど、彼女は、お父さんを通じて、中学のときから参加のラブコール。高校生になり、晴れて参加ということです。ありがたいありがたい。

そして、今年は、沖縄出身者（よーこ）もいるということで、日本全国津々浦々、ブリッジもとうとう全国区になりました。なぜか関西系の多い今年のメンバー。

さあ、どんな 10 日間になることやら。

珍道中の始まりはじまり。

2007-03-13

Bridge2007 NY に着いた

成田から約 12 時間。

日本を出た 12 日 17 時と同じ 12 日 17 時くらいにニューヨークに到着！

空港から、シャトルでマンハッタンに行って、15 人乗りのバンを二台借りて、マサチューセッツへ。

そこから約 3 時間。時差ぼけにはかなりハードなスケジュールでしたが、半分眠りながら（うそうそ）運転し、なんとか、なつかしの Northampton のホテル到着。

皆へとへと。明日はいきなり二試合ですわい。

2007-03-14

Bridge2007 本日2試合

今日は、11:15 集合

さすが体育会系、早い集合だなあ、と思って、腕時計を見ると、なぜか11時半。

おーっと、と何気なく、その場を通り過ぎ、支度をしにもう一度部屋に戻る。

部屋の時計は、1時間遅れ。サマータイムになったのが、この週末で、まったく人騒がせだ。

何事もなかったように、1台のバンで、スミスカレッジに出発。

アスレチックディレクター、日本で言えば、体育会の部長ともいうべきか、のLyn先生のお話を聞く。

このポジションに女性はほとんどいない。苦労話というよりは、きっと彼女にとっては、来るべき道を来たという感じなんだろうなあ。アメリカの大学の運動部と日本の運動部は、学校での捕らえ方からして違うので、ちょっと感覚的に難しかったかもしれないが、日本におけるスポーツ特に女子のを考えるきっかけになったらいいと思う。

そして、16時からNCAA DIVISION1のマサチューセッツ大学と試合。

序盤は攻めてて、ひかりをはじめシュートもあり、押し気味だった。しかし、8分、相手の最初のシュートがゴールとなり、リードを許す。そして、オフサイドだったが、審判が一人だったために、気づかず、うちのバックもアピールせず、2本目のシュートで0-2。28分に、ゆりえのコーナーから、ひかりが決めて、1-2として、前半45分終了。

後半は、支配率はきっとブリッジチームの方が上だったが、ゴール前のディフェンスのバランスが悪く、どこどこ決められ、最終的に1-6。うまさ的には皆の方が上なのだが、これをフィニッシュの差というべきか、時差のせいと言うべきか。ま、競る部分では、皆ことごとく、やられてたからね。

10分おいて、かなえがコーチするWESTERN UNITED U-18のチーム。

1試合目さんざんだった、よーこが少し意識を回復し、ミドルシュートを決め、先制。

まさやらひかりやらあすみやらGKと1対1になるも、はずしてるうちに、中盤でのミスをとられて、左ぶっちぎられて、後半同点にされる。結局1-1。この後のピザパーティのために、日本人らしく、少し遠慮したということにしておこう。

2007-03-15

Bridge2007 今日は雨

今日は、アクティブレストということで、雨が降っていたので、体育館で練習。

しかし、私は決めていた。今日のテーマは「コンタクトスキル。」40分くらいの短い間でしたが、皆の熱いぶつかり合いのおかげでいい練習ができました。これを次の試合で生かしましょう。

思いのほか汗をかいた皆は、そのままクラスルームに行って、ランチのサンドウィッチを食べながら、スミスのコーチ陣とのグループディスカッション。うちのグループは、まりか、しょーこ、ゆりえ、えりが、ソフトボール・アシスタントコーチの Jane（かなえの元 roommate）を囲みました。賄賂をもらったらしく、かなえはすごいと大宣伝。それぞれが自分のスポーツ歴などを話して、なかなかいいミーティングでした。

その後、キャンパスツアー、Northampton downtown に放たれて、各自でショッピング。雨の中歩いて帰ってきました。

2007-03-16

Bridge2007 snowing all day!

今日は、10時半に宿を出発。

アスレチックトレーナーの話を聞く予定でしたが、スケジュールが合わず、練習に切り替え。今日のテーマは「コントロール」。軽めのメニューで、最後はゲーム。ひかりに、最後に股抜きされて点を決められ、めっちゃ悔しい思いで、練習を終えた。

そんなこんなしているうちに、天気予報どおり、雪が降ってきて、予定を繰り上げ、早めに出発。

ふぶいて、フロントガラスに氷が固まって、ワイパーが利かず、前は見えない状態。こわごわ平均 30~60km くらいで高速走行。延々 7 時間。8 時半にホテル到着。

ニューヨークの空港には飛行機が着かず、今日来るはずのしーとたまは足止め状態。そして、空港近くの私達のホテルは、足止めを食らった人でいっぱい、8 部屋のはずが、スイート 2 部屋とツイン 3 部屋。スイートはキングサイズのベッドが二つ＋ソファで 5 人の詰め込み。明日のゲームは、あさっての日曜日に延期となりました。

2007-03-17

Bridge2007 マンハッタン

シャトルで、空港まで行って、マンハッタンまでの電車に乗るはずだったが、雪で空港まで来るモノレール（AirTrain）が運行中止。妙にテンションの高い運転手のバスで駅まで行って、40 分待った末に電車に乗る。まずは、ペンステーションで解散。

昨日の貧乏飯から何も食べてない人々はすぐに、セルフサービスのデリ・レストランへ。そこで、よーこがいきなり万引き。スパゲティーを頼んだのだが、そのまま持ってきて席につ

いて何事もなかったように食べている。払う場所がわからなかったらしいが、ニューヨークに来て無銭飲食とは大したものだ。

その後、6時半にミュージカルを見る人たちは、7th Ave.& 50th st.に集合。一番安い62.5ドルの席を15人分ゲットし、かなえ曰く、‘みーみ系’のコメディ「ママミア」を見る。いやああ面白かった。最後はノリノリの大感動のまま幕を閉じる。英語がわからず、寝ていた子もいたらしいが、みーみもかなPも大興奮だった。

帰りのタクシーが見つからず、寒い中一苦勞。最初に出たりさ達のタクシーが、なかなか帰ってこず、心配しましたが、迷った末に無事生還。よかったよかった。

2007-03-18

Bridge2007 再度延期。

今日の試合は、雪のせいでグラウンドコンディションが悪く、水曜に再度延期になりました。ということで、午後12時から練習場所をとって、トレーニング。今回のテーマは、「動きながらのコンタクト&シュート」3日くらいあけてしまったので、ちょっと？きつめにやりました。

2007-03-19

Bridge2007 自由の女神

ダウNTOWN観光。自由の女神に皆で行って、そこから、自由行動。グラウンドゼロに行ったり、SOHOに行ったりして、LIUのあるDecalb駅に集合。

今日はロングアイランド大学（Long Ireland University）との試合。しかし、ピッチは雪が思っきり積もっていて、外ではできない状態。アシスタントコーチのアンボンがまずは大学内をツアーしてくれました。シーを迎えに行ったかなえの車が遅れて到着。荷物をもって更衣室へ。そこに来るまで迷った奴らもいたが、まあ、なんとか着替えて体育館へ。

日本チームは、4チーム、LIUチームは3チームに分かれて4対4のゲーム。人数合わせで仕方なく!? みーみも入る。腹筋パワー炸裂、バックからのロングシュートを決めて勝利! はははあああ、。ゴール前のスルーパスがうまくカーブして、入っただけなんだけど、。それも左足。それが、うちのチーム（ゆず、大道、しょーこ）の唯一の得点だった。

小さいゲームは日本人が強い。みんな段々強いあたりにも慣れていって、積極的に攻めるようになった。エリが教科書のような振り向きざまのシュートを決め、大活躍。21試合やって、14-10. 向こうのコーチはなぜか12-12の同点だったと言っていたが、ま、awayということでもいいか。

2007-03-20

Bridge2007 Shopping! Shopping!! Shopping!!!

今日は待望のアウトレット Day!

10 時出発予定で、10 時半出発。ナイスナイス。渋滞などあり、2 時間かけてウッドベリー・コモンズ・アウトレットへ。日本のアウトレットとは規模が違う！でかい！！4 時集合と約束して、それぞれに散る。

その後、マジソンスクエアガーデンで NBA 観戦。NY Knicks vs Dallas ダラスは今年優勝最有力候補の好カード。当日券があるかと思いきや、売り切れ。結局、ダフ屋に走り、20 ドルのチケットを倍～3 倍で買い、観戦を楽しみました。皆、怖いダフ屋とも交渉できるようになり、感心感心。ゲームは、ダラスのうまさばかりが目立ち、ニックスは負け。NBA の雰囲気をも十分に満喫しました。

2007-03-21

Bridge2007 ダブルヘッダー

今日の最初の相手は、IONA 大学。しげさんの車を惑わしつつも、キックオフ 30 分前に大学に着くと、グラウンドは真っ白、人は見当たらない。えっ？インドアシューズいらないと言いつつ切ったのに、。試合はまた延期？嫌な予感、。相手チームのヘッドコーチ発見。グラウンドの雪が溶けず、近くのインドアコートで 8 対 8 をすることになる。またも、しげさんの車にエセ指示をして、時間をかけてインドアコートへ。

時間がなく、32 分ハーフ。始まって 2 分、まさか 1 対 1 から綺麗に決めて先制。皆、練習の成果あり、身体をはって頑張っていました。よしよし。ひかりのナイスキープで何度も救われる。しかし、終了間際に入れられて 1-1 の同点でハーフタイム。勝つで一後半って感じだったんだけど、開始 30 秒で逆転される。8 人制でオフサイドはないので、要注意。後半 8 分に 1-3 とされるが、9 分、りさのキックオフ弾丸シュートで、2 点目を決める。23 分右サイドバックのよーこが、上がってきてロングシュートを決める。最終的には、3-5。アップもそこそに始めたのだが、その割にはよかったかも。

さて、IONA 大学から、2 試合目の St. John's College へ。40 分くらいで行くはずが、なぜか 2 時間以上かかる。途中で高速を逆方面に行っていることに気づき U ターン。私とかなえの教訓「人の言葉は信じない！」インドアコートで、道案内 (MapQuest) まで打ち出してもらったしげさんの好意は水の泡に、。まあ、何とか着いて、すぐそばのイタリアン・ファーストフード屋に寄る。

試合 1 時間前にロッカールームで、比較的時間がありませんでした。

2 試合目の相手の St. John's は、男子は地区優勝など強いこともあり、サッカー専用の人工

芝ピッチが駐車場の上に完備。テーピングが必要な人はトレーナーが巻いてくれて、専用のロッカールームもあり、D1の大学という感じでした。この試合は、今回の対戦相手の中で最強と言われているチーム。久しぶりのフルコートでの試合でしたが、立ち上がりからいい感じ。身体の大きい相手に翻弄されながらも持ちこたえていましたが、前半30分に先制されてしまいました。相手の左サイドのちょー速い子にぶっちぎられて、終了5分前に2点目を追加されて前半終了。

後半気合を入れなおすと、ペナルティエリア外で、えりがファールをされ、そのままフリーキックを打つ。壁の下を通して、そのままキーパーの股を抜けて、1-2。その後2点決められるが、終了前に、ひかりがフリーキックを得て、すばやいらスタートに、裏を抜けたエリにドンピしゃり。えりが2得点の大殊勲。ゲーム自体は2-4と負けましたが、なかなかこのチーム乗ってきました。

2007-03-22

Bridge2007 ラストゲーム

今日はこのツアーの集大成、最後のゲーム。Hofstra University。日本人のゆみチャンがいる大学。NCAA Division1、St. John'sと同じくらいの強さ、最後にするには、十分好敵手だぜ。午前中はフリーで、3時にマンハッタンで待ち合わせ。ホテルでリラックスする者あり、最後のマンハッタンを満喫する者あり。

渋滞に巻き込まれ、キックオフを17時半に遅らせてもらう。30分のアップで十分上げることができののを、皆も悟ったようだ（無理やり）。前半、立ち上がりから調子よくいい形で攻める。五分五分の戦いで、0-0でハーフタイム。後半もいい感じだったが、19分に先制される。35分にコーナーから決められ、41分にも加点され、結局0-3で終了。でも、これまで一番言い試合。あと数日あれば、と悔やまれる。皆の特徴も見えてきたし、いいチームになると思う。

10時半に帰ってきて、シャワー、パッキングをして12時に再集合、ミーティング。

2007-03-23

Bridge2007 さよならアメリカ

皆、すごい顔して、8時半に集合。そのまま9時のシャトルに乗って、空港へ。かなえ、しーちゃん、たま、さつきとは、ホテルでお別れ。

飛行機に乗った突端、多くの者は眠りにつき、離陸も知らない。Good-by NY!

2007-05-29

日本人初！（たぶん）、日本人女性初！

スポーツ界での女性の地位が他国に比べてかなり確立されているここアメリカでも、女性の競技者人口が増加をたどる中、女性の指導者の減少がここ最近の問題となっています。その中でも、サッカー界は、男女ともに、男性の指導者（特にヨーロッパから）で占められているのが現実です。

そんな中、羽石架苗、この度（周りの皆様に助けられながら、、、）、マサチューセッツ州にあります、名門大学 Mount Holyoke College（マントホリオク大学）の監督に（7月から）就任することが決まりました。日本人女性として初はもちろん、（アメリカ生まれのアジア人を除いて）アジア人の女性としても初の NCAA（National Collegiate Athletic Association）レベルで初の監督就任です。詳しくは、（英語ですが）以下のページをチェックしてみてください。

2007-06-07

スミス大学卒業式



かなぴー、5月20日にスミス大学の修士課程を卒業しました。メンフィスで一つ目の修士を取ったときには、卒業式に参加できなかったのが、今回実はアメリカでの卒業式初めてで、あのハットをかぶってマントを着てみました。

卒業式の前日には、キャンパス中でパーティーが開催され、私も、ブリッジツアーでお世話になった、かなぴーの恩師、クリス先生の家パーティーに行きました。

映画で見たことあるなーと思って楽しみにしていたのが、最後にハットを投げ上げること。自分ののを失ってはいけなないと、ちゃんと真上に投げてみました（笑）日本もアメリカも式というものは、人の話が長くて、2時間以上かかったけど、良い経験でした。

スミスでの2年間は、アシスタントコーチとして働き、学生もし、ということで本当に充実

した日々でした。授業のレベルもかなり高くて、実はかなりチャレンジってかんじでしたが、すばらしい仲間に出会って、楽しい楽しい毎日でした。かなピーは、幸いスミス大学から20分しか離れていないマントホリオク大学に就職し、これまた20分くらいしか離れていないマサチューセッツ大学で博士の勉強をするので、これからもこの地域で、皆さんと仲良くお付き合いしていくという感じです。楽しみ。

P.S. 卒業式にシーちゃんとリンデラがサプライズで登場！朝早く起きて、ニューヨークから運転してくれました。感謝、感謝！

2007-11-09

NCAA ヘッドコーチとしての初シーズン 筆者：羽石架苗

かなピーが監督（&先生）として働いているマントホリオク大学はプレーオフに出場することができずに2007年のシーズンが終わりました。

アシスタントコーチとヘッドコーチの仕事は、全くといっていいほど異なり、新しいことばかり、ヘッドコーチはこんなに大変なのかと、楽しみながらも、『経験』という言葉がびつたりの今シーズンでした。

ハーフタイムでのもっと効果的な支持、ゲーム中のもっと効果的な交代やフォーメーションの変更、などなどサッカーコーチとして課題もたくさんありますが、監督というのは、その他にもいろいろ仕事があって、キャプテンたちとのミーティングを通してのリーダーシップ教育、各選手との個人面接、書類管理、、まー、すべてが初めてという感じだったので、来年はもっとスムーズにできることでしょう。。。そのほか、カンファレンスヘッドコーチミーティングや、大学での様々なミーティング。短時間に効果的に自分の意見を言う能力ももっと必要だと感じました。

と、まー、誰にでも初めてというものはあるもので、スカウト（リクルート）もかなりうまくいっているの、かなり上手な選手たちが来年はマントホリオクでプレーします。ということで、来年からは、全く違ったチームになるといってもいいでしょう。

残っている選手たちも、今週でオフが終わり、春シーズンに向けてのコンディショニングが始まります。みんなかなり気合が入っているみたいだし、これからが楽しみです。みんな前を向いて進んでいるというかんじ。

本格的に授業も教えはじめ、サッカーチームとはまた違ったいい経験です。「大学生はかわいいなー」と思いながら教えている自分に気がつくと、自分も大人になったなーと感じるのでした。

1月からは、本格的にドクターディグリーへの活動（勉強）もはじまり、忙しさに流されないうで、『充実』した毎日を大切に生きていこうと思っている今日この頃です。

2007-12-27

アメリカサッカー留学 1 年目 福田真理香

私は昨年からのツアーからアメリカのサッカーに魅了され、ずーっとアメリカの大学でサッカーがしたいと思っていました。昨年 1 年間は悩みに悩み、それでも昨年はもう 1 年日本で試してみようと思いアメリカには来ませんでした。1 年経って今年のツアーに参加して、自分はやはりアメリカでやってみたいという気持ちに改めて気づかされました。そして昨年からの声をかけられていた、テネシー州の McKenzie という小さな小さな町にある BETHEL COLLEGE に来ることを決めました。

BETHEL でのサッカーはというと、もちろん芝ですが、施設は他の大学に比べると決して良いとは言えません。でもとても親切で優しいチームメイト・コーチに恵まれました。こちらに来て 1 週間位でシーズンが始まり、チームメイトの名前を覚えることすらできず、いきなり試合に出され、ハーフの真ん中を任されて、コミュニケーションのとり方もわからず戸惑いながらもやってやろうっという気持ちでやりました。試合を重ねるごとに少しずつチームメイトとのコミュニケーションはとれるようになってくると同時に英語が話せない自分と葛藤の毎日でした。とにかく何も言えない自分が悔しかったです。でも、コーチの早口英語を理解できなくても、それでも私の話に耳を傾けてくれて、私を使ってくれたコーチに本当に感謝しています。うちのチームはインターナショナルなチームで、アメリカ人が半分位、あとはカナダ・イギリス・ジャマイカ・ナイジェリア・日本と国も文化も全く違う人たちの集まりです。今まで一緒にサッカーをしたことない子たちとサッカーをやるのはかなり新鮮でした！！日本にはないものをたくさん持っていて勉強になります。でも国が違いすぎてぶつかることも何度もありました。それでも選手だけでミーティングしたりして、他のチームにはない、うちのカラーで仲は良いです！アメリカでのサッカーは日本のように技術はないですが、速いしとにかくみんなタフです！！少しでも長くボールを持ったらけずられるし、最初の頃は毎試合あざだらけでした。それでも異国の地でサッカーをできていること、チャレンジしようという気持ちで毎試合とにかくワクワクして楽しかったです！！

BETHEL での生活はというと、毎日新鮮なことだらけでした！授業はチームメイトに助けってもらったり、先生もみんな親切でいつも助けてくれました。小さい学校なのにインターナショナルの生徒が多くて、ブラジル・メキシコ・ケニアなどといった子たちともチームメイト以外で友達になり、それぞれの母国語を教えてもらったりして、とても貴重な経験をしているなあっというも思っています。そして小さい学校なのでほとんどの子たちとも顔見知りです。学校でなによりも苦しんだのが食べ物です。カフェテリアという日本で言うと食堂みたいなところで毎日ごはんが食べれるのですが、とにかく油っこくて、バランスも悪くて、毎日チキンが出て。。サッカーの遠征に行ってもジャンクフードやスナックなどといったもの

で、日本にいた時とは全然違う食事に私のお腹が慣れるのにはかなりの時間がかかりました。

あとこちらで、チームメイトに連れられて毎週日曜日教会に行くようになりました。そこでアダプトファミリーになってくれるという家族に会いました。アダプトファミリーというのは要はアメリカのお母さん・お父さんですね、本当の娘のようにかわいがってくれています。私の今のアメリカでの生活の中でかなり助けてもらっています。

長くなりましたが、昨年少々悩みに悩んで、でも思い切ってアメリカにきて良かったなあっと思います。それもこれも、全て周りの人のおかげです。留学を提供・交渉までしてくださったみーみ・かなぴーには本当に感謝しています。この2人に会えていなかったら、この2人と色々な話をしていなかったらきっとアメリカには来ていなかったと思います。そして、何より留学を許してくれて、いつも応援してくれている両親には本当に感謝の一言です。常に向上心と謙虚な気持ちを忘れず来年もチャレンジしたいと思います！！

2008-02-18

National Girls & Women in Sports Day: A Girl Power Celebration



かなぴーの所属するニューヨークマジックは、ナショナル女性（&少女）スポーツデーにちなんで、2月2日と23日にニューヨークの貧しい地域（2日はハーレムで）の少女たちのためにサッカー教室を行っています。

女性スポーツが他の国に比べて進んでいるアメリカでも、少し貧しい地域では、少女たちがスポーツをする機会は激減します。アメリカのそれなりに裕福な家の少女たちは、幼い頃からさまざまなスポーツチームの所属し、親が送り迎えをし、必要なスポーツ道具は揃えられ、、、という環境にいる中、特に、貧しい国からの移民を中心とした地域では、少女たちは、幼い頃から兄弟の面倒を見たり、家事を手伝ったり、家計を助けるために働いたり、とスポーツに触れる機会があまりないのが現実です。そういった少女たちが、10代の早い時期に妊娠してしまったり、学校を退学になってしまったりということは、前から問題にもなっています。

そんな少女たちに、ナショナルガールズスポーツデーをきっかけに体を動かすことの楽しさを知り、スポーツに関わっていくことで、夢や目標を持ったり、生きがいや友達を作ったりする機会を与えようというのがこの企画の（大まかに言った）目的。実際、Women's Sport Foundationが行った調査では、スポーツをしている少女の退学数や、若い年での妊娠の数などが、スポーツに関わっていない少女よりはるかに少ないというデータが発表されています。普段、大学の選手たちをコーチしているかなぴーにとって、こういった少女たちとの時間は、ある意味とてもいい刺激になり、自分もこの子達からいろいろなことを教わります。この子達は、マジックが使っているちょっといいサッカーボールに感動します。マジックと入っているビブスを着てとてもはしゃぎます。ひとつひとつのことにとても感動し、全力で取り組みます。もちろん、サッカーをちゃんと教わったことのある子はほとんどいなく、経験者といっても道で男兄弟とボールを蹴って遊んでいるくらい。でも、その純粋にサッカーを（スポーツを）楽しむ姿勢、なんでも感謝してとり組む姿勢に、かなぴーはサッカーを教えながら、何か多くの大事なことを教えてもらった気がします。



男女混合だと、どうしても男の子がゲームを支配してしまいがちなこの年齢の少女たちに、安全にスポーツを楽しむ場を与えることはとても意義のあることだなとかんじ、小さなことからでもいいから、かなぴーも何かできることからはじめようと心に思った日でした。

Bridge2008

2008-03-21

Bridge2008 やってきました USA!

2008 ブリッジツアーがスタートしました。

今年は、少数精鋭。最初から私が集合時間に遅れるというお約束もありましたが、ご愛嬌。飛行機の出発時間がいつの間にか20分ほど早まる。しかし、事態を飲み込んでいない人たちはファイナルコールの中、余裕で最後に搭乗。今年は、ヒールを履いている子と化粧した「女子サッカー選手に見えない（長谷さん談）」渋谷系もいて、いつもとはちょっと違った面々でまた面白くなりそうです。

乗り継いだデトロイトの機内で、1時間ほど待たされ、その分送れて到着。おかげで、かなえが珍しく時間通りに空港で迎えてくれました。昨日NYに来たひかりも一緒に。ホテルに到着したのが20:00近く。そのまま地下鉄でタイムズスクエアに繰り出して、ちょっとニューヨーク気分を味わいました。

2008-03-22

Bridge2008 練習開始

今日は、珍しく結構時間もぶれず、朝集合。私もちゃんと起きて集合時間の10:00には朝食を食べていました！午前中に近くの草っぱらとバスケット場で練習。時差ボケと長旅で疲れた身体を動かすための軽い!?トレーニング。遊び場を奪われた黒人の子供達をギャラリーに、楽しく1時間半ほど汗を流しました。

その後は自由行動。みんな颯爽とマンハッタンに繰り出していきました。私とかなえ（羽石）とセワ君は、MoMAへ。現代アートはすごい！私でも出品できるような作品があったり、美術に疎い我々も知っている名作があったり、なかなかお勧めです。夜は文化的に、みんなでブロードウェイ・ミュージカル「コーラスライン」を観劇。思ったより物語性が強くセリフの部分が多く、爆睡していた奴も少なくない。最後は看板の前に、ラインダンスでポーズ。まだまだ足上げが足りない！

2008-03-23

Bridge2008 ああ自由の女神

午前中のトレーニングは、セワコーチ主導。最後のゲーム大会では、5連勝で優勝を我がみーみ（小林）チームが勝ち取りました！（まあ、私がいるのでうちのチームだけ一人多かったけど）しかし、その後は他のチームも5連勝。私たちは、その後ほとんど勝てず、バーンアウト気味で練習終了。

午後は、自由行動。多くは、自由の女神にいざ行かん。まずは腹ごしらえ。バーガーキング、マックでtake outし、地下鉄の中でランチを食べて、battery parkへ。15:25到着。チケット売場が閉まっている。なんと、自由の女神のいるStaten Island行きの船は15:30が最終。チケットはもう売らないとのことで、乗船できず。仕方がないので、次の日に行くことに。

グラウンドゼロ。2001年9月11日、2機の飛行機に突っ込まれ、NYのシンボルだったワールドトレードセンターのツインタワーが跡形もなくなった大事件が起きました。そのメモリアルミュージアムへ。当時の生々しい映像、亡くなった3000人近くの人の名が刻まれた碑、変形した飛行機の窓など、こんな事件は二度と起こってはいけなと、改めて感じました。当時中学生だったえりは涙ぐみ、そらは肘から下が冷たくなったり、皆感じる場所があったようです。

2008-03-24

Bridge2008 初戦 vs Long Island University

昨日自由の女神をミスった組は、8:00に出発してStatue of Libertyの元へ。

カオリとヒカリはスプリング・ブレイクが終わり、学校に戻りました。代わりに？サツキのコーチがNY入り。試合を見に来ました。

キックオフは16時。集合は14時半現地。集合を守ったのは、セワ君を含め5人だけ。全員揃ったのが15時30分。集中的に20分でアップを終わらせ、試合開始。LIUは昨日まで同じくスプリングブレイクでフィットしてない選手が多いとはいえ、やはりアメリカ人、フィジカル。日本では滅多に倒されないサナが開始早々倒される。サナも動揺して、せっかくもらったフリーキックも相手にやってしまう。オーマイゴォーッ！開始2分、最初の相手のコーナーキック。ファーポストに入ってきたドフリーの選手が、ヘディングゴールをお見舞い。洗礼を受けた。交代おらず（リハビリ中の私はこんなフィジカルな試合は出ない！）、10分間ほど10人で戦うことに。段々ペースもつかんできて、短いパスでつないだり、ボランチのナツキが果敢にゴールまで仕掛けて行ったり、リズムをつかんできた。ラスト2分で再度入れられ、0-2でハーフタイム。空中戦では勝てないので、グランダーのパスでつな

ぐゲリラ作戦を共通意識に、後半に臨む。9分に0-3にされたものの、粘ってよくがんばりました。45分ハーフを人生初めて体験した選手がほとんどだったことを思えば、上出来上出来。

試合後行くはずだったNBAはチケットが売切れであきらめ。代わりにチーズケーキがニューヨークーおいしいというJuniorsで夕食。食事もそこそこに、皆グロッキー。

その後、ホテル帰り組とNY夜景組に別れる。夜景組はマンハッタンのロックフェラーセンターへ。17.5ドルとられるけど、その価値あり。外に出られるし絶景。

2008-03-25

Bridge2008 Shopping & 試合

待ちに待ったアウトレット。

かなえ（羽石）は授業のため一旦マサチューセッツへ。朝食後に、パンに乗ってWoodberry Outletへ。車の中で地図を渡された皆は、試合分析よりも綿密にショッピング計画を立てる。1時間半で到着。与えられた時間は、約3時間。集合の13:30にはもちろん遅れた若者5人組（サナ、レーコ、エリ、リサ、ミカ）。明日の午前中の洗濯が課せられました。紙袋をたくさん提げたガールズ。まあ、間違いなく、一番買ったのは私だろう。帰りのバンで昨日のゲームのミーティングもやって、しっかり切り替えた。

15:30にホテル出発。地下鉄、長距離電車（Long Island Rail Road）、バスを乗り継いで、2時間。19:00キックオフ。Hofstara大学は、今シーズンこの周辺のカンファレンスを優勝して、ナショナル（全国）に出場。強豪Ohio Stateを破りましたが、次の試合でPK負けを喫すると言うレベルの高いチーム。さすがカンファレンスチャンピオン。開始9分で失点。完全にワンサイドゲーム。前半はベンチの前のハーフでの展開。ミーティング通り忠実に、短いパスで早くはたいていくということにこだわるあまり、その途中でカットされては、ピンチに。たまには、大クリアして陣地挽回も考えないといけない。そんなこんなので、0-3で試合終了。開けてみれば昨日のスコア。中身は全然違うけどね。打ちのめされている人、楽しかった人、まずは、点を取りたいね。

帰り道。スクールバスが2時間に数本しかなく次のバスは、30分後。ユミに案内してもらい、深夜2:00まで営業の食堂で、ピザまたはタコスを食べる。ゆっくり話していたら、いつの間にかバスの時間に迫っていた。学食を出たら、信号待ちしているバスが…… バス停はもう少し先。ヤバイっ！これを乗り遅れたら次のバスはいつ来るかわからない！みーみ猛ダッシュ！待っていた人が乗り終わり、ドアが閉まろうとするところを、無理やりこじ開けて、待ってくれと運転手さんに頼む。一同ダッシュ。ふーっ無事乗車。

駅に着くと、今度はNY行きの電車がホームに入ってきて、バスの運転手が“That's

your train! Hurry up!” アメリカの電車は中で切符チェックなので、改札はない。皆ホームにどうやって入っていいか戸惑っている中、とこれもまたダッシュで電車のドアに立つ。閉められないようにドアとホームをまたいで、アユムと私が立っていると、いらいらした車掌がドアを閉めやがる。閉められまいと二人でドアを押し戻し、バスの中で手袋がないと騒いで遅くなったユキも無事乗車させた。乗り継ぎばっちり。帰りは1時間半で帰りました。0:00に帰宅。ミーティング開始。今夜はユキとアユムはラストナイト。オーバーエイジの二人。二人ともブリッジツアーは2回目。いい存在感を出してくれていました。

2008-03-26

Bridge2008 vs IONA College さよなら NY

去年は、雪で覆われて使えなかったフィールドは、青々としていました。みんな満身創痍で臨んだ3日連続3試合目。30分×2本+15分。セワ君の提案でメキシコ式掛け声「ブリッジ！ブリッジ！ラララ！！」と勢いでピッチに出て行きました。今日が1番弱い相手のようで、スペースも空いていて、これは行けるかと予感しました。しかし、やはり疲労はピーク。バック4人はそれぞれどんよ〜り。できないのは仕方ないけど、一人ずつ落ち込んで立ってしゃべらない。最後の15分（実際は27分）は結構せめて、フリーキックから、ナオミやアヤコがあわやゴールというシーンもあり、気持ちよく終わりました。IONAでチャイニーズを食べて、アユミは駅でお別れ。3時間ドライブで21:00にマサチューセッツ、チョコピーのホテル入り。今回のホテルは豪華。楽しみ。

2008-03-27

Bridge2008 マントホリヨーク大学にて

今日は、朝から9:00練習。8:45集合。いざマントホリヨーク大学へ。人工芝の綺麗なグラウンドで、今日はアクティブレスト。怪我人3人組レーコ、ミカ、リサはお休みで、かなえ（羽石）のサッカー授業のアシスタント。サッカーテニスで楽しみました。ナツキ／ソラチームが、全勝優勝！

その後、日本語授業のスキット大会に。日本語で招待状ももらって学生達はかなり気合が入っている様子。日本語を昨年9月からたった半年しかやっていない1年目の学生達。スキットは「時差ぼけ」、「永遠の愛」、「アニメ狂の私達」、「ゴシップラジオ」、「ラムちゃんの旅行」、「日本語は難しい！」と力作ぞろい。英語を少なくとも中学、高校と6年間は勉強しているのに、まともに話せない面々は度胆を抜かれた。ランチを一緒に食べて、いよいよ日本選手の自己紹介&一芸！ナツキの「そんなの関係え！」を皮切りに、アヤコ・ナオミ・エリの組体操。ソラ、リサ、チハル、ミカ、レーコの今日のウォーミングアップで練習した「尻字」

であ・り・が・と・うの挨拶。締めはサナの日体名物エッサッサ。日本人も頑張りました。午後の部のスキット「夢の東京」、「ルームメイト」「キティさんの誕生日」も非常に印象的でした。

その後、マントホリヨーク大学のアスレティックダイレクター（体育会部長）Laurie Priest 先生による、主に女性スポーツの歴史の講義。非常にフランクな先生で、わかりやすく話をしてくれました。女子のスポーツについて考えることなんてあまりなかっただろうから、知的好奇心はかなりそそられたようです。たまに頭を使うことも大切。

キャンパスツアーは、日本語授業の学生ヤン、ナンディ、デールがガイドをしてくれました。図書館、美術館、カレッジストアなどに行き、マントホリヨーク大学を堪能しました。ヤンが寮の部屋を見せてくれましたが、床にはインスタントラーメン含めいろんな物が散乱していてなかなか凄かった。あれを見せてくれたということに皆が感心。

一度ホテルに帰り、道の向こうのチャイニーズビュッフェに。帰りにウォールマートに行って買い物。安い安い。

2008-03-28

Bridge2008 人生いろいろ 筆者：小林美由紀

本日のスタートは、10:00の日本語の授業から。今日は2年生のクラスが最初。一人ずつプロジェクトがあり、それについて1対1で質問をするという形式。テーマは、自分の興味で「ビデオゲーム」、「物語」、「政治」など多種多様。日本人選手の教養が問われるところ。私は「寿司」がテーマの子から、寿司の歴史を教えてもらって大変勉強になりました。2時間目は、3年生と1年生の2教室に分かれました。3年生は1対1の質問形式。3年生にもなるとほとんどコミュニケーションに問題なく、会話したそうです。みんなより、漢字知っていることは間違いない！

1年生クラスは、1グループに一人ずつの日本人がついて、質問攻め。最後にプレゼンで、日本語で日本人の紹介。そして、グループに英語を訓練された(?)日本人が英語で自己紹介。昨日食事を一緒にしたデールとジャスミンが、一人一人にカードと共に、花をプレゼントしてくれました。私には応援道具。本当にSWEETな二人です。

その後、日本語を取っている学生たちとランゲージ・テーブル（ランチ）。話すのが日本語ということで皆盛り上がっていた様子。サナはメールをしていた相手の子が乗馬部で、馬を見に行きました。天気は予報どおりすぐれず、授業中には雪も。トレーニングは室内で18:30からに決定。週末で大学のバンが予約一杯で使えず、かなえの車で私が運転してホテルまで往復輸送。6~7人乗りで2回。まあ、去年のスシ詰めバン3時間に比べたら序の口。午後はとりあえずホテルでフリー。部屋でリラックス。

2008-03-29

Bridge2008 メインイベント！ 筆者：小林美由紀

昨日の夜、サツキとカオリが現地入り。午前中はフリーで、午後から往復運転でマウントホリヨーク大学へ。ラクロスやラグビーの試合をやっていたので、ちょっと見学。

最初の試合は、マサチューセッツ大学アムハースト校 U-MASS-Amhaust と。昨年 1-6 で負けた相手。2 年前アヤコが留学を試みた大学でもあります。前半で 0-3。後半、少しペースをつかんで、ミカやナツキも果敢にシュート。しかし、終了間際で駄目押しされて、結局 0-4 敗戦。

15 分の休み後、ツアーの締め試合、マウントホリヨーク戦。DIV3 だし、カナエ（羽石）には悪いが、勝たなくてはならない相手。仲良くなった日本語を取っている学生達も、寒い中応援に駆けつけてくれた。選手入場して、カナエが 1 時間半かけてダウンロードした国歌が掛かるはずだったが…かからない。そのままアメリカ国歌へ。ま、アウエイだからね。しっかり整列して、キックオフ。今までとは違い、プレッシャーもそれほど無く、中盤もスペースがある。ハーフのユミ、ナツキ、サツキの三角形が結構いい感じで、9 分にナツキが右サイドからドリブルで先制。これは楽勝かと思いきや、30 分に同点にされる。前半 1-1 で終了。肉離れ気味のナオミは、ゴール前であわや決まりそうなシュートを打ったが、やはり痛みには勝てず、前半でやむなく退場。風が冷たくて本当に寒い！そんな中、カオリは陽気に応援。そしたら後半 4 分にキーパーが引き出されて、無人のゴールにボールが転がり、なんと逆転される。足首がまだ完治しないリサは、患部をまた痛め途中で交替。またもや交替が居なくなった。細かいパスが綺麗につながり、良い感じなのだがフィニッシュできない。後半 26 分、ペナルティエリア外くらいからのフリーキックをそらが決め 2-2 の同点。終了 5 分前くらいに、エリが倒れて頭を打ち、とうとうミーミ（小林美由紀）も登場。寒いから出たくなかったが、ほとんどボールに触らなかったからいいか。相手ホームということで、今回は同点で終了。

その後、マウントホリヨーク大学選手主催のウェルカムパーティ。待ちきれず私たちが行ったときは、ほとんどピザは無かったけど、手つなぎゲームなどで、盛り上がった。

2008-03-30

Bridge2008 さよならアメリカ

朝 5:30 に助っ人 3 人は帰っていった。オーバərbッキングにあった教訓として早めに空港に着こうと、11:00 発の飛行機だが、8:00 にホテルを出発。バンと羽石の乗用車の 2 台。荷物の重量を厳しく言った甲斐あって、チェックインはすんなり終了。ナオミは、ウォールマートで 5 ドルのピンクのショッピングバック + ウォールマートのレジ袋いっぱいにお土産

を詰めて、Bag Lady（いわゆるホームレス）のよう。ブラッドリー空港から経由地デトロイトへ2時間。デトロイトで1時間の乗り継ぎ。

2008-03-31

Bridge2008 帰ってきた 筆者：小林美由紀

デトロイトから成田まで多分12時間くらい。

ロストバゲージも無く、無事に成田着。日放ツーリストの長谷さんもお出迎え。長谷さんも心配した噂の「渋谷系」は10日間ですっかり「女子サッカー系」になってしまい、ハイヒールはどこへやら。ミカに至っては「日大」のジャージ。「おうちに帰るまでがツアーです」を合言葉に、今年はチハルも気持ち悪くなることなく、夜行バスで無事に帰れるらしい。

今年は、フレッシューズ（1-2年生）とオーバーエイジーズ（4年生以上）のジェネレーションギャップは多少あったけど、またもや楽しい仲間たちが一つのボールを通じてつながりました！ナツキママ&弟くん、サナママお迎えありがとうございました。このブログに書き込んで下さったり、読んでヒヤヒヤしていた選手の家族の方々、そして、ブリッジ、女子サッカーの仲間たち、ブリッジはまた広がりました！ありがとう！

みーみより愛を込めて。

2008-04-28

マントホリヨーク大学サッカーチーム Spring Season 終了 筆者：羽石

去年の7月からマントホリヨーク大学の監督に就任して初めてのアカデミックイヤー（教育機関の一年：Fall & Spring Semester）が、後数週間で終了というところまで来ました。（ちなみにアメリカの大学はその後約3.5ヶ月の夏休みに入ります）

アメリカの大学サッカーシーズンは、メインシーズンが秋（8月末から11月初旬）で、先日終了した春シーズン（3月から4月）は、試合数も少なく、どちらかというと筋トレやコンディショニング、個人技術の向上を主な目標として行います。マントホリヨーク大学のサッカーチームは、秋シーズンが終わった後、5人の4年生が引退し、6人の1年生が加わり、全く新しいチームとして再スタートをきりました。

秋シーズンは、就任直後で、私自身あまり余裕もなく分からないことも多いまま、次々と組まれている試合（週2試合ペース）をただ選手たちと懸命にこなしているという感じで、選手一人一人をよく理解し、信頼関係を築くことに欠けていました。しかし、この春シーズンは、ゆったりとしたスケジュールの中で、私自身にも監督としての余裕や自信も出てきて、選手一人一人ととても良い信頼関係ができていることを実感しています。今更ながら、感じることは、選手一人一人本当に異なっていて、その分監督としてのアプローチの仕方も選手

と同じ数だけ必要だということ。それも、心からのケアと愛を持って選手を知ろうとし、話し合い、一緒に過ごす時間を作ることで、自然とその選手に合ったコーチングの仕方が理解できてくるものだと感じています。

日本にいと、監督が言ったことに有無を言わずに選手たちが従うということが多いようですが、アメリカでは、もちろん最終的に判断を下すのは監督ですが、もっと監督と選手たちが近い関係にある気がします。選手たちは、監督に求めている知識や人間性がとても高く、本人たちがしっかり理解し納得できなければ、必ず話し合いの場所を持ちます。新しい提案もたくさん持ってきます。もしかしたら、それは、アメリカの大学生というよりも、マントホリヨーク大学という名門大学にいる学生の果てしない学習意欲の表れかもしれません。そんな風に監督と選手たちが近い関係にあり、お互いが学びあいながらも、その中には、リスペクト（尊重）とアプリーション（感謝）の気持ちや態度がいつも含まれています。求められている質の高さに（サッカーの知識、人間性、リーダーシップ、コミュニケーション能力。。など）良いプレッシャーを感じながらも、そういった関係が選手たちと築ける環境をとても幸せに思いながら仕事をしています。

現在のマントホリヨーク大学サッカーチームは、とても若いチームで、4年生が抜けた後、3年生は1人しかなく、その選手は今アイルランドに留学中で6人の2年生と10人の1年生で構成されています。その中で、新しくキャプテンになった2人の2年生は持ち前のリーダーシップでチームをとてもよい方向に引っ張っていて、他の選手たちも本当に意識が高く、（もちろん、あちこちで小さな問題はありますが）監督としても文句の言いようがないという感じです。春シーズンの最終日には、学校の近くにある小さな山（というか丘？）を走り（マウンテン・ラン）その後みんなでアイスクリームを食べに行きました。天気も良く、楽しい一日でした。

2008-05-22

スポーツ教育学・コーチ学国際学会での発表 筆者：羽石

大学のサッカー監督・先生という仕事のかたわら、Sport Pedagogy（スポーツ教育学・コーチ学）の博士号取得過程の私は、先週カナダのバンクーバーで行われたスポーツ教育学・コーチ学の国際学会（Teaching Games for Understanding 2008 International Conference）で研究発表をしてきました。自分自身、初めての国際学会での発表で、いろいろと学ぶことも多く、とてもよい経験になりました。

簡単にいうと、TGfU（Teaching Games for Understanding）は、イングランドから始まった、コーチングアプローチの考え方の一つです。個人技術（パス、ドリブル、シュート等）より、個人戦術（いつ、どのように等）の向上を最も重要なものとし、いかにゲームの中で

生きる選手を育てられるかを目的としたコンセプトです。確かに、監督の立場から考えると個人技術がとても優れているが試合で役に立たない選手よりも、少しくらい技術が劣っていても、試合でチームの戦術に合わせて個々の仕事をしっかりこなせる、つまり試合で賢い選手、個人戦術の能力の高い選手の方が、より好まれます。試合で結果を出すことが最大の目的だから。

私の発表した研究は、TGfU のコーチングと、一般的に良く使われているコーチングを比べたもので、大学の女子サッカー選手たちを使って、その試合でのプレー (Game Performance)、個人技術 (Skill Developments)、モチベーション (Intrinsic motivation) を測ったものです。発表の最後で、なかなか鋭い質問で突っ込まれるシーンもありましたが、セッションの座長 (イングランドからの大学教授) がうまくフォローしてくれて、無事に終了しました。

会議中、各国からの Sport Pedagogy の専門家たちと交流することができてサッカー監督として、そして、研究者としても、とても勉強になる時間でした。近い将来、TGfU など、いろいろなコーチング、スポーツ教育学のコンセプトなどを日本にも紹介できたらいいなと思っています。

(その前に自分をもっとしっかり勉強してからですが) 羽石架苗

2008-07-01

2008 年ニューヨークマジックサッカー

去年は、シーズン第一試合で鎖骨を骨折し、その後手術をしたため、ニューヨークマジック (New York Magic) シーズンのほとんどを棒にふりました。しかし、今年は素晴らしいチームメイト、スタッフに囲まれ、楽しくサッカーをしています。

そうです、かなピー、今年で XX 歳になりましたが、いまだにトップレベルで現役続行中です。私の所属するニューヨークマジックは、アメリカサッカー協会リーグ (United Soccer League) の W リーグに位置しています。W リーグは、現在のアメリカ女子サッカー界で最高のリーグとして認識され、トップレベルのアメリカ人選手をはじめ、多くの外国人選手がプレーしています。(1, 2 年後にプロリーグが復活するという話がありますが) 基本的には、セミプロリーグですが、チームによっては、サッカーをすることで選手たちがお金をもらっているところもあり、住む所や、移動費、サッカー用具費などをチームがカバーするなど、様々です。私はニューヨークのマンハッタンにある、ニューヨークマジックに所属して 7 年目になります。年のこともあり (?) 4 年前からチームキャプテンを務めています。シーズンである、夏の間 (5-8 月) は、マンハッタンにあるチームのアパートに住み練習に参加し、試合をしています。

今年は、イングランドからの選手2人とアパートで共同生活をしています。一人は、イングランド23歳以下代表で普段はアーセナルでプレーしている選手で、もう一人は、ワトフォードFCでプレーしている選手です。例年、個性ある選手たちを一つにまとめてチームとしてプレーするというのが難しい課題（準備期間が短いこと、それぞれトップレベルの選手であることなど）なのですが、今年は、本当に一人一人がいい意味で、チームプレーヤーで、チームの雰囲気が過去数年で最高にいいというくらいです。まだまだ若い選手が多いことや、経験不足な選手が多いことなど（多くの選手が、Wリーグ初体験）あり、結果としてなかなか表れませんが、それでも、強豪チームを相手に、毎試合どっちが勝ってもいいと言う対等な試合をしています。監督業をするようになってからか、年をとったのか、かなピーも自分のことよりもいかにチームが試合でいいプレーをするかということに集中していて、私も大人になったな、と時々思うのでした（笑）

羽石架苗

2008-07-03

インドネシア訪問 筆者：羽石架苗

このブリッジも、スポーツに関わる女性を支援する団体ジュース（www.jws.or.jp）のプロジェクトの1つでもあるように、世界規模での女性スポーツの発展に興味があり、その活動に関わっている私は、今回、アメリカから女性スポーツのエキスパートとして、8月初めに、インドネシアに派遣されることになりました。本当は、私の恩師が訪問するはずだったのですが、日程が合わないということで、その仕事が私にまわってきたという感じです（笑）はじめは、アメリカ人ではない私がアメリカを名乗ってインドネシアを訪問することに、反対する人もいたのですが、今までの経験と今の仕事などが考慮されてオッケーが出ました。

インドネシアは、イスラム教徒が国の大半を占めるため、東南アジアのほかの国々とは少し特徴が違います。宗教的なこと、その歴史などが原因でインドネシアの女性（少女）スポーツもアメリカやヨーロッパの国々に比べて少し遅れている言うのが現状です。そんな中、女性スポーツがとても盛んなアメリカから、そのシステムやコーチングの方法を学ぼうということで、去年インドネシアからの使節団が、私の住むマサチューセッツ州を訪れました。（そのプロジェクトを企画している団体、Institution for Training and Developmentがマサチューセッツにあるので）その時に、私も恩師であるクリス教授（スミス大学）と女性や少女のためのスポーツ教室（スポーツクリニック）についてセッションを行いました。（私はアシスタントとして参加したのですが。。。）

インドネシアからの人たちは、その訪問で、女性スポーツについていろいろなことを学び、彼らの国に帰って、女性（少女）のためのスポーツプログラムを実行する計画を立てました。

そして今回、私は、その彼らが計画したスポーツプログラムを視察に行き、アドバイスなどをし（？）現地の人たちに女性スポーツについての3時間の（！！）セッションをする予定です。その訪問で、アメリカ大使館を訪ねる機会もあり、盛りだくさんのようです。時間があれば、日本大使館も訪ねたいところですが、..、どうでしょうか。。

インドネシア語を学ぼぞ！！

羽石架苗

2008-09-22

女性スポーツ発展の旅（インドネシア） 筆者：羽石架苗

「女性スポーツ発展のために」インドネシアに派遣されることになりました！とお知らせしてから、なが〜い月日が経ってしまいました（笑）。が、本当に貴重な経験だったので、是非みなさんに報告したいと思います。

今年の夏7月の終わりから8月はじめにかけての11日間、アメリカ政府の文化交流機関と民間のグループによる女性・少女スポーツ発展プロジェクトの一環として、インドネシアに派遣されました。今回の旅の主な目的は、1) 地方3ヶ所をまわって、少女と身体障害者のためのスポーツ教室の視察をすること、2) スポーツセミナーにおいて、女性スポーツの発展（少女のためのスポーツ教室、スポーツマネジメント、スポーツ教育法等）について講演すること、3) 政府関係者やアメリカ大使館を訪ねて、プロジェクトの報告をし、今後の課題を話し合うこと、でした。

インドネシアは、イスラム教徒が多く、その宗教、文化、伝統から、女性がスポーツに関わることへの壁は予想以上に高いものでした。地域には、貧しい人々もたくさんいて、貧しいというだけでもスポーツをしていくことに障害があるのに、プラス、女性であつたり障害者であるということで、スポーツに関わることはとても難しいことです。その中でも、私の訪れたスポーツ教室では、多くの少女たちが笑顔いっぱい体を動かすことを楽しんでいました。今回その3ヶ所のスポーツ教室で合計で約500人の少女（+お母さんたち、身体障害者の方々）がスポーツを楽しむことができました。残念ながら、インドネシアでは、サッカーは、男性のスポーツとして認識が強すぎて、少女たちがもっと気楽に楽しめる、バトミントンやダンスが選ばれていました。アメリカや日本のように、少女たちが自由にスポーツを楽しむまでには、長い長い道のりですが、このように、少しずつ出来ることから始めていくことが大事なのだと感じました。そして、インドネシアの女性スポーツを少しずつでも発展していこうと活動している女性リーダーの方々と友達になることができ、今後もしろいろ情報を交換していけたらと思いました。

今回の旅で、今ある自分の環境がいかに幸せであるかということを改めて認識したと同時に

に、女性スポーツ発展のために自分ができることを少しずつやっていこうと思ったのです。セミナーでは、初めて通訳（英語）インドネシア語）を通じての講演に挑戦して、いい経験でした。今回、表向きは、自分がアドバイスをしたりすることが多かった中、実は、私が少女たちや関係者の方々から多くを教えてもらった旅でした。

かなぴーこと羽石架苗

2008-11-28

大学監督としての2年目 筆者：羽石架苗

マントホリヨーク大学、監督としての2年目のメインシーズンが終了しました。何もかもが初めてだった去年1年目は、監督としての自分に自信がもてなかったり、選手たちとのコミュニケーションがうまくとれなくて誤解をまねくことがあったり、思ったように結果を残すこともできず、『経験』という言葉がぴったりの年でした。しかし、今年2年目は、多くの新入選手を迎え、新しいチームとしてまずまずのシーズンをおくることができました。

とりあず監督として自分に余裕が持てるようになったのが大きかったです。女子サッカーが盛んなこのアメリカでも、コーチ界はまだまだ男性が多く、その中でも、自分を失わないでリードを取ることができるようになりました。そして、選手たちとはダイレクト（直球）で正直なコミュニケーションを心がけました。思っていることをお互いにはっきり言い合い、その話し合いによってお互いをもっと理解することができ、その信頼関係がチーム全体に広がって、良いチームの雰囲気を作ることができるようになって来ました。試合中のコーチングについては、まだまだ課題が多いものの、欧米出身の男性が対戦チーム監督に多い中、彼らからも戦術を盗んでやろうと、いろいろ研究中です。シーズンはじめは、選手1人1人の特徴を見抜くことに時間がかかりましたが、シーズン終盤は、チームとしても良く戦えたと思います。結果的には、何年かぶりにプレーオフ進出を決め、準々決勝でPKの末に全米で15位にランクされている強豪に負けてしまっ、シーズンを終わりました。4年生が1人しかいない若いチームなので来年が楽しみです。

まだまだ監督として未熟なところも多く、チームもやっとスタートラインに立ったというかんじですが、焦らずに一步一步前に進んでいけたらと思います。

羽石架苗（かなぴー）

2009-01-22

ブリッジ（アメリカ）よりあけましておめでとうございます！

明けましておめでとうございます！遅くなりましたが、2009年が、皆様にとって平和で楽しい年でありますように、心からお祈りしております！2009年も日本の女子サッカーが、

世界の女子サッカーがもっともっと発展しますように、みなさま、日々がんばりましょうね！

さてさて、アメリカでは、今なんといっても先日行われたオバマ新大統領の就任式の話とその後で盛り上がっております。アメリカで初の黒人大統領ということで、日本でも間違いなく歴史の教科書が書き直される大きな出来事です！就任式には、ワシントン DC に 200 万人もの人がアメリカ国内だけでなく海外からも、この歴史的瞬間を体験しようと集まりました。私は、マサチューセッツ州でテレビで見えていましたが、はっきりいって想像できない人の多さでした。その中、就任式は感動的に行われました。日本でもテレビで放送されたでしょうね。オバマ大統領の就任演説は、アメリカ現在の不景気に、世界の不景気に、その他多くの問題に、明るい希望を持てるような歴史に残る印象的なものでした。その大イベントの中でも、ほのぼのとしたオバマ大統領の家族の様子もかなり印象的でした。アメリカでは、オバマ氏が選挙中にスローガンとして使った “Yes, We Can!” というフレーズが今多く使われます。逆境にあっても Yes We Can、「できる」と信じ続けることが、成功のカギなのでしょうね。

日本の女子サッカー選手は、まだまだ整わない環境が多い中、もうサッカーをやめてしまおうか、、などつらいことにぶつかることも多いと思います。でも、その中で、自分を信じて、自分の信じる力を信じて、ずっとサッカーを続けて欲しいなと思います。。

Bridge2009

2009-03-18

Bridge2009 はじまり、はじまり。

やってきました US。今回成田に集まったメンバーは、13 名。ツアーマスターのチップこと千晴は、今年も参加でブリッジ最高の 5 回目を記録しました。13 年前に大学を卒業したナショナルトレセンコーチはるも大分から参加。今年も年齢、地域バリエーション多きメンバーとなりました。英語での自己紹介が終わり、飛行機に乗り込みました。12 時間のフライトで、デトロイトまで。午後 8 時頃 NY 到着。日本時間 19 日の朝 9 時。もちろん、皆グロッキー。空港でかなえが時間通りのお出迎え（実はフライトが遅れていたの、そう思っただけ）。

VAN でホテルローリーポップへ。今回初挑戦の安宿にドキドキ。エレベーターがなく、細い階段を重いスーツケースを運んで、息を上げながら、やっと着いた 2 人部屋と 4 人部屋。宇都宮の澤いわく「プリゾン・ブレイク」。2 段ベッドの部屋にみんな収容されました。マンハッタンの 83rd Street で、ロケーション的にはばっちりなので、多くは望まないことだ。各フロアにバスルームが 1 つしかないのは、確かにちょっときついかも。

近くの店でピザを食べて、スーパーで次の日の朝食を買い、長い長い1日が終わりました。夜、テキサスからかおりとそのチームメイト、メキシカンの Martha が到着。

2009-03-19

Bridge2009 2 日目にして…

午前中セントラルパークで練習。セントラルパークで場所を見つけ、ウォーミングアップ。レンジャーが近づいてきて、そこではやるなど。場所を移動して、ちょっと傾斜のある広場をみつける。坂を利用して、パス練、4対4のゲームをやって終了。いい感じに負荷がかかり、想定以上に実りあるトレーニングになった。

昼はSUBWAYで、1フットロング5ドルのサンドイッチを食べ、いざマンハッタンへ。自然史博物館、MOMA に行って文化的な活動。ホテルから数ブロックの自然史博物館は、たまたま入場無料の日。なかなかついている。MOMAで、ルイジアナから来たひかりが合流。

その後ミュージカル、ライオンキング組とSTOMP組に分かれる。私は他の9人とオフブロードウエーのSTOMPへ。STOMPは、モップやゴミ箱やなべやマッチ箱やたわしなどを使って、音を繰り出す8人のエンターテイメント。圧巻だった（それでもかなみとチッパは爆睡だったが）。8人のうち2人が女性なのだが、そのうちの一人は宮本やこさんという日本人。はじめ女性かどうかもわからない堂々たるパフォーマンス。オフブロードウエーは劇場も狭く、観客と近い。やこさんを出待ちして話すことができた。大学の途中でNYに来てそのまま7年間経っちゃったなあ、とのこと。気さくに話してくれて、マンハッタンの街に颯爽と消えていきました。週10公演のうち7～8回に出演。必見です！日本の女性が本場で活躍しているのは本当に嬉しいことだ。

2009-03-20

Bridge2009 試合 vs Hofstra University

午前中は自由行動。5番街に行ったりしたらしい。

15:00 ホテル集合。電車でHofstra Universityへ。HofstraはNCAA Division 1で、去年は地域で優勝して全国に出場した強豪校。

相手が外してくれたこともあるが、前半は互角の勝負。ひかりのナイスセーブもあり、無失点でしのいでいた。ペナ中くらいで、純子が、抜けてシュートか？と思いきや、横パス。おい、日本人の典型、まずはゴールを目指そう！30分で、純子とちはる、さゆりとちひろが交代。そうこうしているうちに、37分、裏に抜けられて、1点を決められてしまった。0-1で前半終了。

後半は、アメリカ組、まりか、かおり、Marthaを投入。0-6で最初のゲームを終了しま

した。まあ、アメリカに来て実質2日。時差もあるし、疲れもあるにも関わらず、よくがんばりました。はじめはビビリ気味だったけど、時間が経つにつれ、自分の味を出せるようになってきたので、次のゲームが楽しみ。かなえが所属している New York Magic のニノとリンデラ、そして今年は試合しないけど、いつもお世話になっている LIU の Amphone が応援に駆けつけてくれました。

駅前でピザとピロシキを買って、電車の中で夕食。帰って試合のミーティングをして、12時に終了。

2009-03-21

Bridge2009 NY 観光

朝9:00時に集合。セントラルパークでトレーニング。今日はレンジャーも休みだろうから、パーク内の野球フィールドを使おうと、低い柵を乗り越えて、準備をしていると、やはりどけと注意された。86th St にサッカーのフィールドがあると言われて、指示通りに行くと、なんてことない芝のはげたでこぼこ広場。でも、まあ一昨日の坂よりは平らなので、よしとする。強めの短いパスと縦に通す長いパスのコンビネーションを目的に練習をしたつもりだが、下がぼこぼこで上手くいかず。ミニゲームで終了。点を決めていい気分。

午後からはNY観光。自由の女神にGO。別の車両に乗っていたシー、やまが駅を乗り過ぎてしまうというハプニングもあったが、なんとかたどり着きました。しかし、週末で自由の女神がいる Liberty Ireland 行きのフェリーのチケットは売切れ。あちゃちゃ。近くを通る無料の Staten Ireland 行きの船に乗って近くに行って、女神を拝む。その後、**グランドゼロの博物館に。鎮魂の気持が高まる。**

結局9時からミーティング。かおり、まりか、ひかり、シーの留学経験者のお話。疲れすぎて、眠っている奴もいた。明日の試合に備えて早めにおやすみなさい。

2009-03-22

Bridge2009 vs St. John's University

今回は、本業のちはるにアップを任せて、私はGKのやまのキャッチボール相手。対戦する5チームの中で一番強いと脅していたせいか、皆ビビリ気味で、バックラインも必要以上に下げすぎ。13分、18分、19分と続けて入れられて、前半0-3。そんな中でも、前に行けばシュートをする意識は高かった。今回は、人数が最大となったので、後半はほとんど入れ替え。相手はパワフルだけではなく、つなぎもする。いろいろなオプションを持っている。でも、落ち着いて、しっかりつなげば、攻撃にもつながった。結局後半は5点決められて、0-8。万事休す。試合後シャワーを浴びて、ミーティング。次回の試合に向けて、各自の課

題を確認した。

2009-03-23

Bridge2009 Shopping & NBA

今日は待望の Outlet。行きたいお店にターゲットを絞り、場所を確認し、順路決定。目いっぱい楽しむ！

20時から NBA. New York Knicks vs Orland Magic。マジソンスクエアガーデンは、8割の人の入り。Knicks が10点差以上つけていたと思いきや、いつの間にか、逆転されて接戦で負け。途中眠くなった子もいるけど（私も）、最後はラスト 30 秒切ったところで、同点のチャンスもあって、スリリングでした。是非はともかく、ああやって、観客を楽しませようとする姿勢が、アメリカの巨大なスポーツビジネスにつながるんだろうなと思う。日本も学ぶところがあると思う。

その後、私たちはスポーツバーにて WBC 観戦。すごいよ！結局 10 回 5-3 で WBC 二連覇！スポーツバーは、全然にぎわってなかったけど、WBC が行われているカリフォルニアと時差 4 時間。会場であるアメリカで日本優勝の瞬間を見たという貴重な経験をした。イチローは本当にすごい！決めるときには決める。私達の次の試合でイチローいやイチコが出てくることを祈るとしよう。

2009-03-24

Bridge2009 vs IONA COLLEGE さよなら NY

IONA College へ。序盤にグリが続けざまに 2 本シュートを放つ。前半 7 本シュートを放つが、0-0 でハーフタイム。後半は、こちらのベースのゲームが続くが、シュートははいらず。後半 30 分、GK の繋ぎミスからと失点。結局 0-1。今までの中で皆身体が動いていいゲームだったけど、結果が出ず残念。

2009-03-25

Bridge2009 Mt. Holyoke Day

マウントホリヨーク大学へ。

日本語 2 年生の授業に参加。個々に分かれ、質問を受ける。まだ 2 年しか、日本語を勉強していないのに、読み書きはもちろん、日本語もぺらぺらで、6 年間以上の英語教育を受けている我が大学生達は、哑然。質問の内容も、「引きこもり」「地球温暖化が米の味に与える影響」などディープ。「少子化問題」では、日本人アイドル歌手の「35 歳を越えたら羊水が腐っちゃう」失言事件も知っており、こちらはその事実どころか、羊水が何かも知らない輩

(かすみ) もいて、面目丸つぶれ。

ランチタイムは、日本語1年生クラスも混ざって、それぞれ自己紹介。その後、小グループに別れ、キャンパスツアー。お茶室や寮などを見て回る。広い土地と伝統を感じさせる重厚な建物に感動。

14時から、Athletic DepartmentのDirector 日本で言えば、体育学部と運動部組織をあわせた組織のトップである Laurie Priest 教授が、現存するアメリカで一番古い女子大である Mt. Holyoke College の歴史を兼ねて、アメリカ女子スポーツの歩みを話してくれた。なんでも Laurie が高校生だった 1930 年代には女子がスポーツをするという観念がなく、大学に入ってやっとスポーツができたという。1970 年代初頭に定められた TITLE IX (タイトル・ナイン) という男女教育機会均等法は、男女平等にスポーツの機会を保証しなくてはならず、そのおかげで女子のスポーツ、特にサッカーは盛んになったという。Laurie が大学になってスポーツができるようになったのもその法律のおかげ。だから、彼女はその法律をアメリカ全土に広めることに尽力し、2008 年スポーツ界に貢献した 100 人に選ばれた。タイガー・ウッズもその一人だったというから、すごい名誉な賞だということがわかる。その他に皆が感じたことは、「とにかく大学にお金がある。今 15 億円をかけて大学のスポーツ施設の改装工事をしていて、半年後には、大きなフィットネスセンターができるらしい。その額にびっくり。皆、興味深く聞き入りいい質問が飛び交って、Laurie も喜んでくれた。「女子スポーツ」を俯瞰する良い機会となった。

休憩後、17時半からトレーニング。ボールを持ったら、顔を上げてなるべく遠くの前を見ると言うことをテーマに、ちはるヘッドコーチが指導。多少の混乱はあったが、何とか前を見る意識やサポートの意識に改善が見られた。

2009-03-26

Bridge2009 vs Massachusetts University Amherst

10時からかなえ先生(羽石架苗氏)の初級サッカーの授業。「あまり動かないから、私服で大丈夫」というかなえ先生の言葉にだまされた。いきなりタッチからタッチまで早いペースでウォーミングアップ。モモ上げといわれても、ももなんか上がりゃしない。その後、パートナーとフィールド全体を使ったバスゲーム。汗かきまくり。皆、一人ずつ初心者アメリカ人にパスを教えたので、それぞれが英語を使いながら一生懸命指導していた。

その後、かなえが日本語を教えている Elms College へ移動して、授業に参加。学生についてインタビューを受け、それぞれの自己紹介。アメリカ人の学生は、日本人の紹介を日本語で。日本人はアメリカ人を英語で紹介。皆健闘した。

ホテルで休憩後に、Mount Holyoke にて、U-Mass と試合。この試合に勝たないと意味が

ないと気合を入れて、試合に臨む。ウォーミングアップでも昨日のトレーニング以上に前への意識、サポートがよかった。立ち上がりから、日本ペース。開始1分ちひろが右サイドから抜けてシュート。いい展開、ビルドアップでゴール前まで行くのに、最後が決まらない！結局1-3。残念！勝てた試合だった！！

2009-03-27

Bridge2009 寸劇発表会

本日は、日本語1年生による日本語スキット（寸劇）発表会。

会場は、去年のラウンジから、観客席つきの Theater へグレードアップ。この日の為に3週間日本語の生徒達は、日夜練習を重ねてきた。日本語をはじめてまだ4ヶ月というのにその流暢さに本当にびっくり。寸劇の題は、夢の中で日本に行って悪い言葉を使ってしまう話。日米のオタクを比べる話。ルームメイトと音楽の趣味で戦う話。花より男子マウントホリヨーク版など、多彩。私の知らない歌手や漫画の名前がたくさん出てきた。そしていよいよ我らが出番。1番サンバ。一番心配だったこの組がノリノリでつかみはOK。2番野球拳。皆がNYで買ったI LOVE NYのTシャツを10枚くらい着込んだ。負けっぱなしだったが、脱いでも脱いでもI Love NY。3番カエルの歌。カエルの歌の輪唱に合わせて隊形を変えてのパフォーマンス。

ランチは、日本語の学生とそれぞれに。ランチが終了して、この大学の体育施設ツアーをした。専用の馬場、ゴルフコースもありました。一度ホテルに帰って休憩。

17:30からは、プロコーチによるクリニック。マウントホリヨークのサッカー部は、ちはるコーチとやまコーチが指導。日本人の選手は、アメリカ人の指導を体験でき、日本人の指導者は、アメリカ人を指導できるという。さすがブリッジと自画自賛。ちはる達のトレーニングも、皆喜んだ様子。これこそ国際交流。

2009-03-28

Bridge2009 vs Mount Holyoke College

いよいよ最終試合。マウントホリヨーク大学との対戦。

春を感じさせる爽快な天気。マウントホリヨーク大学は、この日の為に国際試合組織委員会を結成して、準備を整えてきてくれたそう。直子先生をはじめ、日本語を取っている学生もたくさん駆けつけてくれた。ウージさんやエルムス大学の澤のファンは、応援プレートまで作ってきてくれた。

選手紹介、国歌斉唱。君が代を外国の会場で聞くと心が引き締まる。アメリカ国家は大学のアカペラグループが歌ってすばらしかった。いよいよ決戦だ。4試合勝ちのない私たちは

今日こそ結果を出さなくてはならない。

今日はマウントホリヨーク大の3人のGKが交代でこちらに入ってくれる。先制される。その後も再三日本チームがシュートを打つが、結局前半は1-0。でも雰囲気は悪くない。後半、コーチちはるが、右サイドからちひろのパスを受け、GKを良く見てゴール左隅にキレイに決める。さすがコーチ！落ち着いていいところで仕事をしてくれた。同点！その数分後、右のショートコーナーからクロスかと思いきやそのままゴールイン。逆転だああああ!! 快勝!! やっぱり勝つって本当に素晴らしい！応援団ともニッポンコールで盛り上がって、気持ちよく09ブリッジツアーを締めくくりました。

その後の交流会は、Japanese teamのパフォーマンス。サンバと蛙の歌を披露。大うけ。それに対抗してマウントヨークサッカー部の子らも芸を出し、大盛況のうちに幕を閉じた。こういうIntenational Exchangeがブリッジの真骨頂。近くの大学でコーチしている元湯郷のGKコーチ、デイビッドも見に来てくれて、感動してくれた。

2009-03-29

Bridge2009 さよならUSA

デトロイトでは1時間半ほどの乗り換え時間で、いざ成田へ。

2009-03-30

Bridge2009 無事帰国

12時間のフライトで、時間通りに成田着。何名かのご両親がお出迎え。感想文をもらって、再会を約束。今回も内容の濃い12日間でした。この経験と出会いを大切に、またみんなで会いましょう！

Bridge2010

2010-03-17

Bridge2010 ニューヨーク到着！

なんとか、用意を間に合わせて、(朝7時には完了し、9時までは寝た)。誰もパスポートを忘れずに、満員のデルタに乗り込みました。

今回は、直通で、NY。離陸も知らずに、着陸までほとんど爆睡。

今回のホテルは、前回のホテルが修理中で、直前に場所が変わったところ。でも、去年よりかなりまともで、2段ベッドの殺風景な部屋は変わらないけど、バスルームもきれい。ピザやでディナーたべて、タイムズスクエアへ。St Patrick Dayで、緑を来たアイルランド人がたくさん。私も意図せず緑のスヌーピーを着ていたの、便乗。

2010-03-18

Bridge2010 トレーニング&サイトシーイング

9時に集合して(多少のブレはあったけど)、セントラルパークより近い、リバーサイドパークへ。それがまた、人工芝のいいグラウンドが、open to publicで、ラテン系の人たちが半面使っていたけど、半面を使った。軽くといいながら、結構ちゃんとトレーニングした。今回はGKが3人もいるので、りっとコーチも大ハリキリ。ふと、見ると、倒れている人がいる。ひろだ。腿がピキッとやったという。残念ながら肉離れ。留学したいと言って、1年お金を貯めてきたひろ。明日のゲームはまず無理だな。

午後は、観光タイム! 先読みで、練習中に自由の女神への入場チケットをかなえが買いに行ってくれたのだが、今日の分は早くも売り切れ。土曜日に行くことになりました。サブウェイで安めにランチを済ませ、セントラルパークからは、三々五々となり、セントラルパークのボートに乗るつくば組。タイムズスクエア付近で買い物するちっばマスター組。美術館に向かうソフィスティケート? かなえ組に分かれました。美的センスあるみーみは、もちろん美術館へ。建築物としてもおもしろい、グッゲンハイム美術館に着いて、入ろうとしたら、実は今日は休館日。あきらめて、MOMAへ。MOMAは、行く度に違う展示物があり、面白い。今回の目玉は、生の人間がアートになっているパフォーマンス。テーブルを挟んで、向かい合っている女性二人。まったく動かない。はじめ、マネキンかと思ったくらい。中でも、特別展では、裸の男女が30cmほどの距離で向かい合って、その間を見ている人が通り抜けていくというアートがありました。さすがニューヨーク。

私は、そのままマンハッタンに住む、おばちゃんの所へ。たぶん皆は、ロックフェラーセンターに上って、ニューヨークの夜景を楽しんでいることでしょう!

2010-03-19

Bridge2010 vs Hofstra University

ブリッジ2010の第一試合。珍しく早めに動き、Penn Stationに時間の30分前にも到着! NCAA Div1 全国にも出場する強豪 Hofstra University。バックの押し上げが遅くて中盤がぼっかりあくこともあったが、初めてやるメンバーおよび時差ぼけを考えれば、かなりがんばっていた。前半13分、ゴール前でこちらのミスからボールがこぼれて、先制される。その1分後、中盤でボールを失い、そのままゴール。14分で0-2。少しずつバックラインも修正されて、そのまま前半終了。

最終的に0-5。ゲームの中身以上の点差がついてしまいました。

人数が少ない上に、すでに満身創痍ですが、次の試合からは、ぐりとれ一子はいないから、私がスタメンになるしかないかな。

2010-03-20

Bridge2010 自由の女神&ブロードウェイ

10時の自由の女神行きのフェリーに乗るために、8時30分にホテルを出発。さすが土曜日、観光客であふれかえる Statton Park。予約したとはいえ、長い長い行列になって、1時間近くたって乗船。近づいていく女神に、皆興奮気味。お決まりのポーズで写真をパチリパチリ。ここ2年間、チケットが売り切れてたり、行ったら、最終フェリーがもう出た後だったりして、女神島に上陸できなかったのが、久しぶりの女神の足元。前回、船を下りてすぐ近くでお茶をしてたら、最終フェリーの時間になってしまったかなえは、教訓を生かして、率先して足元を一周。1時間後に帰りのフェリーに乗り込む。寝不足の皆は、帰りのフェリーでお疲れ気味。

その後、グランドゼロの博物館に。2001年9月11日。何度見ても心が傷む。初めて見たゆずは、いたたまれない記録に思わず涙。実も知らない人のいたみや悲しみを共有できる、優しい心の持ち主だ。

各自、ブロードウェイまで自由時間。SOHOやブルックリンブリッジ、タイムズスクエア、それぞれの行きたい場所に。サキは、NYで画家をしているおじさんに久しぶりに再会したんだって。かっこいいね。

ミュージカルは、オフブロードウェイのSTOMPとMamaMiaに分かれた。人気の土曜だったので、チケットはそれぞれ70～80ドルとちょっと高めだった。

2010-03-22

Bridge2010 ショッピング!ショッピング!! SHOPPING!!!

このツアーのメインイベント、アウトレットショッピングの日がやってきました。Woodberry Outletへ。9時に出発して、10時に現地入り。クーポンブックをもらって、皆、入念な計画をして、いざ敵陣へ!試合のアップより、入念な準備をしているのではないかな

2010-03-23

Bridge2010 vs IONA College 初勝利!

ニューヨークにさよならして、IONA カレッジへ。1時間で到着。今日は、必ず勝つぞ!と気合を入れて臨んだはずなのに、開始6分早々に失点。相手のプレッシャーがなく、Possessionは、7割方JAPANなのに。そんな中、自分で入ってびっくりしたアヤのミドルシュートがラッキーにも決まって、33分に同点。後半18分、ゴール前であやからサキへスルーパス。サキのシュートの跳ね返りをヒロが押し込んで、2-1。それからは、ブリッジジャパンが試合を支配。そのまま試合終了!気持ちよくニューヨーク滞在を締めくくりました。

マサチューセッツへ。2時間後、マウントホリヨーク大学の宿泊施設 Willits にチェックイン。広々としたロビーとふかふかのベッドのあるきれいな部屋に皆感動！

2010-03-24

Bridge2010 マウントホリヨーク大学

朝8時の朝食には、MHCのサッカー部の5人が来てくれました。毎朝、順番で一緒に食事をしてくれるそうです。1月のMHC Japan Tourでブリッジの皆がサポートに来てくれて、それに感動して、自分たちも日本人がきたら、楽しんでもらえるように、できることをやろうと、滞在中にいろんな計画を立ててくれるそうです。うれしいね。10時から、日本語の2年生の授業に参加。学生と1対1か2になって、彼女たちの準備してきた質問に答えていました。テーマは多岐にわたっており、「草食系男子」「舞妓さん」「留学生」など、勉強不足気味の日本の大学生には、なかなかチャレンジな内容。しかし、「天皇」について聞かれたハルナは、教育勅語のことを説明するなど、博識で、こちらも勉強になっちゃいました。次の時間は、日本語1年生と3年生に分かれて、質問タイム。半年しか日本語を勉強していないにもかかわらず、平仮名、カタカナ、多少の漢字を書ける彼女らに、自分たちが何年英語を勉強して来たということを言うのが憚られました。

昼間に、10年ぶりくらいに、アメリカツアーに参加するチカがやっと到着。

午後はCentral Connecticut State University (CCSU) へ。CCSUをアシスタントコーチに案内してもらい、同クラブヘッドコーチが指導するU17のクラブチームSoccer Plusと対戦。このクラブは、元アメリカ代表監督Tony Diccioが作ったユースクラブで、セレクションもあり、いい選手が集まっている。いよいよキックオフ。初めてちゃんと審判服を着た3人の審判がいて、背番号のあるユニフォームを着ている試合でした。しっかりしたコーチがいるだけあって、相手もボールをつなごうとしてきたこともあり、こちらとしてもやりやすかった。序盤からボールを支配して、たくさんのシュートを放つ。前半終了1分前、右サイドハーフのゆずが粘ってあげたところをヒロがつなぎ、アヤが押し込む。1-0！皆、気持ちよくハーフタイム。後半16分、ボールを持ったチハルが、預けるところが見つからず、判断を迷っているところを、かっさらわれて、そのままゴール。その後、両チームとも1点ずつ取って2-2。試合終了。でも皆のいいところが出た、このツアーのベストゲーム。明日は、ワンランク上のU-Mass、乗ってきたジャパニーズ楽しみ！

2010-03-25

Bridge2010 vs U-Mass

10時からかなえ（羽石先生）のBeginner's Soccerのクラスに参加。私たちとMHCサッカー

部の子らが、授業を取っている学生がペアになり、ウォーミングアップから開始。コーンを何回パスで通せるかの競争をして、フルコートゲーム。さすが女子サッカー王国アメリカ、小学校や中学校でサッカーをやっていた学生も結構いて、いい感じで攻撃。ゴール右上隅にループシュートを放つ。ナイスゴーール！！と皆で盛り上げようとしたら、GKに入ったリット、GKとしてのいないプライドが働いて、弾く。「初心者は成功体験が大切！お前は教育者だろうー！」外で見ている日本人皆ブーイング。そしたら、セーブしただけではなく、ボールを持って、次々と初心者の女の子を抜き出した。まさにKY。きっと、外人のかわいい女の子に囲まれて、いかれてしまったらしい。ふと我に返り、近くの味方にパスをして、すごすごとゴールにもどっていきました。いずれにしても、授業を取った学生さんたちは、楽しんだようで、よかったよかった。

その後、MHC Athletic Director の Professor Laurie Priest の「マウントホリヨーク大学の体育教育とアスレティクスの歴史」を講演していただきました。全米の100人の教育者の殿堂にも入っているローリー。女性スポーツの発展に尽力してきた、とても包容力のある素敵な人物です。忙しい中、毎年私たちのために時間を作ってくれていて、感謝感謝。講義後の皆の質問もなかなかよくて、なかでも、「どうやって、監督を選考するのか」というリットの質問に、大学の運動部のコーチ（プロ）をどうやって選ぶかプロセスを教えてくれた。ひとつのポジションに、100以上の候補者が来て、それを数人の選考委員会で精査し、面接をし、実際に指導をさせ、大学の組織の中でやっているかどうか、学校にメリットがあるかどうかで、決めるそうだ。へー、監督になるのってそんな大変なんだ。かなえて、そんな中でまさに選ばれた人物なんだ。「かなえては、競技暦も高く、スミスカレッジでコーチ学の修士を取り、今PhDを目指して、海外の学会でもMHCの名前を名乗って数々の発表をし、人物的にもコミュニケーション能力が高く、計画性もあり、ビジョンを高く持ち、勉強とスポーツの両方を目指すマウントホリヨークの指導者としては、申し分ない候補者だった」というローリーの言葉に、皆、かなえてすごいのよ！

午後は、MHC女子サッカー部の選手が、皆をランチとキャンパスツアーに案内、植物園、図書館、美術館（すべて大学のもの）を巡ったそうです。

ブリッジチームとしては、最後の試合となるU-Massへ。ナイター設備の関係により、アメフトの大きなスタジアムでゲーム。D1のいい相手に、いい試合をしようとキックオフ。6分、アヤから左に流れたキヨが、ロングシュート。逆サイドのネットに突き刺さる！半年ゴールをしていなかったキヨが、2日で2点！サンキュー。相手も無闇に蹴らないで、グランダーでつないで来る。22分バイタルに入ってきた相手が、振り向きざまにシュート。同点。1-1でハーフタイム。後半も一進一退が続き、こちらのチャンスもあったが、25分、左サイドを攻め込まれて、相手のシュートが決まる。1-2。最後まであきらめず、皆も自分ができる

ことを存分に発揮していたが、そのまま試合終了。結果は出なくて残念でしたが、皆、やりきった感はあったと思います。

2010-03-26

Bridge2010 サッカークリニック

9:45 に日本語の生徒が迎えに来てくれて、日本語の授業に参加。水曜日にペアになって聞いた人の紹介を、日本語です。そして、日本人は、そのペアの子の紹介を英語で。日本人の1年生はとても上手に紹介。その後、紹介された日本人が日本語で、自分の出身地やその方言などを紹介。その後、一緒にランチを食べに行く人、スーパーに買い物にした人に分かれる。

15:30 からのサッカークリニックは、Coaching Exchange. MHC のコーチ Catharine と GK コーチ Megan が日本人を指導。私とリットが、MHC の選手を指導。かなえがサボりたいばかりに始まったこの企画。なかなかいいアイデアだった。

MHC の子達は（というかアメリカ人総じて）、足元のテクニックがあまり得意でないので、パス&コントロールをテーマにして、トレーニングをしました。MHC の選手たちが、ブリッジ選手たちを食事に連れて行ってくれました。迎えに来てくれた選手たちの車が、ポルシェやジープで、皆びっくり。楽しい食事会となりました。

2010-03-27

Bridge2010 MAZ vs SAMURAI SWAN

今日は MHC & ブリッジを二つに分けて、対戦！私が監督となったサムライスワンは、前半からゲームを支配し前半だけで、6対0。大差のおかげで、後半からはみーみ（小林美由紀氏）も登場。なかなかの活躍ぶり（かなり満足）。6-0 で試合終了。日本語の生徒たちもたくさん応援に来てくれました。

その後、MHC サッカー部と日本語学生とブリッジで、さよなら交流会。準備した芸だしもお互い大うけ。AKB48「会いたかった」を全員で踊り、宴もたけなわに。

2010-03-31

Bridge2010 無事帰国

本日 14:30 頃、多少の遅れはありましたが、無事に成田に到着。飛行機が飛んでこんな安心したことはありません。2 日間の日程のずれで、多くの方にご迷惑をおかけしました。

Bridge2011

2011-03-16

Bridge2011 アメリカ到着！

ブリッジ史上、参加者最大の36名。地震原発でさまざまなイベントがキャンセルされる中、敢えて決行を決めました。

東北地方の参加者がたまたまいなかったこともあり、36名全員が参加。

計画停電などの影響で、交通網が乱れており、成田集合が大変だと思っていましたが、ほぼ全員が集合時間までに到着。成田空港近くホテルに前泊したもの数名。ホテルが満杯で、成田空港で一夜をあかしたものの2名。

36名ともなると、学校の1クラス分。さすがに多い。名前も覚えきるまで時間かかりそうだが、恒例の英語で自己紹介。震度5くらいの地震の中、みーみ（小林美由紀氏）の説明（私は全く地震に気づいていなかったのだが、）。そして、出国。

とりあえず、全員がアメリカ上陸。案の定、かなえ（羽石架苗氏）達はまだ来ていない。

皆でバスに乗って、マンハッタンのホテルへ（ホテルとはいえない、いわゆるホステル安宿）フロントは1人しかいなくて、その兄ちゃんが異様に効率悪くて、チェックインするまで1時間半以上かかる。ま、これもアメリカか。

現地合流組は、Franklin Pierce Uのあや（野口亜弥氏）とあやのルームメイトのブラジル人Eize、Lindsey Wilson Cのぐり、さき、麗子、Laramie Community Cの仙台でご両親が被災した純子、しのプラスかなえの8人が合流して、全部で44名！皆で、タイムズスクエアへ繰り出す。もちろん、全員で入れる店はないので、その場で放置。夕飯食ってこーい。しかし、多くの子たちは、イタリアンのファーストフード系の店で、食。スモールと言ったのに、日本では大きなお皿にたくさんもられて、腹一杯。アメリカサイズを体験。皆疲れているので、明日の連絡をして今夜は解散。

2011-03-17

Bridge2011 First practice!

リバーサイドの人口芝のグラウンドで練習。ヒスパニックの人たちが、既にいたののだが、快くどいてくれた。公園に普通に人工芝のピッチがあって、勝手に使えるという。

軽くといいながら、ボール取り合いやらでかなり結構やりました。最後は、生活班を決めて、ミニゲーム。班長7名はこちらで任命。これから各確認をお願い。

ニューヨーク1日目はお決まりのコースへ。自由の女神へ。36名。そのあと、グラウンドゼロに行き、希望者はNBA.

NY Knicks vs Memphis セントパトリックデーにあわせて、ユニフォームは緑。満員。数

日前から、あやがとってくれていたおかげで、皆で観ることができました。Knicks が大差で勝つ中、眠気に負けた輩たちもいた。帰り、地下鉄をうっかり乗り過ごしてしまった数名。しかし、無事に帰ってきました。

一人で行動していた Eize がなかなか帰ってこず、あやを怒らせました。

明日は、初めてのゲーム。楽しみ！

2011-03-18

Bridge2011 初試合。ぼこぼこ。

今日は、初ゲーム。電車とバスを乗りついて、ロングアイランドの Hofstra University へ。今回のツアーは、東日本大震災の犠牲者への方への哀悼を示し、試合前に全員で黙祷をする。センターサークルで、全員が手をつないで A Minute of Silence. 神聖な気持ちになる。足に黒リボンをつけて試合をします。観客の方には募金もお願いした。

NCAADivision1 でこの地域では強豪校の Hofstra University とは、いつも初戦でこてんぱんにされる。今回は、数を持って剛を制す？と試合に臨む。このメンバーが会って二日目、どんなプレーをするかもわからない中、「チームメイトを敵にしない」を合言葉に、キャプテンやまのかけ声でまとまって、キックオフ。相手の選手は、皆大柄。ボールを持ちながらいつものペースでいると、大体取られる。7分、コーナーキックから、ヘディングで先制される。その後、裏に走り込まれて、20分、28分、31分と連続失点。0-4でハーフタイム終了。時差ほけで体が動かないとはいえ、結局いつも通り。数が多いからいいわけではなかった。相手の疲れもあるとはいえ、自分たちで持ちながら、相手陣地で攻めることができた。しかし、後半15分失点。5点目。後半終盤に数本シュートはあったが、0-5。いつもと同じ幕開け「アメリカ人、なんか強い」数が多いから強いってもんじゃない。

17:30から2試合目。Queens University. Hofstra より明らかに、力が劣る相手。パスも雑、ボールコントロールも今一歩。しかし、ブリッジチームもなかなかボールが落ち着かなくて、ぐちゃぐちゃ14分失点。41分2点目の失点。そして立て続けに3点目をお見舞いされる。この辺から、あやかは精神の支障を来していたらしい。43分頃「おばばさん、だめっばいです」とピッチ内からSOSの声。慌てて、一度出ていたりかを入れる。あやかは過呼吸リタイア。

気を取り直して後半。ばたばた感は否めなかったけど、シュートチャンスもあった。しかし、21分4点目の失点。0-4。試合終了。仲良く両チームともこてんぱんにやられました。慣れもあります。その証拠に、ブリッジ2010のメンバー、はるな、ひろは、去年はへろへろだったのに、十分対処してました。さて、お土産交換の後は、恒例のフォトセッション。チームがミックスして、集合写真。おかげさまで募金は112ドル。震災への関心の深さを改

めて感じました。

2011-03-19

Bridge2011 St. Johns

昨日のミーティングを朝にして、その後、留学の体験説明会を希望者宛に実施。

今日の目的地、St. John's は、地下鉄と路線バスを乗り継いで行くので、30分4本のチームごとに分けて、時間差で移動。結構複雑だったので、多少の不安はあったが、全てのグループが時間通りに到着。

St. Johns は、NCAA Division1 で、何度も NATIONAL TOURNAMENT (いわゆる全国大会)に出場している昨日の Hofstra に並ぶ強豪校。向こうも気合が入っている。ブリッジチームは、GK 2人、フィールド 40人で、4チームが全てメンバーが違う。今日の目標は、まずは、最初の10分は、絶対に失点をしない。そして、ハードワーク。ちょっとでもサボったらすぐ変えると脅す。

1本目は、サッカー経験の浅い右DFのカンちゃんは、ボールウォッチャーになっては、私に怒鳴られまくりだったけど、本当に皆ハードワークして、10分は凄い。18分で失点して、最終的には0-2。2本目。Eize が左サイドバック。長い足で相手のチャンスを封じる。去年は接触するだけで倒れていたサキは、さすがアメリカでプレーしているだけあって(まあ10kg)、ボランチでゲームを作り、サンディエゴまきがチャンスも作り、0-0。3本目は0-2。そして、万を時して4本目。相手の疲れもあり、こちらのペース。ラスト10分、点を決めると、あやさん投入。ナイススルーパスで再びあやか。1対1……………シュート。ふかす。無情な終了のホイッスル。最後は0-2。43人全員が自分の役割を果たし、よく頑張ってくれました。

順次帰って、ミュージカル。アヤが苦勞して取ってくれた甲斐あって、当日券は売切れ。マンマミーア、ライオンキング、アダムスファミリーに分かれて、ちょっと文化的な活動。

2011-03-20

Bridge2011 Outlet shopping!

待ちに待ったアウトレットショッピング Day! このためにきた人も多いのではないかな。

昨日の夜病院から帰って来たチッパには、ホテル待機命令。大泣き。

10:00の開店前に到着。皆、試合前のアップより入念に店巡り計画を立てる。

純子、しのが今日で帰るので、昼に一度集合。2日間で集めた募金165ドル。純子に皆の気持ちと共に渡す。集合時間を16:00まで伸ばしてまた皆、それぞれに散る。大満足で、バスでホテルまで。

夜は皆それぞれにタイムズスクエア、エンパイアステート、ロックフェラーセンターの夜景を見に散る。ニューヨークの歩き方も会得してきたブリッジーズ。

2011-03-21

Bridge2011 vs SUNY Stony Brook

電車の中で募金活動

今日は雨。ロングアイランドの SUNY Stony Brook へ。ロングアイランドレイルウェイ (LIRR) に乗って、11 時に駅に着く。途中雪が降っていたりして、外に出ると思うとぞっとする。時間があつたので、それぞれ駅近くのファーストフードやカフェへ。カフェテリアのお姉さん、日本人がたくさん押し寄せてきてびっくり。でも、笑顔で迎えてくれる。

今日は 30 分 3 本。一人、20 分または 30 分間を割り当てる。Stony Brook も、Hofstra と似たようなスタイル。身体能力が高く、裏に蹴ってくる。「コミュニケーションを取って、状況に応じた判断ができるようにしよう。」と送り出す。

1 本目押し気味でゲームを進める。21 分、失点。0-1。2 本目 18 分、左 DF みゅうのアーリークロスが、ゴール前のひろみにどんびしゃ。シュートは GK キャッチ。21 分にもひろみがシュートを打つが、2 本目は 0-0 で終了。ラスト 3 本目、昨日のミーティングでアピールしただけあって、序盤から積極的にごりごり行く。6 分、ボランチあかねが、相手 DF の股を抜いて、前線のと一まに、そのままワンツー。あかねは昨日の宣言通り、ゴールにシュートをぶち込んだ！ ツアー初得点！ しかしその 7 分後、同点にされる。今日は左 MF に入ったさやかも天下の早稲田の 10 番の片鱗を見せ、果敢に攻める。ラスト 3 分、2 点目をぶち込まれる。あんなに攻めたのに、なぜか 1-2。全体で、1-3。いいゲームだったが、やっぱり勝てないなあ。明日こそは！！

4 本目は、希望者が残って、紅白戦。O20 vs U20。さすが若者勢いがあり 2 点を先制。

16:00 にゲームを終えて、大速攻で 16:19 の電車に乗る。雨のせいもあって、今日の試合での寄付金は、16 ドル。さやかとりえて、電車で Fund-raising。ひろは車掌さんにだめだと言われ止められたのに、さやか達は、次々と寄付を集める。そして、乗り換えのプラットフォームでも集めて、最終的に、65 ドル。ドネーションさやか流石です！ まるは、地下鉄で募金の箱を持って立っていたら、1 ドル入れてくれたんだって。

10 時半ミーティング。

2011-03-22

Bridge2011 さよならニューヨーク！

ニューヨーク最後の試合。45 分ハーフ vs Manhattan College。4 グループに分かれる。試

合を追うごとによくなっているのです、今回は勝とう！と気合いを入れる。

1 本目（22 分半）ディフェンスのバランスが悪くて、試合はぐちゃぐちゃになる。その上に GK しゅーこが投げたボールが相手 DF にいいアシストになってしまい、そのままシュートをくろう。辛うじて枠を外れる。右サイドハーフのまるのいいクロスを受けたマナが、さやかにパス。シュート。しかし、12 分、カウンターから、相手に決められる。0-1。あやかが左からするすると抜けていって、シュートまで行くが、決まらず。そして、全交代。交代してすぐに、簡単に中盤でボールを失い、相手抜け出して 2 失点目。

気を取り直して後半。序盤からこちらのペース。ひかり、やま、ぐり、ひろみ、左サイドバックのなぎさもあがって、シュートを放つが、ノーゴール。そして総交代。右からのクロスに、左サイドハーフのみさきがゴール前でフリー！！あとは決めるだけ！！な・の・に、外す。同じような場面がもう一回。後半はそのまま 0-0。結局 0-2 で負け。シュートの数は、圧倒的にブリッジチームの方が多い。なぜ勝てない。勝ちたい気持ち？責任感の問題？

私たちは、バスでいざマサチューセッツへ。2 時間あまりでチコピーの Hampton Inn に到着。部屋はくじ引きで決める。マットの厚さはニューヨークの 4 倍、部屋は 2 倍の広さ。フリーのドリンクはある。部屋にインターネットはつながっている。皆、ニューヨークのホテルとの格差に、大喜び！！

道路向かいのチャイニーズビュッフェに皆で食べにいき、9 時にミーティング。今日の反省と、一人ずつの決意を話す。

2011-03-23

Bridge2011 マウントホリヨーク 1 日目



マウントホリヨーク大学へ。日本語の授業に参加。日本語の授業を取っている学生のインタビューを受ける。1 年生は半年、最大でも 3 年間しか勉強していないのに、そのうまさに皆驚愕！日本人は少なくとも 6 年間は英語教育を受けているはず。自分の英語力との差に愕然。

日本の英語教育の問題か？ペアを組んで、その子たちとランチを食べ、キャンパスを案内してもらう。

14:30にMHCを出発して、CCSU (Central Connecticut State University) へ。16:30のキックオフ予定で、15:40位に到着。誰もいない。しばらくバスで待機。コーチがやってきた。「地震があって、その後連絡がなかったので、来ないと思った。こちらから連絡するのも悪いと思って。」とのこと。そっかあ。 確認すべきでした。反省。

しかしながら、選手はいたので、その地域のユースエリートチーム SoccerPlus CT のU18、U17と時間まで試合をする。途中雪が降ったりして、天候も寒い、ゲームも寒かった。帰りに、マウントホリヨークモールに行き、夕飯。夕飯取らずに買い物している輩も。帰ってきてミーティング。プレー時間がなかなか確保できなくて、不満がたまっていることもあり、なかなかいい試合ができないなあ。なんとかしなければ、、、残りあと2試合。



2011-03-24

Bridge2011 MHC2 日目

朝8時半に出発し、MHCへ。昨日からのモヤモヤを山が、「皆でできることをやって、サッカーを楽しもう。」と、声がけしてくれて、初級サッカーの授業の前の約1時間、今日のチーム (yongs 大学1年+2年+姉さんなつみ vs adults 大学3年以上+高校生の若いエクス) に分かれて紅白戦。姉さんなつみがきれいに抜け出してシュートを決めて、これは yongs の勝ち。

かなえの初級サッカーの授業手伝う。一般の学生とペアになって、ウォーミングアップ、コーン通し、ミニゲームをする。MHCの学生も日本人も皆楽しんだ。

11時半から、MHCのアスレティックディレクター (体育部門部長) の Lory Priest さんの

アメリカの女子スポーツの講義。ローリーは、アメリカのスポーツの発展に寄与した全米100傑で表彰された、アメリカの女子スポーツに尽力したすごい人物。男女平等が日本より進んでいるアメリカでさえ、大学のアスレチックディレクターの女性は3割ほど。皆、大学の講義より熱心に聞き入る。あつこの難しい質問から始まって、みな積極的に質問をする。ローリーからのキーワード。“If you think women's sport is not popular in Japan, you are the one to make change. Don't stay there just complain. もし、日本で女子のスポーツが盛んでないと思うのであれば、あなたが変わればいい。現状を嘆いているだけでは、何も始まらない。” まだ女子がスポーツをすることが社会的に認められていなかった高校時代を過ごし、今もなおより良い環境を作ろうと闘っているローリーならではの言葉。皆、きっと日本では、女子のスポーツのことなどあまり考えたことなかったと思うけど、とてもいい刺激になったと思います。実際、過去のブリッジ経験者もサッカーやスポーツに関わってがんばっている人も多い。ブリッジは、アメリカの環境をみて、自分の人生になんらかの刺激を受けて、より豊かな人間になって欲しいと思い、かなえと二人で始めたわけで、そんなエキスが少しでも参加者のみんなに伝わったら嬉しいな。

その後、それぞれにランチを食べて、かなえのヨガの授業に出たりして、2時半に集合。UMassへ。young チームと adults が、昨日ミーティングをして、メンバーを決めた。アップの時間はあまりなかったけど、気持ちが込めて試合にはいる。34分相手CK。なぜかでっかい二人がゴール前でどフリー。そのうちの一人に合って、ゴール。万事休す。0-1。adult チーム、2点とって勝とうと後半に臨む。トチャンスはあるが、入らない。そして、残りあと2分。スローインからバイタルエリアで、相手をフリーにしてしまう。キーパーの上の抜くいいシュート。0-2。またもや、シュートをたくさん打っていたのに、負けてしまった。

その後、UMass の取り計らいで、ダイニングホールで夕飯をUMass の選手たちと交流。UMass は、私たちのためにすしやうどんというスペシャルメニューを用意してくれた。



UMass はさすが、大きい大学だけあって、学生でごった返している中、いろんなメニューがたくさんあって、日本人は、この時とばかりに皆がつく。UMass のコーチの娘さん（10歳と5歳）のクラスで、日本人の選手のために、カードを作ってくれて皆に配る。とてもスイート。いい夜を過ごしました。

2011-03-25

Bridge2011 交流会

今日は日本語の学生が、日本人の選手たちを日本語で紹介する日。一昨日と今日、担当がインタビューをして、一人ずつ紹介。皆、うまい。日本人選手も日本語での話だけあって、しっかりとやる。その後、恒例のメインイベントの芸だし。皆、昨日の夜ロビーで、ホテルの人に怒られたりしながら、練習した成果を披露。

最初、千手観音。これはどうもアメリカ人にはピンと来なかったらしい。2つめ、1班3班合同のソーラン節。なかなか圧巻。3つめ、アヴリル・ラビーンのへん顔軍団。4つめ、ジェスチャーゲーム。5つめ、デブビヨンセ4人衆（まき、あい、やま、とーま）大受け。さすが皆アスリート。やる時はやる。その後、日本語の学生と Kendall で、日本語コース、MHC サッカー提供のピザパーティー。

その後、早めにグラウンドに繰り出して、ゲームしたり、回ししたり。

日米エクステンジのサッカークリニックは、15時半開始。日本人選手は、Coach Carly と Coach Terry がクリニック。ウォーミングアップが結構きつかった。ドリブル競争。クロスからのシュート。1対1。そしてゲーム。競争物が多く、かなり盛り上がった。マウントホリヨークの選手たちは、とーまコーチが指導。テーマは、‘Individual Skill 個人技術’ フェイントを8種類ドリルして、その後ゲーム。私が通訳のはずだったが、その必要はなし。つ



たないながらも英語とデモンストレーションで、ばっちり選手たちには伝わっていた。すばらしい！！

その後、マウントホリヨーク大学の選手たちと大学のハウスで交流会。これもMHCサッカー部のスポンサー。皆、それぞれに交流を深めました。

2011-03-26

Bridge2011 最後の試合 チャリティマッチ

今日は、最後の試合。マウントホリヨーク大学あげて、日本の地震の犠牲者のためのチャリティマッチ。

いざ、試合会場のMHCへ。今日は、最後の試合なので、全員で、みっちり1時間アップ。声も出て、雰囲気もいい。全員の選手が入場し、アナウンスで怪しい名前ながら紹介され、アメリカの国歌のあと、君が代が流れる。1分間の黙祷で、今日までの10日間、最後の試合への想い、地震の犠牲者の人のことを思い、心を洗い、試合に向けて集中力を高める。

前半は、前回と同じヤングチーム。応援ソングも観客を巻き込んでノリノリ。28分、たかちのミドルシュートが、ゴールに突き刺さる！！！！先制！しかし、その5分後、センターバックマオのパスミスで右サイドの弾丸マロニー（多分名前は違うが私はそう呼ぶ）に展開され、クロスに合わされ失点。まさかの同点。

後半のアダルトのために最高の舞台が用意された。開始1分、右サイドバックのトーマからのクロスが、逆サイドゴール前にいたゆうみにピンポイントで入り、ヘディングゴール！！まる、まーこも果敢にゴールに迫る。19分、右サイドのまる（カンペー）から、前線のあいと落として、やまシュート！3-1。勢いついて、もはやワンサイドゲーム。そして、34分攻めたくてウズウズしていたセンターバックゆかが、スルスル上がってきて、ついにゴール！5対1。ブリッジチーム、初勝利、ついに一つになる。

3本目は、MHCとの混合チーム。足元はそれほどうまくはないけど、常に前に行こうとする姿勢に学ぶことも多い。皆つたない英語でコミュニケーションを取ろうとした。仲良く0-0。

その後、MHCサッカーチームとの交流会。

2011-03-27

Bridge2011 サヨナラアメリカツアー

かなえにバイバイ。いろいろ裏方ありがとう。

スーツケースの重量にヒヤヒヤしていたけど、厳しいチェックはなく、私たち33人以外は、既に全員乗り込んでいた（--;) 係員のオバちゃんは怒り気味。

今年は、無事にその日に帰れそうです。

2011-03-28

帰国

予定より1時間も早く成田到着。行きも帰りもバゲージロストもなく、素晴らしいね。これからまた飛行機や深夜バスで帰る人は大変だ。日本がこんな大変な中、快く送り出してくださった、家族の方々に感謝。

最後の最後に一つになったチーム。またブリッジファミリーが大きくなった。この経験と絆をどう生かすかは、自分次第。私も今回はいろいろ勉強になりました。また会いましょう。お元気で。何かあればいつでも、みーみ宅に掃除にきてください。